

教育研究業績書

2025年05月07日

所属：薬学科

資格：教授

氏名：川崎 郁勇

研究分野		研究内容のキーワード
有機合成化学		有機化学・合成化学・複素環化学
学位		最終学歴
博士(薬学)		京都薬科大学大学院 薬学研究科 薬品合成化学専攻 修士課程 修了
教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 双方向型の授業実施	2023年	小グループ討論および質疑応答および必要に応じてコメントを補足することで、双方向型の授業を実施した
2. 双方向型の授業実施	2023年	実習終了時に毎回全学生対象に口頭試問をし、必要に応じて説明を追加するなど、学生の理解度に合わせた双方向型の授業を実施した
3. 双方向型の授業実施	2023年	小テストを実施し学生の理解度を確認するとともに、必要に応じて宿題やレポートを提出させ、さらに添削して返却することで、双方向型の授業を実施した
4. マルチメディアを利用した授業実施	2023年	パワーポイント、液晶プロジェクター等を積極的に活用して基礎的な有機化合物に関する講義を実践し、理解の助けとした
5. マルチメディアを利用した授業実施	2023年	スペクトルチャートの実物を映写して示しながら講義することで、視覚的認識から科目理解を容易にさせるよう努めた
6. 講義動画配信を利用した遠隔授業実施と対面実施のハイブリッド型授業実施	2023年	講義動画配信を利用した遠隔授業においては、オンデマンド配信を利用して遠隔で科目内容の復習を容易とすることで理解が深まるよう努めた。
7. 双方向型の授業実施	2022年	小グループ討論および質疑応答および必要に応じてコメントを補足することで、双方向型の授業を実施した
8. 双方向型の授業実施	2022年	実習終了時に毎回全学生対象に口頭試問をし、必要に応じて説明を追加するなど、学生の理解度に合わせた双方向型の授業を実施した
9. 双方向型の授業実施	2022年	小テストを実施し学生の理解度を確認するとともに、必要に応じて宿題やレポートを提出させ、さらに添削して返却することで、双方向型の授業を実施した
10. マルチメディアを利用した授業実施	2022年	パワーポイント、液晶プロジェクター等を積極的に活用して基礎的な有機化合物に関する講義を実践し、理解の助けとした
11. マルチメディアを利用した授業実施	2022年	スペクトルチャートの実物を映写して示しながら講義することで、視覚的認識から科目理解を容易にさせるよう努めた
12. 講義動画配信を利用した遠隔授業実施と対面実施のハイブリッド型授業実施	2022年	講義動画配信を利用した遠隔授業においては、オンデマンド配信を利用して遠隔で科目内容の復習を容易とすることで理解が深まるよう努めた。
13. 双方向型の授業実施	2021年	小グループ討論および質疑応答および必要に応じてコメントを補足することで、双方向型の授業を実施した
14. 講義動画配信と対面での双方向型を組み合わせた授業実施	2021年	オンデマンド配信と対面実施を組み合わせ、対面実習終了時に毎回全学生対象に口頭試問をし、必要に応じて説明を追加するなど、学生の理解度に合わせた双方向型の授業を実施した
15. 双方向型の授業実施	2021年	小テストを実施し学生の理解度を確認するとともに、必要に応じて宿題やレポートを提出させ、さらに添削して返却することで、双方向型の授業を実施した
16. マルチメディアを利用した授業実施	2021年	パワーポイント、液晶プロジェクター等を積極的に活用して基礎的な有機化合物に関する講義を実践し、理解の助けとした
17. マルチメディアを利用した授業実施	2021年	スペクトルチャートの実物を映写して示しながら講義することで、視覚的認識から科目理解を容易にさせるよう努めた
18. 講義動画配信と演習問題配信を組み合わせた双方向	2021年	遠隔授業においては、オンデマンド配信と演習問題配

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
型の遠隔授業実施と対面実施のハイブリッド型双方向授業実施		信を組み合わせることで、遠隔で科目内容の理解・定着できるよう努めた
19. 講義動画配信を利用した遠隔授業実施と対面実施のハイブリッド型授業実施	2021年	講義動画配信を利用した遠隔授業においては、オンデマンド配信を利用して遠隔で科目内容の理解ができるよう努めた。
20. マルチメディアを利用した授業実施	2020年	パワーポイント、液晶プロジェクター等を積極的に活用して基礎的な有機化合物に関する講義を実践し、理解の助けとした
21. マルチメディアを利用した授業実施	2020年	スペクトルチャートの実物を映写して示しながら講義することで、視覚的認識から科目理解を容易にさせるよう努めた
22. 講義動画配信と対面での双方向型を組み合わせた授業実施	2020年	オンデマンド配信と対面実施を組み合わせ、対面実習終了時に毎回全学生対象に口頭試問をし、必要に応じて説明を追加するなど、学生の理解度に合わせた双方向型の授業を実施した
23. 講義動画配信と演習問題配信を組み合わせた双方向型の遠隔授業実施	2020年	オンデマンド配信と演習問題配信を組み合わせることで、遠隔で科目内容の理解・定着できるよう努めた
24. 講義動画配信を利用した遠隔授業実施	2020年	オンデマンド配信を利用して遠隔で科目内容の理解ができるよう努めた
25. 双方向型の授業実施	2019年	小グループ討論および質疑応答および必要に応じてコメントを補足することで、双方向型の授業を実施した
26. 双方向型の授業実施	2019年	実習終了時に毎回全学生対象に口頭試問をし、必要に応じて説明を追加するなど、学生の理解度に合わせた双方向型の授業を実施した
27. 双方向型の授業実施	2019年	小テストを実施し学生の理解度を確認するとともに、必要に応じて宿題やレポートを提出させ、さらに添削して返却することで、双方向型の授業を実施した
28. マルチメディアを利用した授業実施	2019年	パワーポイント、液晶プロジェクター等を積極的に活用して基礎的な有機化合物に関する講義を実践し、理解の助けとした
29. マルチメディアを利用した授業実施	2019年	スペクトルチャートの実物を映写して示しながら講義することで、視覚的認識から科目理解を容易にさせるよう努めた
30. 双方向型の授業実施	2018年	小グループ討論および質疑応答および必要に応じてコメントを補足することで、双方向型の授業を実施した
31. 双方向型の授業実施	2018年	実習終了時に毎回全学生対象に口頭試問をし、必要に応じて説明を追加するなど、学生の理解度に合わせた双方向型の授業を実施した
32. 双方向型の授業実施	2018年	小テストを実施し学生の理解度を確認するとともに、必要に応じて宿題やレポートを提出させ、さらに添削して返却することで、双方向型の授業を実施した
33. マルチメディアを利用した授業実施	2018年	パワーポイント、液晶プロジェクター等を積極的に活用して基礎的な有機化合物に関する講義を実践し、理解の助けとした
34. マルチメディアを利用した授業実施	2018年	スペクトルチャートの実物を映写して示しながら講義することで、視覚的認識から科目理解を容易にさせるよう努めた
35. 双方向型の授業実施	2014年	小グループ討論および討論内容発表を実施することで、学生相互の討論、質疑応答および必要に応じてコメントを補足することで、双方向型の授業を実施した
36. 双方向型の授業実施	2014年	実習終了時に毎回全学生対象に口頭試問をし、必要に応じて説明を追加するなど、学生の理解度に合わせた双方向型の授業を実施した
37. 双方向型の授業実施	2014年	小テストを実施し学生の理解度を確認するとともに、必要に応じてレポートを提出させ、さらに添削して返却することで、双方向型の授業を実施した
38. 双方向型の授業実施	2014年	ループでの課題研究および研究発表会を実施し、学生相互の質疑応答および必要に応じて解答を補足することで、双方向型の授業を実施した
39. マルチメディアを利用した授業実施	2014年	パワーポイント、液晶プロジェクター等を積極的に活用

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
40. マルチメディアを利用した授業実施	2014年	用して重要天然有機化合物に関する講義を実践し、理解の助けとした スペクトルチャートの実物を映写して示しながら講義することで、視覚的認識から科目理解を容易にさせるよう努めた
41. 双方向型の授業実施	2013年	薬剤師国家試験対策において、学生レポートの添削指導を行った。
42. 双方向型の授業実施	2013年	実習終了時に毎回全学生対象に口頭試問をし、必要に応じて説明を追加するなど、学生の理解度に合わせた双方向型の授業を実施した
43. 双方向型の授業実施	2013年	レポート形式の宿題を課し、学生の理解度を確認するとともに、必要に応じて添削して返却し、双方向型の授業を実施した
44. 双方向型の授業実施	2013年	小テストを実施し学生の理解度を確認するとともに、必要に応じてレポートを提出させ、さらに添削して返却することで、双方向型の授業を実施した
45. 双方向型の授業実施	2013年	グループでの課題研究および研究発表会を実施し、学生相互の質疑応答および必要に応じて解答を補足することで、双方向型の授業を実施した
46. マルチメディアを利用した授業実施	2013年	パワーポイント、液晶プロジェクター等を積極的に活用して重要天然有機化合物に関する講義を実践し、理解の助けとした
47. マルチメディアを利用した授業実施	2013年	スペクトルチャートの実物を映写して示しながら講義することで、視覚的認識から科目理解を容易にさせるよう努めた
48. 双方向型の授業実施	2012年	薬剤師国家試験対策において、学生レポートの添削指導を行った。
49. 双方向型の授業実施	2012年	グループでの課題研究および研究発表会を実施し、学生相互の質疑応答および必要に応じて解答を補足することで、双方向型の授業を実施した
50. 双方向型の授業実施	2012年	実習終了時に毎回全学生対象に口頭試問をし、必要に応じて説明を追加するなど、学生の理解度に合わせた双方向型の授業を実施した
51. 双方向型の授業実施	2012年	レポート形式の宿題を課し、学生の理解度を確認するとともに、必要に応じて添削して返却し、双方向型の授業を実施した
52. 双方向型の授業実施	2012年	小テストを実施し学生の理解度を確認するとともに、必要に応じてレポートを提出させ、さらに添削して返却することで、双方向型の授業を実施した
53. マルチメディアを利用した授業実施	2012年	スペクトルチャートの実物を映写して示しながら講義することで、視覚的認識から科目理解を容易にさせるよう努めた
54. マルチメディアを利用した授業実施	2012年	パワーポイント、液晶プロジェクター等を積極的に活用して重要天然有機化合物に関する講義を実践し、理解の助けとした
55. 双方向型の授業実施	2011年	実習終了時に毎回全学生対象に口頭試問をし、必要に応じて説明を追加するなど、学生の理解度に合わせた双方向型の授業を実施した
56. 双方向型の授業実施	2011年	レポート形式の宿題を課し、学生の理解度を確認するとともに、必要に応じて添削して返却し、双方向型の授業を実施した
57. 双方向型の授業実施	2011年	小テストを実施し学生の理解度を確認するとともに、必要に応じてレポートを提出させ、さらに添削して返却することで、双方向型の授業を実施した
58. マルチメディアを利用した授業実施	2011年	スペクトルチャートの実物を映写して示しながら講義することで、視覚的認識から科目理解を容易にさせるよう努めた
59. マルチメディアを利用した授業実施	2011年	パワーポイント、液晶プロジェクター等を積極的に活用して重要天然有機化合物に関する講義を実践し、理解の助けとした

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
60. 双方向型の授業実施	2010年	実習終了時に毎回全学生対象に口頭試問をし、必要に応じて説明を追加するなど、学生の理解度に合わせた双方向型の授業を実施した
61. 双方向型の授業実施	2010年	毎回レポート形式の宿題を課し、学生の理解度を確認するとともに、必要に応じて添削して返却し、双方向型の授業を実施した
62. 双方向型の授業実施	2010年	小テストを実施し学生の理解度を確認するとともに、必要に応じてレポートを提出させ、さらに添削して返却することで、双方向型の授業を実施した
63. マルチメディアを利用した授業実施	2010年	スペクトルチャートの実物を映写して示しながら講義することで、視覚的認識から科目理解を容易にさせるよう努めた
64. マルチメディアを利用した授業実施	2010年	パワーポイント、液晶プロジェクター等を積極的に活用して重要天然有機化合物に関する講義を実践し、理解の助けとした
65. 双方向型の授業実施	2019年	小グループ討論および質疑応答および必要に応じてコメントを補足することで、双方向型の授業を実施した
2 作成した教科書、教材		
1. 「教科書」コンプリヘンシブ基礎化学 第2版	2022年11月	大内秀一、小関稔、川崎郁勇、多賀淳、堀山志朱代 著、京都廣川書店 ISBN: 978-4-910844-07-7
2. 「教科書」Innovated 構造解析プラクティス 第2版	2018年9月	川崎郁勇、森川敏生、田邊元三 著、京都廣川書店 ISBN: 978-4-909197-19-1
3. 「教科書」テルベン利用の新展開	2016年8月	シーエムシー出版 ISBN: 978-4-7813-1170-8
4. 「教科書」化学構造と薬理作用 医薬品を化学的に読む	2015年3月	廣川書店より出版 ISBN: 978-4-567-46241-9
5. 「教科書」実用薬学英語	2015年1月	日本薬学会編、東京化学同人 ISBN: 978-4-8079-0865-3
6. 教科書「有機医薬品合成化学 ターゲット分子の合成」	2011年	有機化合物の合成戦略において、官能基、位置および立体選択性について概説し、代表的な反応例を解説した。廣川書店より出版 西出喜代治、前崎直容 編集、池田潔、川崎郁勇、鳥山正晴、春沢信哉、細井信造、本橋重康、山下正行著 ISBN: 978-4-567-46230-3
7. 教科書「Innovated 構造解析プラクティス」	2010年9月	有機化合物の構造解析に用いられる、各種スペクトルの概要および解釈について解説し、演習問題を通して理解が深まるような教科書を作成した。桑島博 編集、川崎郁勇、田邊元三 著、京都廣川書店より出版。 ISBN: 978-4-901789-35-6
8. 教科書「有機化学 explorer: 有機化学で未来をひらけ」	2009年8月	演習問題、例題を通して、有機化学について自ら学び考え身に付けるための教科書を作成。竹本佳司 編集、川崎郁勇、白井隆一、西出喜代治、前崎直容 著、京都廣川書店より出版 ISBN: 978-4-901789-34-9
9. 高校化学リメディアル教育教材	2008年04月	高校で化学未履修者および履修不十分者に対する、薬学化学分野で初期に必須となる、高校化学内容の参考資料および練習問題を作成した。
10. スペクトルによる構造解析、教科書補助資料	2007年10月	有機化合物のスペクトル解析を理解するため、種々の機器分析を用いた、様々な有機化合物の実例を取上げた補助資料を作成した。
11. 高校化学リメディアル教育教材	2007年05月	高校で化学未履修者および履修不十分者に対する、薬学化学分野で初期に必須となる、高校化学内容の参考資料および練習問題を作成した。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1. 本学教務部によるFDに参加	2024年11月6日	本学教務部（蓬田教務部長）によるFD「MUKOGAWA COMPASSに基づく教育の構築に向けて～学修成果の可視

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
2. 高校で講演	2024年10月31日	化と成長実感のある教育とは～」に参加。
3. 薬学内FDの企画・実施・参加	2024年10月5日	大阪府立旭高等学校 薬学分野模擬授業講演。 「薬学会関西支部の運営・参加」を薬学内FDとしての企画・実施・参加。
4. 株式会社 学びと成長しくみデザイン研究所 桑木 康宏によるFDに参加	2024年10月2日	株式会社 学びと成長しくみデザイン研究所 桑木 康宏によるFD「MUKOGAWA COMPASS」実現に向けて カリキュラムにおける担当科目の役割点検法～ 教育の質保証の仕組みを構造的に捉える ～に参加。
5. 本学学長企画室 教育企画・IR推進課によるFDに参加	2024年9月17日	本学学長企画室 教育企画・IR推進課によるFD「新学部・学科の紹介」に参加。
6. 薬学内FDの企画・実施・参加	2024年9月17日	「大学院DP・CPの検討」を薬学内FDとしての企画・実施・参加。
7. 本学研究活性支援課によるFD(2024年度研究倫理講演会)に参加	2024年7月3日	本学研究活性支援課によるFD(2024年度研究倫理講演会)「大学における安全保障輸出管理」に参加。
8. 高校で講演	2024年6月20日	大阪府私立賢明学院高等学校 薬学学科別説明会講演。
9. 高校で講演	2024年6月7日	大阪府立刀根山高等学校 薬学分野別説明会講演。
10. 本学キャリアセンターによるFDに参加	2024年6月5日	本学キャリアセンターによるFD「キャリア形成支援と大学での学び」に参加。
11. 本学学長企画室 教育企画・IR推進課によるFDに参加	2024年5月1日	本学学長企画室 教育企画・IR推進課によるFD「本学における教学IRの現状と課題」に参加。
12. 第122回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ) in 近畿において講演	2024年3月10日	第122回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ) in 近畿(武庫川女子大学)において、「ワークショップの歩みと薬学教育改革」を講演。
13. 本学新しい武庫女教育推進委員会によるFD	2024年3月5日	本学新しい武庫女教育推進委員会によるFD「MUKOGAWA COMPASS実現に向けたカリキュラム作成について」に参加。
14. 高校で講演	2024年3月5日	兵庫県立西宮南高等学校 薬学分野別説明会講演。
15. 本学情報教育研究センター・総合情報システム部によるFDに参加	2024年2月7日	本学情報教育研究センター・総合情報システム部によるFD「生成AIの現状と本学での適用事例について」に参加。
16. 高校で講演	2024年1月31日	奈良県立高田高等学校 薬学分野説明講演。
17. 薬学内FDの企画・実施・参加	2024年1月15日	薬学内FD「薬学教育モデル・コア・カリキュラム(令和4年度改訂版)と本学薬学科新カリキュラム(令和6年度入学生より適用)について」の企画・実施・参加。
18. 本学ハラスメント関係規程等改定検討委員会によるFDに参加。	2024年1月10日	本学ハラスメント関係規程等改定検討委員会によるFD「ハラスメントのないキャンパスへ」に参加。
19. 高校で講演	2023年12月18日	大阪府私立大阪学芸高等学校 薬学分野別説明会講演。
20. キャリアセンターによるFDに参加	2023年12月6日	キャリアセンターによるFD「社会が求める力と就職支援」に参加。
21. 本学女性活躍総合研究所によるFDに参加	2023年11月1日	本学女性活躍総合研究所によるFD「性の多様性についてひらかれた対話のできる大学人へ」に参加。
22. 高校で講演	2023年10月20日	兵庫県立相生高等学校 薬学分野模擬授業講演。
23. 本学学生サポート室によるFDに参加	2023年10月4日	本学学生サポート室によるFD「MUKOGAWA COMPASSと学生サポート室の方針との位置づけ」に参加。
24. 本学FDとして教育改革講演会に参加	2023年9月14日	本学FDとして教育改革講演会「エンロールメントマネジメントにおけるリカレント教育センターの役割と現状報告」に参加。
25. 本学新しい武庫女教育推進委員会によるFDに参加	2023年8月21日	本学新しい武庫女教育推進委員会によるFD「武庫川女子大学人材育成方針 MUKOGAWA COMPASSについて」に参加
26. 高校で講演	2023年7月10日	大阪府立旭高等学校 分野別進路ガイダンス講演。
27. 本学FDとして教育改革講演会に参加	2023年7月5日	本学FDとして教育改革講演会「責任ある研究活動のために 一予防倫理と志向倫理一」に参加。
28. 薬学内FDの企画・実施・参加	2023年6月11日	2023年6月11日「兵庫県薬剤師会・病院薬剤師会・薬系5大学連携学術大会」を薬学内FDとしての企画・実施・参加。
29. 本学FDとして教育改革講演会に参加	2023年6月7日	本学FDとして教育改革講演会「大学入学者選抜におけ

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
30. 薬学教育評価機構オンライン説明会に参加	2023年2月3日	る多面的・総合的評価～どのように考え、どのように向き合うか～」に参加。 薬学教育評価機構オンライン説明会「2022年度大学説明会(2024年度受審大学対象)」に参加。
31. 高校での薬学分野説明会講演	2023年1月31日	奈良県立高田高等学校、講演タイトル: 薬学への招待「一般社団法人薬学教育評価機構 主催 6 年生薬学教育に関するシンポジウム(理事長、学長、学部長対象)」を薬学内FDとしての企画・実施・参加。
32. 薬学内FDの企画・実施・参加	2023年1月	
33. 高校での模擬授業	2022年9月17日	大阪青凌高等学校 島本町、講演タイトル: 薬学への招待
34. 薬学内FDの企画・実施・参加	2022年9月	薬学内FD「大学院カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー、カリキュラムマップ、カリキュラムツリーの確認」の企画・実施・参加。
35. 本学FD推進委員会企画のFDに参加	2022年8月19日	本学FD推進委員会企画のFD「大学におけるDXの取り組み」に参加。
36. 高校での分野別説明会	2022年5月26日	京都市立日吉ヶ丘高校 京都市、講演タイトル: 薬学への招待
37. 第112回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ) in 近畿において講演	2022年3月13日	武庫川女子大学で開催された第112回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ) in 近畿において講演した。講演タイトル: ワークショップの歩みと薬学教育改革。
38. 薬学内FDの企画・実施・参加	2021年12月23日	薬学内FD「教育効果を高める担任指導」の企画・実施・参加。
39. 本学FD推進委員会企画のFDに参加	2021年8月20日	本学FD推進委員会企画のFD「大学の授業運営における著作権の考え方について」に参加
40. 薬学内FDの企画・実施・参加	2021年7月1日	薬学内FD「大学院でのアセスメントポリシーの設定」の企画・実施・参加
41. 薬学内FDの企画・実施・参加	2021年5月13日	薬学内FD「薬学教育評価機構 第2期第三者評価に関する説明会・オンラインによる説明会」の企画・実施・参加。
42. 2020年度 兵庫医療大学大学院 薬学研究科 FDにおいて講演	2021年2月25日	2020年度 兵庫医療大学大学院 薬学研究科 FDにおいて講演した。
43. 薬学内FDの企画・実施・参加	2020年11月13日	講演タイトル: 6年制薬学教育と大学院教育・研究、薬学内FD「学生の成績向上を目指し、薬学部志願者増に向けたSNSの活用」の企画・実施・参加
44. 薬学内FDの企画・実施・参加	2020年7月13日	薬学内FD「両学科の教育研究目的と3つのポリシーを考える」の企画・実施・参加。
45. 第100回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ) in 近畿において講演	2019年11月4日	神戸薬科大学において第100回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ) in 近畿で講演した。
46. 薬学内FDの企画・実施・参加	2019年10月30日	講演タイトル: ワークショップの歩みと薬学教育改革。
47. 薬学内FDの企画・実施・参加	2019年7月13日	薬学内FD「卒業研究評価について(ルーブリック評価表の運用と成績評価)」の企画・実施・参加。
48. 第96回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ) in 近畿において講演	2019年3月10日	薬学内FD「薬学教育推進センター設置5周年記念報告会 5年間の試み、そして本学薬学教育への提言」の企画・実施・参加。
49. 日本薬学会が主催するに文部科学省 大学における医療人養成の在り方に関する調査研究委託事業に参加	2019年2月17日	武庫川女子大学で開催された第96回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ) in 近畿において講演した。
50. 武庫川女子大学薬学部 平成30年度 第2回薬学部FDの企画・運営・参加	2019年1月30日	講演タイトル: ワークショップの歩みと薬学教育改革。 北里大学白金キャンパスにおいて、日本薬学会が主催するに文部科学省 大学における医療人養成の在り方に関する調査研究委託事業「平成25年度改定薬学教育モデル・コアカリキュラムの実施状況に関する調査・研究」ワークショップに参加 武庫川女子大学薬学部 平成30年度 第2回薬学部FD「薬学教育評価機構 第二期評価基準について」を企画・

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
51. 武庫川女子大学薬学部 平成30年度 第1回薬学部FDの企画・運営・参加	2018年7月25日	運営し参加した。 武庫川女子大学薬学部 平成30年度 第1回薬学部FD「改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムによる実務実習評価について」を企画・運営し参加した。
52. 学部FDワークショップを企画・運営	2014年5月14日	2014年5月14日武庫川女子大学薬学部 平成26年度 第1回薬学部FDワークショップ「私たちが養成すべき薬剤師とは？—Outcomeからカリキュラムを考える—」を企画・運営
53. 高校での分野別理解	2013年11月6日	2013年11月6日 京都府立亀岡高等学校 薬学分野模擬授業講師。
54. 日本薬学会 薬学教育者のためのアドバンスネットワークショップに参加	2013年10月12日～2013年10月14日	2013年10月12—14日クロスウェーブ府中に於いて、日本薬学会 第3回薬学教育者のためのアドバンスネットワークショップに参加。
55. 文部科学省 大学における医療人養成推進等委託事業	2013年9月13日	2013年9月13日 文部科学省において、文部科学省 大学における医療人養成推進等委託事業 薬学教育モデル・コアカリキュラム改定案全国説明会に参加。
56. 高校生への模擬授業	2013年7月19日	2013年7月19日大阪 清教学園高等学校 大学体験プログラムにおいて薬学分野説明・模擬授業の講師
57. 高校生への模擬授業	2013年7月12日	2013年7月12日 大阪府立桜塚高等学校 大学訪問において薬学分野説明・模擬授業の講師。
58. 高校での分野別理解	2013年3月7日	2013年3月7日 兵庫県西脇高等学校において分野別理解薬学説明会の講師を担当。
59. 高校生体験化学実習	2013年3月4日	2013年3月4日 大阪 清教学園高等学校 大学体験プログラムにおいて体験化学実習の講師を担当。
60. 薬学分野説明・模擬授業	2013年3月4日	2013年3月4日 大阪 清教学園高等学校 大学体験プログラムにおいて薬学科理解・模擬授業の講師を担当。
61. 薬学教育協議会第1回全国薬学教育者アドバンスネットワークショップ(タスクフォーススキルアップ集会)に参加	2012年12月23日	2012年12月23日 帝京大学薬学部において、薬学教育協議会第1回全国薬学教育者アドバンスネットワークショップ(タスクフォーススキルアップ集会)に参加
62. 高校での模擬授業・分野別理解説明会	2012年6月27日	2012年6月27日 京都府立宮津高等学校において模擬授業・分野別理解の講師を担当。
63. 高校生の薬学部体験	2012年6月4日	西宮市立西宮高校の学生対象に薬学部説明・見学会を実施。
64. 高校生の薬学部体験	2012年3月22日	土佐女子高校の学生対象に薬学部説明・見学会を実施。
65. 高校での模擬授業	2011年12月20日	2011年12月20日兵庫県市立尼崎高等学校において模擬授業の講師を担当
66. 高校生の薬学部体験	2011年5月26日	須磨翔風高校の学生対象に薬学部説明・見学会を実施。
67. 高校での模擬授業	2010年11月19日	2010年11月19日兵庫県八鹿高等学校において模擬授業の講師を担当
68. 高校での分野別理解説明会	2010年3月10日	2010年3月10日兵庫県西脇高等学校 分野別理解薬学説明会において講師を担当
69. 高校生への模擬授業	2009年4月13日	武庫川女子大学にて大阪府立箕面高校の高校生対象に大学講義体験を実施。
70. 高校での分野別理解説明会	2008年6月25日	2008年6月25日 京都私立聖母学院 分野別理解薬学説明会において講師を担当
71. 第10回薬剤師のためのワークショップin近畿に参加	2007年9月1日～2007年9月2日	京都薬科大学に於いて、第10回薬剤師のためのワークショップin近畿に参加。
72. 高校での模擬授業	2007年7月6日	2007年7月6日京都府立山城高等学校において模擬授業の講師を担当
職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 応急手当普及員	2006年2月	
2. 危険物甲種取扱者	1993年8月	
3. 薬剤師	1990年5月	
2 特許等		
1. 新規ピロリジン化合物	2006年	「新規ピロリジン化合物」の合成と物性に関する特

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
2 特許等		
2. L-フェニレフリンの製造方法	2004年	許、JP 2006-193439 「L-フェニレフリンの製造方法」に関する特許、JP 2004-115439
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1. 第124回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿にタスクフォースとして参加	2024年8月3日～4日	立命館大学に於いて、薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構主催 第124回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿にタスクフォースとして参加。
2. 第122回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿のチーフタスクフォース	2024年3月9日～10日	武庫川女子大学に於いて、薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構主催 第122回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿をチーフタスクフォースとして運営。
3. 第119回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿のタスクフォース	2023年8月11日～12日	京都薬科大学に於いて、薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構主催 第119回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿にタスクフォースとして参加。
4. 文部科学省主催令和5年度文部科学省薬学教育指導者のためのワークショップのタスクフォース	2023年8月4日	文部科学省主催令和5年度文部科学省薬学教育指導者のためのワークショップのタスクフォース 文部科学省主催令和5年度文部科学省薬学教育指導者のためのワークショップのオンライン開催に於いてタスクフォースとして参加。
5. 薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構主催 「指導薬剤師資質向上のためのタスクフォーススキルアップ研修」のタスクフォース	2023年7月30日	2023年7月30日大阪医科薬科大学に於いて、薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構主催 「指導薬剤師資質向上のためのタスクフォーススキルアップ研修」にタスクフォースとして参加。
6. 第116回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿のタスクフォース	2023年3月25日～26日	同志社女子大学 京田辺キャンパスに於いて、薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構主催 第116回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿にタスクフォースとして参加。
7. 第114回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿のタスクフォース	2022年9月3日～2022年9月4日	神戸学院大学 ポートアイランド第1キャンパスに於いて、薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構主催 第114回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿にタスクフォースとして参加。
8. 文部科学省主催令和4年度文部科学省薬学教育指導者のためのワークショップのタスクフォース	2022年8月26日	文部科学省主催令和4年度文部科学省薬学教育指導者のためのワークショップのオンライン開催に於いてタスクフォースとして参加。
9. 第113回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿のタスクフォース	2022年8月6日～7日	立命館大学びわこ・くさつキャンパスに於いて、薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構主催 第113回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿にタスクフォースとして参加。
10. ・ 第112回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿(オンライン開催)のチーフタスクフォース	2022年3月12日～13日	武庫川女子大学に於いて、薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構主催 第112回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿(オンライン開催)をチーフタスクフォースとして運営。
11. 第111回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿(オンライン開催)のタスクフォース	2022年2月12日～13日	大阪医科薬科大学に於いて、薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構主催 第111回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿(オンライン開催)にタスクフォースとして参加。
12. 第109回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿(オンライン開催)のタスクフォース	2021年9月19日～20日	近畿大学に於いて、薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構主催 第109回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿(オンライン開催)にタスクフォースと

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
13. 文部科学省主催令和3年度文部科学省薬学教育指導者のためのワークショップのタスクフォース	2021年9月3日	して参加。 文部科学省主催令和3年度文部科学省薬学教育指導者のためのワークショップのオンライン開催に於いてタスクフォースとして参加。
14. 日本薬学会 第11回全国学生ワークショップのタスクフォース	2021年8月30日～31日	日本薬学会 第11回全国学生ワークショップのオンライン開催に於いて、タスクフォースとして参加。
15. 第102回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿(オンライン開催)のタスクフォース	2021年3月13日～14日	大阪薬科大学に於いて、薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構主催 第102回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿(オンライン開催)にタスクフォースとして参加。
16. 日本薬学会 第10回全国学生ワークショップのタスクフォース	2020年8月19日	オンライン開催に於いて、日本薬学会 第10回全国学生ワークショップにタスクフォースとして参加。
17. 第100回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿のチーフタスクフォース	2019年11月3日～4日	神戸薬科大学に於いて、薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構主催 第100回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿をチーフタスクフォースとして運営。
18. 日本薬学会 第5回若手薬学教育者のためのアドバンストワークショップのタスクフォース	2019年9月21日～23日	クロスウェーブ梅田に於いて、日本薬学会 第5回若手薬学教育者のためのアドバンストワークショップにタスクフォースとして参加。
19. 第98回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿のタスクフォース	2019年8月31日～9月1日	京都薬科大学に於いて、薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構主催 第98回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿にタスクフォースとして参加。
20. 日本薬学会 第9回全国学生ワークショップのタスクフォース	2019年8月10日～11日	クロスウェーブ府中に於いて、日本薬学会 第9回全国学生ワークショップにタスクフォースとして参加。
21. 第96回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿のチーフタスクフォース	2019年3月9日～10日	武庫川女子大学に於いて、薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構主催 第96回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿をチーフタスクフォースとして運営。
22. 兵庫県薬剤師会主催 平成30年度アドバンストワークショップのタスクフォース	2019年1月27日	武庫川女子大学に於いて、兵庫県薬剤師会主催 平成30年度アドバンストワークショップをタスクフォースとして参加・運営。
23. 平成30年度臨時認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿のタスクフォース	2018年12月15日～16日	摂南大学に於いて、薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構主催 平成30年度臨時認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿にタスクフォースとして参加。
24. 日本薬学会 第4回若手薬学教育者のためのアドバンストワークショップのタスクフォース	2018年10月6日～8日	クロスウェーブ府中に於いて、日本薬学会 第4回若手薬学教育者のためのアドバンストワークショップにタスクフォースとして参加。
25. 第93回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿のタスクフォース	2018年9月16日～17日	神戸学院大学に於いて、薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構主催 第93回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿にタスクフォースとして参加。
26. 日本薬学会 第8回全国学生ワークショップのタスクフォース	2018年8月11日～12日	クロスウェーブ府中に於いて、日本薬学会 第8回全国学生ワークショップにタスクフォースとして参加。
27. 第92回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿のタスクフォース	2018年8月4日～5日	立命館大学に於いて、薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構主催 第92回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿にタスクフォースとして参加。
28. 薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構が主催する臨床準備教育の評価策定に関する協議会のタスクフォース	2018年2月20日	京都薬科大学に於いて、薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構が主催する臨床準備教育の評価策定に関する協議会にタスクフォースとして参加。
29. 第91回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿のタスクフォース	2018年2月17日～18日	摂南大学寝屋川キャンパスに於いて、薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構主催 第91回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿にタスクフォースとし

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
30. 第88回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿のタスクフォース	2017年8月26日～27日	て参加。 京都薬科大学に於いて、薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構主催 第88回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿にタスクフォースとして参加。
31. 日本薬学会 第7回全国学生ワークショップのタスクフォース	2017年8月11日～12日	クロスウェーブ府中に於いて、日本薬学会 第7回全国学生ワークショップにタスクフォースとして参加。
32. 日本薬学会 第3回若手薬学教育者のためのアドバンストワークショップのタスクフォース	2017年8月5日～6日	クロスウェーブ府中に於いて、日本薬学会 第3回若手薬学教育者のためのアドバンストワークショップにタスクフォースとして参加。
33. 第87回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿のタスクフォース	2017年7月16日～17日	兵庫医療大学に於いて、薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構主催 第87回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿にタスクフォースとして参加。
34. 兵庫県薬剤師会主催 平成28年度アドバンストワークショップのチーフタスクフォース	2017年2月19日	武庫川女子大学に於いて、兵庫県薬剤師会主催 平成28年度アドバンストワークショップをチーフタスクフォースとして運営。
35. 日本薬学会 第2回若手薬学教育者のためのアドバンストワークショップ(第6回薬学教育者のためのアドバンストワークショップ)の実行委員長およびタスクフォース	2016年12月24日～27日	クロスウェーブ府中に於いて、日本薬学会 第2回若手薬学教育者のためのアドバンストワークショップ(第6回薬学教育者のためのアドバンストワークショップ)を実行委員長として企画・運営およびタスクフォースとして参加。
36. 第84回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿のタスクフォース	2016年10月29日～30日	神戸学院大学に於いて、薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構主催 第84回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿にタスクフォースとして参加。
37. 第83回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿のチーフタスクフォース	2016年9月3日～4日	武庫川女子大学に於いて、薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構主催 第83回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿をチーフタスクフォースとして運営。
38. 日本薬学会 第6回全国学生ワークショップのタスクフォース	2016年8月6日～7日	クロスウェーブ梅田に於いて、日本薬学会 第6回全国学生ワークショップにタスクフォースとして参加。
39. 第81回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿のタスクフォース	2016年3月5日～6日	常翔学園研修センターに於いて、薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構主催 第81回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿にタスクフォースとして参加。
40. 大阪大学薬学研究科課題解決型高度医療人養成プログラム運営委員会主催 指導薬剤師資質向上のためのタスクフォーススキルアップ研修のタスクフォース	2015年12月27日	大阪大学中之島センターに於いて、大阪大学薬学研究科課題解決型高度医療人養成プログラム運営委員会主催 指導薬剤師資質向上のためのタスクフォーススキルアップ研修にタスクフォースとして参加。
41. 日本薬学会 第1回若手薬学教育者のためのアドバンストワークショップ(第5回薬学教育者のためのアドバンストワークショップ)のタスクフォース	2015年10月11日～12日	クロスウェーブ梅田に於いて、日本薬学会 第1回若手薬学教育者のためのアドバンストワークショップ(第5回薬学教育者のためのアドバンストワークショップ)にタスクフォースとして参加。
42. 第79回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿のタスクフォース	2015年8月22日～23日	京都薬科大学に於いて、薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構主催 第79回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿にタスクフォースとして参加。
43. 日本薬学会 第5回全国学生ワークショップのタスクフォース	2015年8月8日～9日	クロスウェーブ府中に於いて、日本薬学会 第5回全国学生ワークショップにタスクフォースとして参加。
44. 第77回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿のタスクフォース	2015年5月3日～4日	近畿大学に於いて、薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構主催 第77回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿にタスクフォースとして参加。
45. 大阪大学薬学研究科課題解決型高度医療人養成プログラム運営委員会主催 指導薬剤師資質向上のためのタスクフォーススキルアップ研修のタスクフォース	2014年12月28日	大阪大学中之島センターに於いて、大阪大学薬学研究科課題解決型高度医療人養成プログラム運営委員会主催 指導薬剤師資質向上のためのタスクフォーススキルアップ研修にタスクフォースとして参加。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
46. 日本薬学会 第4回薬学教育者のためのアドバンストワークショップのタスクフォース	2014年11月22日～2014年11月24日	クロスウェーブ梅田に於いて、日本薬学会 第4回薬学教育者のためのアドバンストワークショップにタスクフォースとして参加した。
47. 第73回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿をチーフタスクフォース	2014年8月30日～2014年8月31日	武庫川女子大学に於いて、薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構主催 第73回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿をチーフタスクフォースとして運営した。
48. 日本薬学会 第4回全国学生ワークショップのタスクフォース	2014年8月9日～2014年8月10日	クロスウェーブ府中に於いて、日本薬学会 第4回全国学生ワークショップにタスクフォースとして参加した。
49. 日本薬学会 第4回薬学教育者のためのアドバンストワークショップ実行委員	2014年8月～2014年11月	日本薬学会教育委員会が主催する 日本薬学会 第4回薬学教育者のためのアドバンストワークショップ実行委員として、企画・運営に協力した
50. 第72回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿のタスクフォース	2014年5月3日～2014年5月4日	大阪薬科大学に於いて、薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構主催 第72回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿にタスクフォースとして参加した
51. 日本薬学会 第4回全国学生ワークショップ実行委員	2014年5月～2014年8月	日本薬学会 教育委員会が主催する 日本薬学会 第4回全国学生ワークショップの企画・運営に協力した
52. 平成26年度薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構 実務実習指導薬剤師養成小委員会 委員	2014年4月1日～2015年3月31日	薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構 実務実習指導薬剤師養成小委員会 委員 として指導薬剤師養成に関する事業の実施・運営に協力した。
53. 第71回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿のタスクフォース	2014年3月8日～2014年3月9日	常翔学園研修センターに於いて、薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構主催 第71回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿にタスクフォースとして参加した
54. 第68回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿のタスクフォース	2013年8月24日～2013年8月25日	京都薬科大学に於いて、薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構主催 第68回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿にタスクフォースとして参加した
55. 第3回全国学生ワークショップのタスクフォース	2013年8月10日～2013年8月11日	クロスウェーブ府中に於いて、日本薬学会 第3回全国学生ワークショップにタスクフォースとして参加した
56. 第67回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿のタスクフォース	2013年7月14日～2013年7月15日	兵庫医療大学に於いて、薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構主催 第67回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿にタスクフォースとして参加した
57. 日本薬学会 第3回全国学生ワークショップ実行委員	2013年7月～2013年8月	日本薬学会薬学教育部会が主催する第3回全国学生ワークショップに関わる事業の企画・実施に協力した。
58. 関東地区調整機構主催 平成25年度第1回関東地区調整機構 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(日本保険薬局協会)のタスクフォース	2013年4月28日～2013年4月29日	星薬科大学に於いて、関東地区調整機構主催 平成25年度第1回関東地区調整機構 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(日本保険薬局協会)にタスクフォースとして参加した
59. 薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構 実務実習指導薬剤師養成小委員会 委員	2013年4月1日～2014年3月31日	薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構が主催する認定実務実習指導薬剤師養成に関わる事業の企画・実施に協力した。
60. 平成25年度日本薬学会近畿支部委員	2013年4月1日2014年3月31日	日本薬学会近畿支部委員として、支部会等に参加した。
61. 第63回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿のチーフタスクフォース	2012年8月25日～2012年8月26日	武庫川女子大学に於いて、薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構主催 第63回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿をチーフタスクフォースとして運営した
62. 第61回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿のタスクフォース	2012年7月14日～2012年7月15日	兵庫医療大学に於いて、薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構主催 第61回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿にタスクフォースとして参加した
63. 薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整	2012年4月1日～2013年3月31日	薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機

職務上の実績に関する事項				
事項		年月日	概要	
4 その他				
機構 実務実習指導薬剤師養成小委員会 委員	日		構が主催する認定実務実習指導薬剤師養成に関わる事業の企画・実施に協力した。	
64. 実務実習を指導するための講習会(平成23年度アドバンスワークショップ)のタスクフォース	2012年1月15日		和歌山県薬剤師会館に於いて、薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構および和歌山県薬剤師会主催 実務実習を指導するための講習会(平成23年度アドバンスワークショップ)にタスクフォースとして参加した	
65. 第34回中堅薬剤師研修会のグループ担当指導者	2011年11月20日		梅田阪急ビルオフィスタワー26階に於いて、大阪府病院薬剤師会主催第34回中堅薬剤師研修会にグループ担当指導者として参加した	
66. 第56回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿のタスクフォース	2011年8月27日～2011年8月28日		京都薬科大学に於いて、薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構主催 第56回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in近畿にタスクフォースとして参加	
67. 薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構 実務実習指導薬剤師養成小委員会 委員	2011年4月1日～2012年3月31日		薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構が主催する認定実務実習指導薬剤師養成に関わる事業の企画・実施に協力した。	
68. 第53回薬剤師のためのワークショップin近畿および認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップのチーフタスクフォース	2011年3月12日～2011年3月13日		武庫川女子大学に於いて、薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構主催 第53回薬剤師のためのワークショップin近畿および認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップをチーフタスクフォースとして運営した	
69. 第49回薬剤師のためのワークショップin近畿および認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップのタスクフォース	2010年9月19日～2010年9月20日		立命館大学に於いて、薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構主催 第49回薬剤師のためのワークショップin近畿および認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップにタスクフォースとして参加した	
70. 薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構 実務実習指導薬剤師養成小委員会 委員	2010年4月1日～2011年3月31日		薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構が主催する認定実務実習指導薬剤師養成に関わる事業の企画・実施に協力した。	
71. 第45回薬剤師のためのワークショップin近畿および厚生労働省による認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップのチーフタスクフォース	2010年3月13日2010年3月14日		武庫川女子大学に於いて、薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構主催 第45回薬剤師のためのワークショップin近畿および厚生労働省による認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップをチーフタスクフォースとして運営した	
72. 第36回薬剤師のためのワークショップin近畿および厚生労働省による認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップのタスクフォース	2009年7月19日2009年7月20日		神戸薬科大学に於いて、薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構主催 第36回薬剤師のためのワークショップin近畿および厚生労働省による認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップにタスクフォースとして参加した	
73. 第28回薬剤師のためのワークショップin近畿および厚生労働省による認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップのタスクフォース	2009年2月14日～2009年2月15日		武庫川女子大学に於いて、薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構主催 第28回薬剤師のためのワークショップin近畿および厚生労働省による認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップにタスクフォースとして参加した	
74. 第18回薬剤師のためのワークショップin近畿厚生労働省による認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップのタスクフォース	2008年8月2日～2008年8月3日		神戸薬科大学に於いて、薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構主催 第18回薬剤師のためのワークショップin近畿および厚生労働省による認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップにタスクフォースとして参加した	
75. 第13回薬剤師のためのワークショップin近畿および厚生労働省による認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップのタスクフォース	2008年1月13日～2008年1月14日		武庫川女子大学に於いて、薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構主催 第13回薬剤師のためのワークショップin近畿および厚生労働省による認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップにタスクフォースとして参加した	
研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. Innovated 構造解析 プラクティス 第3版	共	2025年3月	京都廣川書店	川崎郁勇、森川敏生、田邊元三 著 ISBN: 978-4-910844-36-7
2. コンプリヘンシブ基礎化学 第3版	共	2025年3月	京都廣川書店	大内秀一、小関稔、川崎郁勇、多賀淳、堀山志朱代著 ISBN: 978-4-910844-42-8
3. 物質、化学種の分類・表記と物質量の取り扱い	単	2022年11月	コンプリヘンシブ基礎化学 第2版、京都廣川書店	物質、化学種の分類・表記と物質量の取り扱いについて概説した
4. 有機化合物の化学的性質	単	2022年11月	コンプリヘンシブ基礎化学 第2版、京都廣川書店	基本的な有機化合物の化学的性質について概説した
5. コンプリヘンシブ基礎化学 第2版	共	2022年11月	京都廣川書店、ISBN: 978-4-910844-07-7	大内秀一、小関稔、川崎郁勇、多賀淳、堀山志朱代著
6. Innovated 構造解析 プラクティス 第2版	共	2018年9月	京都廣川書店、ISBN: 978-4-909197-19-1	川崎郁勇、森川敏生、田邊元三 著
7. テルペン利用の新展開	共	2016年8月	シーエムシー出版、ISBN: 978-4-7813-1170-8	大平辰朗、宮澤三雄 監修、谷田貝光克、大平辰朗、上垣外正巳、佐藤浩太郎、山下光明、北山隆、堀内哲嗣郎、芦谷竜矢、光永徹、松原理恵、宮澤三雄、丸本真輔、山本雅之、櫻井和俊、片岡郷、今喜裕、笹川巨樹、内匠清、川崎郁勇、藤井義春、染矢慶太、大野木宏、東昌弘
8. 化学構造と薬理作用 医薬品を化学的に読む	共	2015年3月	廣川書店、ISBN: 978-4-567-46241-9	柴崎正勝、赤池昭紀、橋田充 監修、西出喜代治、佐々木茂貴、柴田敏之 編集、赤井周二、東屋功、阿部義人、飯島洋、上田昌史、河井伸之、川崎郁勇、來海徹太郎、柴田敏之、坂本武史、佐々木茂貴、佐治木弘尚、白石充、杉原多公通、田口博明、竹本佳司、津田裕子、手納直規、西谷潔、西出喜代治、樋口隆一、広川美規、前崎直容、宮田興子、宮部豪人、宮本智文、山下正行 著
9. 実用薬学英語	共	2015年1月	東京化学同人、ISBN: 978-4-8079-0865-3	日本薬学会編、入江徹美、金子利雄、河野円、Eric M. Skier、竹内典子、中村明弘、堀内正子編集、池田年穂、井坂正、井原久美子、大塚邦子、大野尚仁、加賀義之、金澤洋子、金子利雄、亀井美和子、川崎郁勇、河野円、木内祐二、河野享子、河野武幸、小佐野博史、小林文、齋藤弘明、塩田澄子、Eric M. Skier、須川久美子、竹内典子、田沢恭子、玉木欣子、徳山尚吾、富岡佳久、中村明弘、平田収正、堀内正子、安原智久、山下純、山田恵、吉田眞紀子、和治元義博著
10. 有機医薬品合成化学 ターゲット分子の合成	共	2011年	廣川書店	西出喜代治、前崎直容 編集、池田潔、川崎郁勇、鳥山正晴、春沢信哉、細井信造、本橋重康、山下正行 有機化合物の合成戦略において、官能基、位置および立体選択性について概説し、代表的な反応例を解説した。
11. Innovated 構造解析 プラクティス	共	2010年09月	京都廣川書店	桑島博、川崎郁勇、田邊元三 電磁波分析法、 ¹³ C核磁気共鳴スペクトルおよび質量分析法について、それぞれの測定原理、得られる情報およびスペクトル解析の方法を解説した。
12. 有機化学 explorer ：有機化学で未来をひらけ	共	2009年08月	京都廣川書店	竹本佳司、川崎郁勇、白井隆一、西出喜代治、前崎直容 C=C結合への付加反応および芳香環の反応を概説し、演習問題、練習問題を通して、自ら考え理解することをねらいとした教科書作成に加わった。
2 学位論文				
1. イミダゾールおよび1,2,4-トリアゾール環への位置選択的置換基導入に関する研究	単	1997年3月	京都薬科大学	イミダゾールおよび1,2,4-トリアゾール環への位置選択的置換基導入に関する研究について、得られた成果をまとめた。
3 学術論文				
1. A Concise and Highly Stereoselective Synthesis of b,b-disubstituted a,b-	共	2025年2月	Chem. Pharm. Bull., 2025, 印刷中.	Minoru Ozeki *, a, Tsuda Mizuki a, Serina Yamanouchi a, Momoe Yamakawa a, Kanako Fukuda a, Hiroataka Sasa a, Takuya Matsumoto a, Aya Niki a, Maaya Nobata a, Takashi Shigeta b, Tetsuya Kajimoto c, Kenji Arimitsu d, Shinzo Hosoi e, Hiroki Iwasaki e, Naoto Kojima f, Ikuo Kawasaki *, a

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
unsaturated esters				
2. TMSNEt ₂ -Promoted Intramolecular SNAr Reaction of Electron-Rich Aryl Fluorides	共	2025年1月	Synthesis., 2025, 57, 883-890.	Takeshi Shigetani, Yurika Ichikawa, Shiho Suzuki, Yui Hamabe, Nanami Nakahara, Yuka Gonnou, Minoru Ozeki, Ikuo Kawasaki, Masahiro Egil
3. The inhibitory effect of adenylic acid on the bitterness of the antibacterial combination drug trimethoprim/sulfamethoxazole.	共	2023年3月	Chem. Pharm. Bull., 2023, 71 (3) (2023) 198-205.	Jun Kawahara, Miyako Yoshida, Honami Kojima, Rio Uno, Minoru Ozeki, Ikuo Kawasaki, Masaaki Habara, Hidekazu Ikezaki, Takahiro Uchida
4. Masking the taste of fixed-dose combination drugs: particular NSAIDs can efficiently mask the bitterness of famotidine.	共	2023年2月	Chem. Pharm. Bull., 2023, 71 (2) (2023) 148-153.	Rio Uno, Kyoko Ohkawa, Honami Kojima, Tamami Haraguchi, Minoru Ozeki, Ikuo Kawasaki, Miyako Yoshida, Masaaki Habara, Hidekazu Ikezaki, Takahiro Uchida
5. Facile Synthesis of 5-Alkoxy-4-Aryltetrahydrofuran-2-one Using Hypervalent Iodine Reagents	共	2023年	Tetrahedron Lett., (2023) 154382.	Takuya Matsumoto, Saya Okazaki, Shui Aoki, Aya Niki, Hiroki Iwasaki, Minoru Ozeki, Masayuki Yamashita, Naoto Kojima, * Ikuo Kawasaki
6. Construction of acyclic all-carbon quaternary stereocenter based on asymmetric Michael addition of chiral amine	共	2021年9月	Chem. Pharm. Bull., 69(9) (2021) 926-930.	Aya Niki, Minoru Ozeki, Akiko Kuse, Shiho Nakagawa, Shui Aoki, Takeshi Shigetani, Tetsuya Kajimoto, Hiroki Iwasaki, Naoto Kojima, Kenji Arimitsu, Shinzo Hosoi, Manabu Node, Masayuki Yamashita and Ikuo Kawasaki
7. Antimicrobial activities of LL-37 fragment mutant-poly (lactic-co-glycol) acid conjugate against Staphylococcus aureus, Escherichia coli, and Candida albicans	共	2021年	Int. J. Mol. Sci., 22 (2021) 5097-5108	Takeshi Mori, Miyako Yoshida, Mai Hazekawa, Daisuke Ishibashi, Yoshihiro Hatanaka, Toshihiro Nagao, Rie Kakehashi, Honami Kojima, Rio Uno, Minoru Ozeki, Ikuo Kawasaki, Taku Yamashita, Junichi Nishikawa and Takahiro Uchida
8. Bitterness-masking effects of different beverages on zopiclone and eszopiclone tablets	共	2019年5月	Chem. Pharm. Bull. 67(5), 404-409 (2019).	Miyako Yoshida, Honami Kojima; Atsushi Uda; Tamami Haraguchi; Minoru Ozeki; Ikuo Kawasaki; Kazuhiro Yamamoto; Ikuko Yano; Midori Hirai; Takahiro Uchida
9. A Facile and Convenient Synthesis of Trisubstituted (E)- α,β -Unsaturated Esters by Formal	共	2019年1月	Chem. Pharm. Bull. 67(1), 71-74 (2019)	Minoru Ozeki; Ayumi Hachino; Takashi Shigetani; Aya Niki; Natsuko Kobayashi; Hideki Mizutani; Akihiro Nakamura; Ayano Horie; Kenji Arimitsu; Tetsuya Kajimoto; Shinzo Hosoi; Hiroki Iwasaki; Naoto Kojima; Masayuki Yamashita; Ikuo Kawasaki

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
Activation-Free ElcB Reaction				
10. Preparation and evaluation of poly- γ -glutamic acid hydrogel mixture with basic and acidic drugs: effect on ease of swallowing and taste masking	共	2019年	Pharmacology & Pharmacy 10 (2019) 427-444.	Honami Kojima; Saeri Ikegami; Shiho Nakamura; Haruka Nishikawa; Tamami Haraguchi; Miyako Yoshida; Minoru Ozeki; Ikuo Kawasaki; Takahiro Uchida
11. Preparation and evaluation of poly- γ -glutamic acid hydrogel mixture with amlogipine besylate: effect on ease of swallowing and taste masking	共	2019年	Chem. Pharm. Bull. 67 (2019) 1284-1292.	Preparation and evaluation of poly- γ -glutamic acid hydrogel mixture with amlogipine besylate: effect on ease of swallowing and taste masking
12. 質量分析法	共	2018年3月	Innovated 構造解析プラクティス 第2版	川崎郁勇、森川敏生、田邊元三 著
13. 電磁波分析法	共	2018年3月	Innovated 構造解析プラクティス 第2版, 京都廣川書店, ISBN: 978-4-909197-19-1	川崎郁勇、森川敏生、田邊元三 著
14. 18F-Labeled 4-(anilino)pyrido[3, 4-d]pyrimidine as an effective imaging probe targeting L858R-mutant epidermal growth factor receptor	共	2017年5月	ACS Medicinal Chemistry Letters, 8, 418-422 (2017)	Hiroyuki Kimura, Haruka Okuda, Masumi Ishiguro, Kenji Arimitsu, Akira Makino, Ryuichi Nishii, Anna Miyazaki, Yusuke Yagi, Hiroyuki Watanabe, Ikuo Kawasaki, Masahiro Ono, and Hideo Saji
15. Green Synthesis of (R)-terbutaline for Recyclable Catalytic Asymmetric Transfer Hydrogenation in Ionic Liquids	共	2017年4月	Chem. Pharm. Bull. 65(4), 389-395 (2017).	Hitomi Uchimoto, a Miki Ikeda, a Saori Tanida, a Kayo Ohhashi, a Yoshiko Chihara, b Takashi Shigeta, a Kenji Arimitsu, a, b Masayuki Yamashita, b Kiyoharu Nishide, a Ikuo Kawasakia*
16. Suppression in bitterness intensity of bitter basic drugs by chlorogenic acid	共	2017年2月	Chem. Pharm. Bull. 65, 151-156 (2017).	Sayuko Shiraishi, Tamami Haraguchi, Saki Nakamura, Honami Kojima, Ikuo Kawasaki, Miyako Yoshida, Takahiro Uchida,
17. 医薬品・医薬中間体として用いられるテルペン化合物	共	2016年8月	テルペン利用の展開, シーエムシー出版, ISBN: 978-4-7813-1170-8	大平辰朗、宮澤三雄 監修、谷田貝光克、大平辰朗、上垣外正巳、佐藤浩太郎、山下光明、北山隆、堀内哲嗣郎、芦谷竜矢、光永徹、松原理恵、宮澤三雄、丸本真輔、山本雅之、櫻井和俊、片岡郷、今喜裕、笹川巨樹、内匠清、川崎郁勇、藤井義春、染矢慶太、大野木宏、東昌弘
18. 薬学部4年制教育の参照基準策定と今後への期待	単	2016年7月	ファルマシア, 52 (7), 663 - 665 (2016).	川崎郁勇

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
19. A highly regio- and stereoselective selenoxide elimination of 1,2-bis[4-(trimethylsilyl)phenylseleno]alkanes to give (E)-alkenyl selenoxides and its mechanistic study	共	2016年1月	ChemistrySelect 2, (1) 189 -194 (2016).	Asami Tarao, Aya Niki, Shinsuke Komagawa, Kenji Arimitsu, Hitomi Uchimoto, Ikuo Kawasaki, Kentaro Yamaguchi, and Kiyoharu Nishide
20. A mechanistic investigation of anti-elimination in (Z)-1,2-bis(arylseleno)-1-alkenes and their sulfur analogs	共	2015年5月	Org. Biomol. Chem, 13 (21), 5964 - 5971 (2015).	Asami Tarao, Yukako Tabuchi, Eri Sugimoto, Miki Ikeda, Hitomi Uchimoto, Kenji Arimitsu, Hiroyuki Kimura, Ikuo Kawasaki, Masatoshi Kawahata, Kentaro Yamaguchi and Kiyoharu Nishide
21. 狭心症治療薬	共	2015年3月	化学構造と薬理作用 医薬品を化学的に読む、廣川書店、ISBN: 978-4-567-46241-9	柴崎正勝、赤池昭紀、橋田充 監修、西出喜代治、佐々木茂貴、柴田敏之 編集、赤井周二、東屋功、阿部義人、飯島洋、上田昌史、河井伸之、川崎郁勇、來海徹太郎、柴田敏之、坂本武史、佐々木茂貴、佐治木弘尚、白石充、杉原多公通、田口博明、竹本佳司、津田裕子、手納直規、西谷潔、西出喜代治、樋口隆一、広川美規、前崎直容、宮田興子、宮部豪人、宮本智文、山下正行 著
22. 分子標的薬ーがん細胞と正常細胞の違いからがん細胞を狙い撃ち	共	2015年1月	「実用薬学英語」東京化学同人、ISBN: 978-4-8079-0865-3	日本薬学会編、入江徹美、金子利雄、河野円、Eric M. Skier、竹内典子、中村明弘、堀内正子編集、池田年穂、井坂正、井原久美子、大塚邦子、大野尚仁、加賀義之、金澤洋子、金子利雄、亀井美和子、川崎郁勇、河野円、木内祐二、河野享子、河野武幸、小佐野博史、小林文、齋藤弘明、塩田澄子、Eric M. Skier、須川久美子、竹内典子、田沢恭子、玉木欣子、徳山尚吾、富岡佳久、中村明弘、平田收正、堀内正子、安原智久、山下純、山田恵、吉田眞紀子、和治元義博著
23. Preparation of Chiral Ligands Connected with Quaternary Ammonium Group for Recyclable Catalytic Asymmetric Transfer Hydrogenation in Ionic Liquids	共	2015年	Chem. Pharm. Bull. 63 (3), 200-209 (2015).	Hitomi Uchimoto, Tomoko Tsuji, Ikuo Kawasaki, Kenji Arimitsu, Hiroyuki Yasui, Masayuki Yamashita, Shunsaku Ohta, and Kiyoharu Nishide
24. A novel one-step synthesis of benzo[b]furo[3,2-b]pyridines having an amino group at the 4-position from benzo[b]furo[3,2-d][1,3]oxazine	共	2013年1月	Heterocycles, 87 (1), 177-191 (2013).	Yukako Tabuchi, Yusa Kakumoto, Hitomi Uchimoto, Ikuo Kawasaki, Yoshitaka Ohishi, and Kiyoharu Nishide Benzo[b]furo[3,2-d][1,3]oxazine誘導体をアミン類で処理すると、4-位にアミノ基を有するbenzo[b]furo[3,2-b]pyridine類が1工程で得られる新規合成反応を見出した。
25. Preparation of benzo[b]furans having five-membered heterocycles at	共	2012年11月	Chem. Pharm. Bull. 60 (11), 1461-1467 (2012).	Yukiko Akai, Yukako Tabuchi, Kumiko Ando, Azusa Ito, Yoko Sakata, Ikuo Kawasaki, Takahiro Ohishi, Masayuki Yamashita, Shunsaku Ohta, Kiyoharu Nishide, Yoshitaka Ohishi 2位に複素五員環をもつbenzo[b]furan誘導体の合成法の開発と、それらの一部に抗アレルギー作用が期待される生物活性を有すること

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
the 2-position and 2-(4-alkylcarbamoylbuta-1,3-dienyl)benzo[b]furans, and their cysteinyl leukotriene receptor (cysLT1, cysLT2) inhibitory activity				を見出した。
26. Synthesis of (±)-8-deisopropyladunctin B	共	2012年01月	Chem. Pharm. Bull. 60 (1), 94-103 (2012).	Kazumasa Hasegawa, Akira Nakanishi, Tamami Miyoshi, Hiroki Iwasaki, Minoru Ozeki, Ikuo Kawasaki, Ai Kurume, Shunsaku Ohta, Masayuki Yamashita
27. DDSと化学反応	共	2011年03月	廣川書店・有機医薬品合成化学ターゲット分子の合成	(±)-8-Deisopropyladunctin B の合成に成功した。 西出喜代治、前崎直容、池田潔、川崎郁男、鳥山正晴、春沢信哉、細井信造、本橋重康、山下正行 化学反応を利用するドラッグデリバリーシステムの実例を紹介し、化学的に解説した。
28. 合成戦略における「官能基、位置および立体選択性」	共	2011年03月	廣川書店・有機医薬品合成化学ターゲット分子の合成	西出喜代治、前崎直容、池田潔、川崎郁男、鳥山正晴、春沢信哉、細井信造、本橋重康、山下正行 有機化合物の合成戦略において、官能基、位置および立体選択性について概説し、代表的な反応例を解説した。また、化学反応を利用するドラッグデリバリーシステムの実例を紹介し、化学的に解説した。
29. 質量分析法	共	2010年09月	京都廣川書店・Innovated 構造解析プラクティス	桑島博、川崎郁男、田邊元三 有機化合物の構造決定における、質量分析法の概要、測定原理、得られる情報およびスペクトル解析の方法を解説した。
30. 13C核磁気共鳴スペクトル	共	2010年09月	京都廣川書店・Innovated 構造解析プラクティス	桑島博、川崎郁男、田邊元三 有機化合物の構造解析における、13C核磁気共鳴スペクトルの概要、測定原理、得られる情報およびスペクトル解析の方法を解説した。
31. 電磁波分析法	共	2010年9月	京都廣川書店・Innovated 構造解析プラクティス ICBN: 978-4-901789-6	桑島博、川崎郁男、田邊元三 有機化合物の構造決定における、電磁波分析法の概要、測定原理、得られる情報およびスペクトル解析の方法を解説した。
32. 芳香環の反応	共	2009年08月	京都廣川書店・有機化学 explorer: 有機化学で未来をひらけ	竹本佳司、川崎郁男、白井隆一、西出喜代治、前崎直容 芳香環の反応を概説し、考え方の基礎・応用を解説した。
33. C=C結合への付加反応	共	2009年08月	京都廣川書店・有機化学 explorer: 有機化学で未来をひらけ	竹本佳司、川崎郁男、白井隆一、西出喜代治、前崎直容 C=C結合への付加反応を概説し、考え方の基礎・応用を解説した。
34. Preparation of novel (Z)-4-ylidenebenzo[b]furo[3,2-d][1,3]oxazines and their biological activity	共	2009年	Bioorg. Med. Chem. 17(11), 3959-3967 (2009).	Yukako Tabuchi, Yuko Ando, Hidemi Kanemura, Ikuo Kawasaki, Takahiro Ohishi, Masao Koida, Ryo Fukuyama, Hiromichi Nakamuta, Shunsaku Ohta, Nishide, Kiyoharu, Ohishi Yoshitaka (Z)-4-ylidenebenzo[b]furo[3,2-d][1,3]oxazines の新規合成法とそれらの生物活性を評価した
35. Synthesis of 3-substituted isocoumarins and their inhibitory effects on degranulation of RBL-2H3 cells induced by antigen	共	2008年	Chem. Pharm. Bull. 56 (9), 1264-1269 (2008).	Ai Kurume, Yasuhiro Kamata, Masayuki Yamashita, Qilong Wang, Hisashi Matsuda, Masayuki Yoshikawa, Ikuo Kawasaki, Shunsaku Ohta 3-置換isocoumarins の合成とそれらの抗炎症作用をRBL-2H3 細胞の脱顆粒抑制効果によって評価した。
36. Preparation of	共	2008年	Org. Biomol.	Mari Kuramoto, Yoko Sakata, Kumi Terai, Ikuo Kawasaki, Jun-

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
leukotriene B4 inhibitory active 2- and 3-(2-aminothiazol-4-yl) benzo[b]furan derivatives and their growth inhibitory activity on human pancreatic cancer cells.			Chem., 6(15), 2772-2781, (2008).	ichi Kunitomo, Takahiro Ohishi, Takehiko Yokomizo, Seiichi Takeda, Shuichi Tanaka, Yoshitaka Ohishi Leukotriene B4 阻害活性をもつ 2- and 3-(2-aminothiazol-4-yl) benzo[b]furan 誘導体の合成とそれらのヒトすい臓がん増殖抑制活性
37. A novel skeleton transformation of 2a-substituted 2a, 8b-dihydro-3H-benzo[b]cyclobuta[d]pyran-3-ones to 2-(2-oxoethyl)-2H-1-benzopyrans promoted by a combination of ZnI2, organic base and H2O	共	2008年	Synlett, 2008, (3), 428-432.	Navnath Dnyanoba Yadav, Masayuki Yamashita, Yumiko Saya, Ai Kurume, Ikuo Kawasaki, Shunsaku Ohta A novel skeleton transformation of 2a-substituted 2a, 8b-dihydro-3H-benzo[b]cyclobuta[d]pyran-3-ones の 2-(2-oxoethyl)-2H-1-benzopyrans へのZnI2, 有機塩基および水が促進する新規骨格変換反応の開発
38. A novel transformation of 1-exo-substituted 2a-aryl-1, 2, 2a, 8b-tetrahydro-3H-benzo[b]cyclobuta[d]pyran-3-ones with sulfoxonium ylide to highly strained 2a-(1-arylethenyl)-1, 2, 2a, 7b-tetrahydrocyclobuta	共	2008年	Tetrahedron Lett., 49(10), 1627-1630 (2008).	Navnath Dnyanoba Yadav, Masayuki Yamashita, Masaki Nagahama, Tomoki Inaba, Takeshi Sawaki, Ikuo Kawasaki, Ai Kurume, Shunsaku Ohta 1-exo-substituted 2a-aryl-1, 2, 2a, 8b-tetrahydro-3H-benzo[b]cyclobuta[d]pyran-3-ones with sulfoxonium ylide の高度に歪んだ 2a-(1-arylethenyl)-1, 2, 2a, 7b-tetrahydrocyclobuta への新規合成法の開発
39. Preparation of 3-(4-chlorophenyl)-2-(2-aminothiazol-4-yl)-5-methoxybenzo[b]furan derivatives and their leukotriene B4 inhibitory activity	共	2007年09月	Org. Biomol. Chem., 5 (19) 3083-3086, (2007).	Yoko Sakata, Mari Kuramoto, Kumiko Ando, Mami Yamaguchi, Jun-ichi Kunitomo, Takehiko Yokomizo, Yoshitaka Ohishi Leukotriene B4 阻害活性を有する 3-(4-chlorophenyl)-2-(2-aminothiazol-4-yl)-5-methoxybenzo[b]furan 誘導体の合成と生物活性評価。
40. Asymmetric total synthesis of (-)-linderol A	共	2007年07月	J. Org. Chem. 72 (15), 5697-5703 (2007).	Masayuki Yamashita, Navnath Dnyanoba Yadav, Takeshi Sawaki, Ikuko Takao, Yasuko Sugimoto, Akemi Miyatake, Kousuke Murai, Ayano Takahara, Ai Kurume, and Shunsaku Ohta (-)-Linderol A の不斉合成を達成した。
41. Discrepancy of the spectral data between adunotin E and the synthetic one	共	2007年05月	Tetrahedron Lett. 48 (32), 5619-5622 (2007).	Masayuki Yamashita, Navnath Dnyanoba Yadav, Yuto Sumida, Ai Kurume, and Shunsaku Ohta 天然物 adunotin E の全合成、および合成品と報告された天然物のスペクトルデータの比較に関して報告した。
42. Regio- and stereoselective head-to-head photo	共	2007年04月	Heterocycles, 71 (4), 815-833 (2007).	Shunsaku Ohta, Abdul Khadeer, Akiko Kakuno, and Masayuki Yamashita 3-(1-methyl-2-phenylsulfanyl-1H-imidazol-5yl)propenoates の光

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
[2+2]cycloaddition of 3-(1-methyl-2-phenylsulfanyl-1H-imidazol-5yl) propenoates				二量化反応による位置および立体選択性に関する報告。
43. A Novel Reaction of 1- <i>exo</i> -Substituted 2a-Aroyl-1,2,2a,8b-tetrahydro-3H-benzo[b]cyclobuta[d]pyran-3-ones with Sulfoxonium Ylide to 2a-(1-Arylethenyl)-.....	共	2006年	J. Northwest Normal University (Natural Science), 42 (28), 366-367 (2006).	Masayuki Yamashita, Navnath Ddynoba Yadav, Satoshi Yamaguchi, Masaki Nagahama, Tomoki Inaba, Takeshi Sawaki, Ikuo Kawasaki, Shunsaku Ohta 1- <i>exo</i> -置換 2a-Aroyl-1,2,2a,8b-tetrahydro-3H-benzo[b]cyclobuta[d]pyran-3-onesは、スルフォキシニウムイリドの処理で 2a-(1-Arylethenyl)-1,2,2a,7b-tetrahydrocyclobuta[b]benzofran 類与える反応を報告した。
44. Asymmetric Total Synthesis of (+)-Linderol A	共	2006年	J. Northwest Normal University (Natural Science), 42 (28), 364-365 (2006).	Masayuki Yamashita, Takeshi Sawaki, Ikuko Takao, Yuto Sumida, Navnath Ddynoba Yadav, Ikuo Kawasaki, Shunsaku Ohta 不斉補助基を導入したクマリンカルボン酸エステル誘導体を用いて、天然物(-)-linderol Aの鏡像異性体である(+)-linderol A不斉全合成に初めて成功した。
45. Synthesis of Natural Products and Related Compounds Based on Dimerization of Heterocyclic Monomers	共	2006年	J. Northwest Normal University (Natural Science), 42 (28), 133-134 (2006).	Ikuo Kawasaki, Norihiro Sakaguchi, Masami Terano, Masayuki Yamashita, Shunsaku Ohta 複素環を有する単量体ユニットを二量化することで合成しようとする、新しい合成化学的アプローチを行った。
46. Homonuclear Diels-Alder dimerization of 5-ethenyl-2-phenylsulfanyl-1H-imidazoles and its application to synthesis of 12, 12' - dimethylageliferin	共	2006年	Tetrahedron, 62 (43), 10182-10192 (2006).	Ikuo Kawasaki, Norihiro Sakaguchi, Abdul Khadeer, Masayuki Yamashita and Shunsaku Ohta 5-Ethenyl-1H-imidazole 類は Diels-Alder 二量化反応にて多置換 4,5,6,7-テトラヒドロベンズイミダゾール類を立体・位置選択的に与え、さらに種々の生物活性を有する海洋天然物 ageliferin のジメチル体の合成に成功したことに関する詳細。また、本反応の妥当性を計算化学的手法にて解析した。
47. Novel Cyclo-dimerization of 1-tert-Butoxycarbonyl-3-alkenylindole Derivatives	共	2005年	Tetrahedron Lett. 46 (7), 1199-1203, (2005).	Ikuo Kawasaki, Masami Terano, Erika Yada, Miwa Kawai, Masayuki Yamashita and Shunsaku Ohta 1位に Boc 基を有する 3-alkenylindole 誘導体 を過剰量の TFA で処理すると、脱 Boc 化に伴い新規閉環二量化反応が進行し cyclohepta[1,2-b:4,5-b']diindole 類が得られることを見出した。2 の構造は各種二次元 NMR 解析および一誘導体の X-線構造解析により明らかとした。また、重水素化実験により、その生成機構を推定した。
48. A Recyclable Catalyst for Asymmetric Transfer Hydrogenation with a Formic Acid-triethylamine Mixture in Ionic Liquid	共	2005年	Chem. Commun. 2005, (16) 2134-2136.	Ikuo Kawasaki, Kazuya Tsunoda, Tomoko Tsuji, Tomoko Yamaguchi, Hiroki Shibuta, Nozomi Uchida, Masayuki Yamashita and Shunsaku Ohta 高いエナンチオ選択性で不斉水素移動型還元反応を行うことのできる新規なキラルイオン性リガンド合成に成功した。さらに本法を、繰り返し使用可能な反応系への展開に成功した。
49. Improved Synthesis of (±)-Linderol A and Its First	共	2005年	Heterocycles, 65 (5), 1099-1109 (2005).	Masayuki Yamashita, Takashi Shimizu, Tomoki Inaba, Ai Takada, Ikuko Takao, Ikuo Kawasaki and Shunsaku Ohta 天然物合成の中間体として利用可能な3環性ベンゾフラン誘導体の短

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
Conversion to (±)-6-epi-Adunctin E				工程合成に成功した。この 中間体は linderol A および、コショウ 化植物より得られる adunctin E の 6 位エピマーのラセミ体合成に 利用可能であった。
50. Novel Stereoconvergent Transformation of 1,2a-Disubstituted 1,2,2a,8b-Tetrahydro-3H-benzo[b]cyclobuta[d]pyran-3-ones to 1,3-Disubstituted 1,2,4a,9b-Tetrahydrodibenzofuran-4-ols	共	2005年	Org. Biomol. Chem. 3 (12), 2296-2304 (2005).	Masayuki Yamashita, Tomoki Inaba, Masaki Nagahama, Takashi Shimizu, Sachiko Kosaka, Ikuo Kawasaki and Shunsaku Ohta 1,2a-ジ置換 benzo[b]cy- clobuta[d]pyran 類 はexo, endo のいず れの異性体もイリドの処理で1,3-ジ置換tetrahydrobenzofuran-4- ol 類 (3) stereoconvergent に与える反応についての詳報。本法は linderol A (4) のラセミ体合成 の改良法として有用であった。
51. A Novel TFA-mediated <i>cyclo</i> -Dimerization of 1-Substituted 3-Alkenylindole Derivatives to Cyclopent[b]indoles	共	2005年	Tetrahedron Lett. 46 (38), 6549-6553 (2005).	Ikuo Kawasaki, Masami Terano, Ai Kurume, Satoko Hara, Masayuki Yamashita and Shunsaku Ohta 1位にアルキル基を有する 3-alkenyl- indole 誘導体を 1eq のTFA で処理すると、閉環二量化反応がすみやかに進行し、天然物などの 骨格構造にしばしば見受けられる cyclopent[b]indoles 類が得られ ることを見出した。本反応は極めて位置および立体選択的に進行す るものであり、D化実験等により、その生成機構を推定した。
52. Reaction of Benzo [b]cyclobuta[d]pyran-3-one Derivatives with Sulfur Ylide	共	2005年	J. Fudan University (Natural Science), 44 (5), 895-896 (2005).	Masayuki Yamashita, Yadav Navnath D., Masaki Nagahama, Tomoki Inaba, Ikuo Kawasaki, Shunsaku Ohta スルフォニウムイリドと benzo[b]cyclobuta[d]pyran-3-one 誘導体 の反応について報告した。
53. Synthesis and Unambiguous Stereochemical Determination of 1-exo- and 1-endo-Aryl-1,2,2a,8b-tetrahydro-3H-benzo[b]cyclobuta[d]pyran-3-ones	共	2005年	Heterocycles, 65 (10), 2411-2430 (2005).	Masayuki Yamashita, Yadav Navnath D., Masaki Nagahama, Tomoki Inaba, Yuka Nishino, Kumiko Miura, Sachiko Kosaka, Junko Fukao, Ikuo Kawasaki, Shunsaku Ohta 3位に電子吸引性基を有するクマリン誘導体とアルケンを光化学反応 条件下処理すると、ジアステレオマーである exo-, endo-体が生成 する。この二種の構造決定には8位水素の 1H-NMR ケミカルシフト値 を用いることが有用であることを見出した。また exo- および endo-2 の簡便な作り分けにも成功した。
54. Novel Nucleophilic C-C Bond-forming <i>tele</i> -Reaction of Imidazole Ring	共	2004年	J. Heterocyclic. Chem., 41 (3), 335-341 (2004).	Shunsaku Ohta, Kentaro Sato, Ikuo Kawasaki, Yuko Yamaguchi, Satoko Nishio and Masayuki Yamashita 2-(1-クロロアルキル)-1-メチルイミダゾール塩酸塩に塩基として NaH の存在下 α-置換マロネート類を反応させると、通常の SN 反 応生成物の他に、2つの求核剤がイミダゾール環の芳香族性を壊しつ つ攻撃し、生成したイミダゾリン と、tele 置換反応成績体が得ら れる、新規 C-C 結合生成反応を見出した。
55. Determination of the Absolute Configuration and the First Total Synthesis of (-)- and (+)-Linderol A	共	2004年	Tetrahedron: Asymmetry, 15 (15), 2315-2317 (2004).	Masayuki Yamashita, Takashi Shimizu, Ikuo Kawasaki and Shunsaku Ohta クロモジより得られる、linderol Aは負の旋光性を示すことは知ら れていたが、絶対構造未知であった。これをキラルカラム使用の HPLCにより、両鏡像体に分割し、一方をキラルカルボン酸エステル へと導き、その X-線結晶構造解析により絶対構造を明らかとした。 この結果、(-)-linderol A (1) の絶対構造の決定および、両鏡像異 性体の初めての全合成が達成された。
56. Double Nucleophilic Reaction of Amines to the Imidazole Nucleus and Selective	共	2004年	Tetrahedron, 60 (31), 6639-6648 (2004).	Ikuo Kawasaki, Tomohisa Osaki, Kazuya Tsunoda, Emiko Watanabe, Makie Matsuyama, Akiko Sanai, Abdul Khadeer, Masayuki Yamashita and Shunsaku Ohta 2-(1-クロロアルキル)イミダゾール塩酸塩に求核剤を反応させると、2つの求核剤がイミダゾール環の芳香族性を壊しつつ攻撃したイ ミダゾリン誘導体が得られることに関する詳報。この際の Nu-X に

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
Synthesis of 5-Aminoimidazoles				は二級アミン類の使用が良好な結果を与えた。また、アミン付加体から、合成が比較的困難とされる5-アミノイミダゾール類に好収率で変換できることが判明した。
57. Stereoconvergent Transformation of 1,2a-Disubstituted Benzo[b]cyclobuta[d]pyrans to 1,3-Disubstituted Tetrahydrobenzofuran-4-ols and Its Application to the Second-Generation Synthesis	共	2004年	Synlett, 2004 (11) 1897-1900.	Masayuki Yamashita, Tomoki Inaba, Takashi Shimizu, Ikuo Kawasaki and Shunsaku Ohta 1,2a-ジ置換 benzo[b]cy- clobuta[d]pyran 類はexo, endo のいずれの異性体からもスルフォキシニウムイリドの処理で 1,3-ジ置換 tetrahydrobenzofuran-4-ol 類を立体収束的に与えることを見出した。本法により linderol Aのラセミ体合成の工程数短縮、総収率の向上が実現された。
58. A New Synthetic Method For Substituted 2,4-Dihydro-3H-1,2,4-triazole-3-ones and 3-Thiones via 1,4-Dialkyl-5-phenylthio-1H-1,2,4-triazolium Salts	共	2003年	Heterocycles, 60 (2), 351-363 (2003).	Ikuo Kawasaki, Akane Domen, Shin-ya Kataoka, Kazuya Yamauchi, Masayuki Yamashita, and Shunsaku Ohta 5-Phenylthio-1H-1,2,4-triazoleより得られるトリアゾリウム塩は、選択的合成法がほとんど知られていなかった2,4-dihydro-3H-1,2,4-triazole-3-one 類あるいは 3-thiones類に簡便な操作で導かれることを示した。本法は 2,4,5-トリ置換トリアゾロンの合成にも利用可能であった。
59. 1-Methyl-3-trimethylsilylparabanic Acid as an Effective Reagent for the Preparation of N-Substituted (1-Methyl-2,5-dioxo-1,2,5H-imidazolin-4-yl)-amines and Its Application to the Total	共	2003年	Heterocycles, 60 (3), 583-598 (2003).	Seikou Nakamura, Ikuo Kawasaki, Masayuki Yamashita, and Shunsaku Ohta 1-メチル-3-TMS- パラバン酸を用いると部分構造の構築が容易に可能であった。この部分構造は抗腫瘍等の生物活性発現に重要な関与が示唆されており、イミダゾール系海洋天然物によく見られるものである。本法を海洋天然物 isonaamidines A, C の初めての全合成に応用した。
60. First Total Synthesis of (±)-Linderol A, a Tricyclic Hexahydrobenzofuran Constituent of <i>Lindera umbellata</i> Bark, with Potent Inhibitory Active on Melanin Biosynthesis of Cultured B-16 Maranoma	共	2003年	J. Org. Chem., 68 (4), 1216-1224 (2003).	Masayuki Yamashita, Nobukazu Ohta, Takeshi Shimizu, Kayoko Matsumoto, Yoko Matsuura, Ikuo Kawasaki, Tetsuaki Tanaka, Naoyoshi Maezaki and Shunsaku Ohta クマリンカルボン酸エチルエステル誘導体を出発とする、の linderol A のラセミ体全合成の詳細について報告した。出発物質より 19 工程・通算収率 6.6% で達成されたものである。
61. A Novel Tandem Reaction of 3-Substituted Coumarins with two Equivalents of Dimethylsulfoxonium Ylide to 2-Substituted Cyclopenta[b]benzofuran-3-ol Derivatives	共	2002年	Tetrahedron, 2002, 58 (8), 1497-1505.	Masayuki Yamashita, Kazunori Okuyama, Takeshi Kawajiri, Atsushi Takada, Yumiko Inagaki, Hiromi Nakano, Masataka Tomiyama, Aya Ohnaka, Izumi Terayama, Ikuo Kawasaki and Shunsaku Ohta 3 位に電子吸引性基を有するクマリン (1) を2当量の dimethylsulfoxonium ylide で処理すると、2-置換 cyclopenta[b] benzofuran-3-ol 類 (3) が生成することを見出した。まずシクロプロパン誘導体 (2) が生成し、その後骨格変換が起こり 3 を与えていることを明らかにした。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
62. Novel Diels-Alder-type Dimerization of 5-Ethenyl-2-phenylsulfanyl-1 <i>H</i> -imidazoles and Its Application to Biomimetic Synthesis of 12, 12' - Dimethylageliferin	共	2002年	Tetrahedron Lett. 2002, 43 (24), 4377-4380.	Ikuo Kawasaki, Norihiro Sakaguchi, Norie Fukushima, Naoko Fujioka, Fumi Nikaido, Masayuki Yamashita and Shunasaku Ohta 5-Ethenyl-2- phenylthio-1 <i>H</i> -imidazole 類は Diels-Alder 二量化反応によって多置換4,5,6,7-tetrahydrobenzimidazole 類を位置・立体選択的に与えることを初めて見出した。本法を用いて種々の生物活性を有する海洋天然物 ageliferin の 12,12' -dimethyl 体の合成に成功した。
63. Total Synthesis of Naamine C and Pyronaamidine, Antitumor Marine imidazole Alkaloid	共	2002年	J. Chem. Soc., Perkin Trans 1, 2002 (8), 1061-1066.	Seikou Nakamura, Ikuo Kawasaki, Miki Kunitomo, Miyuki Matsui, Yoko Noma, Masayuki Yamashita and Shunsaku Ohta 2-Phenylthio-1 <i>H</i> -imidazole より 9 工程・通算収率 13% で海洋天然物 naamine C を、およびその後 1-メチルパラバン酸との縮合反応により、同じく海洋天然物であり腫瘍細胞に対して強い細胞毒性を示すことが知られている pyronaamidine の初めての全合成を達成した。
64. Bischler-Napieralski Reaction of <i>N</i> -[2-(2-Bromo-4,5-dialkyloxyphenyl)ethyl]- <i>N</i> -(1-phenylethyl)-2-(2-bromo-4,5-dimethoxyphenyl)acetamides	共	2002年	Heterocycles, 57 (11), 2149-2161 (2002).	Naomi Hashimoto, Kumiko Miyatani, Keiko Ohkita, Yoshitaka Ohishi, Jun-ichi Kunitomo, Ikuo Kawasaki, Masayuki Yamashita and Shunsaku Ohta 種々の <i>N</i> -[2-(2-bromo- or 2-unsubstituted 4,5-dialkyloxyphenyl)ethyl]- <i>N</i> -(1-phenylethyl)-2-(2-bromo-4,5-dimethoxyphenyl)acetamide 類の Bischler-Napieralski 反応における閉環の様式について検討したところ、C-6 位での閉環反応が優先的に起こるものであった。
65. Synthesis of a Regio-isomer of Kealiiquinone, Marine Benzimidazole Alkaloids	共	2001年	J. Chem. Soc., Perkin Trans 1, 2001 (4), 429-436.	海洋天然物である Kealiiquinone の位置異性体を合成を報告した。 Sekou Nakamura, Naoki Tsuno, Masayuki Yamashita, Ikuo Kawasaki, Shunsaku Ohta and Yoshitake Ohishi
66. Bischler-Napieralski Cyclization of <i>N</i> -[2-(2-Bromo-5-hydroxy-4-methoxyphenyl)ethyl]- <i>N</i> -[(<i>S</i>)-1-phenylethyl]-2-(2-bromo-4,5-dimethoxyphenyl)acetamide Accompanied by Elimination of Chiral Auxiliary	共	2001年	Heterocycles, 55 (3), 589-595 (2001).	<i>N</i> -[2-(2-Bromo-5-hydroxy-4-methoxyphenyl)ethyl]- <i>N</i> -[(<i>S</i>)-1-phenylethyl]-2-(2-bromo-4,5-dimethoxyphenyl)acetamide の Bischler-Napieralski Cyclization 反応におけるキラル補助基の脱離について報告した。 Kumiko Miyatani, Mariko Ohno, Kazuya Tatsumi, Yoshitaka Ohishi, Jun-ichi Kunitomo, Ikuo Kawasaki, Masayuki Yamashita and Shunsaku Ohta
67. The First Total Synthesis of (±)-Linderol A, a Tricyclic Hexahydrobenzofuran Constituent of <i>Lindera umbellata</i> Bark, with Potent Inhibitory Active on Melanin Biosynthesis of Cultured B-16	共	2001年	Org. Lett., 3 (9), 1359-1362 (2001).	(±)-Linderol A の最初の全合成を達成した。 Masayuki Yamashita, Nobukazu Ohta, Ikuo Kawasaki and Shunsaku Ohta

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
Maranoma Cells 68. New Access to 1,3-Dialkyl-2,3-dihydro-2-imino-1H-imidazoles and Their Application to the First Total Synthesis of Naamine B, a Marine 2,3-Dihydro-2-imino-1,3-dimethyl-1H-imidazole Alkaloid	共	2001年	J. Chem. Soc., Perkin Trans 1, 2001 (23), 3095-3099.	1,3-Dialkyl-2,3-dihydro-2-imino-1H-imidazolesの新しい合成法の開発とそれを利用した Naamine Bの合成を報告した。 Ikuo Kawasaki, Seikou Nakamura, Satomi Yanagitani, Akiko Kakuno, Masayuki Yamashita and Shunsaku Ohta
69. Total Synthesis of Marine Imidazole Alkaloid, Clathridine A	共	2000年	Tetrahedron Lett., 41 (23), 4623-4627 (2000).	Shunsaku Ohta, Naoki Tsuno, Kazushi Maeda, Sekou Nakamura, Norio Taguchi, Masayuki Yamashita and Ikuo Kawasaki
70. Total Synthesis of Naamine A and Naamidine A, Marine Imidazole Alkaloids	共	2000年	Heterocycles, 53 (9), 1939-1955 (2000).	Shunsaku Ohta, Naoki Tsuno, Sekou Nakamura, Norio Taguchi, Masayuki Yamashita, Ikuo Kawasaki and Mieko Fijieda
71. Serial Double Nucleophilic Addition of Amines to the Imidazole Nucleous	共	2000年	Tetrahedron Lett., 41 (39), 7503-7506 (2000).	Shunsaku Ohta, Tomohisa Osaki, Satoko Nishio, Akemi Furusawa, Masayuki Yamashita, and Ikuo Kawasaki
72. Reductive Dimerization of Alkylidenemalonates Using Samarium (II) Diiodide and 1H-NMR Behavior of the Dimers, 2,3-Diaryl-1,1,4,4-butanetetracarboxylates	共	2000年	Chem. Pharm. Bull., 48 (11), 1799-1802 (2000).	Masayuki Yamashita, Kazunori Okuyama, Ikuo Kawasaki, Sekou Nakamura, Rumiko Nagamine, Takako Tsujita and Shunsaku Ohta
73. Synthesis of 9-Ethoxycarbonyl-10-(10aH)-oxo-5,6,7,8,8a,9-hexahydro-9,10a-anthracenecarbolactone and Related Compounds by Manganese (III) Mediated Cyclization	共	1999年	Heterocycles, 51 (11), 2557-2560 (1999).	Shunsaku Ohta, Takahiro Kajiura, Hiromichi Murai, Masayuki Yamashita and Ikuo Kawasaki
74. Reductive Dimerrization of 2-Substituted Cyclopropane-1,1-dicarboxylates Using Samarium (II) Diiodide	共	1999年	Chem. Pharm. Bull., 47 (10), 1439-1443 (1999).	Masayuki Yamashita, Kazunori Okuyama, Takashi Ohhara, Ikuo Kawasaki, Yoshiko Michihiro, Kouki Sakamaki, Shigeri Itoh and Shunsaku Ohta
75. Asymmetric Horner-Wadsworth-Emmons Reactions with meso-dialdehydes:	共	1999年	Phosphorus, Sulfur and Silicon, 144-146, 169-172	Tobias Rein, Lauri Vares, Ikuo Kawasaki, Torben M. Pedersen, Per-Ola Norrby, Peter Brandt, and David Tanner

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
Scope, Mechanism, and Synthetic Applications			(1999).	
76.Total Synthesis of Toposentin, Antiviral and Antitumor Bis (indolyl)imidazole	共	1998年	Heterocycles, 48 (9), 1887-1901 (1998).	Ikuo Kawasaki, Hideo Katsuma, Yohko Nakayama, Masayuki Yamashita and Shunsaku Ohta
77.Total Synthesis of (RS)- and (R)-3-Alkanoyl-5-hydroxymethyltetronic Acid Homologues, HIV-1 Protease Inhibitory Natural Products	共	1998年	Heterocycles, 48 (11), 2327-2337 (1998).	Masayuki Yamashita, Hiromichi Murai, Tomomichi Yoshioka, Ikuo Kawasaki, Mariko Gotoh, Tomoko Higashi and Shunsaku Ohta
78.Introduction of Alkenyl Group Bearing an Electron-withdrawing Group to the 5-Position of Imidazole Ring by Heck Reaction	共	1998年	Heterocycles, 48 (12), 2543-2550 (1998).	Masayuki Yamashita, Miho Oda, Ikuo Kawasaki and Shunsaku Ohta
79.Alkylation and Acylation of the 1,2,3-Triazole Ring	共	1997年	Chem. Pharm. Bull., 45 (7), 1140-1145 (1997).	Shunsaku Ohta, Ikuo Kawasaki, Takahumi Uemura, Masayuki Yamashita, Tomomichi Yoshioka and Satoshi Yamaguchi
80.Total Synthesis of Kealiquinone, an Imidazole Marine Alkaloid	共	1997年	Chem. Pharm. Bull., 45 (9), 1393 - 1398 (1997).	Ikuo Kawasaki, Norio Taguchi, Masayuki Yamashita and Shunsaku Ohta
81.A Useful Oxidation Procedure for the Preparation of 3-Alkanoyltetronic Acids	共	1997年	Synlett, 1997 (8), 909-910.	Asmita Mittra, Masayuki Yamashita, Ikuo Kawasaki, Hiromichi Murai, Tomomichi Yoshioka and Shunsaku Ohta
82.Synthesis of O-Methyltoposentin	共	1996年	Heterocycl. Commun., 2 (2), 189-191 (1996).	Ikuo Kawasaki, Hideo Katsuma, Yohko Nakayama, Masayuki Yamashita, and Shunsaku Ohta
83.Reductive Dimerization of Cyclopropane-1,1-dicarboxylic Esters Using Samarium(II) Diiodide (SmI2)	共	1996年	Synlett, 1996 (6), 547-548.	Masayuki Yamashita, Kazunori Okuyama, Takashi Ohara, Ikuo Kawasaki, and Shunsaku Ohta
84.Highly Effective Procedure for Introduction of Amino Group into the 2-Position of Imidazole Ring	共	1996年	Heterocycles, 43 (7), 1375-1379 (1996).	Ikuo Kawasaki, Norio Taguchi, Youko Yoneda, Masayuki Yamashita, and Shunsaku Ohta
85.Total Synthesis of Nortoposentins A - D, Marine Alkaloids	共	1996年	Chem. Pharm. Bull., 44 (10), 1831-1839 (1996).	Ikuo Kawasaki, Masayuki Yamashita and Shunsaku Ohta
86.Stereoselective	共	1996年	Msayuki	Tetrahedron Lett., 37 (43), 7755-7756 (1996).

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
Dimerization of - Ketoamides Using Samarium Diiodide			Yamashita, Kazunori Okuyama, Ikuo Kawasaki and Shunsaku Ohta	
87. Ring Opening of Cyclopropanecarboxylates Using Samarium(II) Diiodide (SmI ₂)-HMPA-THF System	共	1995年	Chem. Pharm. Bull., 43 (4), 708-710 (1995).	Masayuki Yamashita, Kazunori Okuyama, Takashi Ohara, Ikuo Kawasaki, and Shunsaku Ohta
88. Synthesis of Enol Carbonate from a Reaction of Silyl Enolates with 1H-Imidazolylurethane	共	1995年	Heterocycles, 41 (8), 1683-1689 (1995).	Shunsaku Ohta, Masayuki Yamashita, Nobuaki Nagai, Ikuo Kawasaki, Kazuto Maeda, and Yoshiko Miyano
89. Conversion of Ketone Trimethylsilylcyanohydrins to Several Types of Compounds		1995年	Chem. Pharm. Bull., 43 (8), 1294-1301 (1995).	Shunsaku Ohta, Masayuki Yamashita, Kazuo Arita, Takahiro Kajiura, Ikuo Kawasaki, Keiko Noda, and Michiko Izumi
90. Ring Opening of Cyclopropanemonocarboxylates and 1,1 - Cyclopropanedicarboxylates Using Samarium(II) Diiodide (SmI ₂)-HMPA-THF System	共	1995年	Chem. Pharm. Bull., 43 (12), 2075-2081 (1995).	Masayuki Yamashita, Kazunori Okuyama, Takashi Ohara, Ikuo Kawasaki, Kiyomi Sakai, Sachiko Nakata, Tokiko Kawabe, Miki Kusumoto, and Shunsaku Ohta
91. One-Step Synthesis of 2-Substituted Cyclopenta[b]benzofuran-3-ol Derivatives from 3-Substituted Coumarins	共	1995年	Tetrahedron Lett., 36 (31), 5603-5606 (1995).	Masayuki Yamashita, Kazunori Okuyama, Ikuo Kawasaki, and Shunsaku Ohta
92. Total Synthesis of Kealiquinone, an Imidazole Marine Alkaloid	共	1995年	Tetrahedron Lett., 36 (45), 8251-8254 (1995).	Ikuo Kawasaki, Norio Taguchi, Tetsuya Yamamoto, Masayuki Yamashita, and Shunsaku Ohta
93. Synthetic Approaches to 3-Amino-1,4-naphthoquinone-2-carboxylic Acid Derivatives and Photochemical Synthesis of Novel 1,4,5,10-Tetrahydro-5,10-dioxo-2H-naphtho[2,3-d][1,3]oxazine Derivatives	共	1994年	Chem. Pharm. Bull., 42 (6), 1185-1190 (1994).	Shunsaku Ohta, Yasunari Hinata, Masayuki Yamashita, Ikuo Kawasaki, Takaaki Shoji, Hisayo Yoshikawa, and Yoshiki Obana
94. One-Step Synthesis of 1,2,3,4-Tetrahydro[g]	共	1994年	Shunsaku Ohta, Yasunari Hinata, Masayuki	Chem. Pharm. Bull., 42 (9), 1730-1735 (1994).

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
quinazoline-5,10-dione Derivatives from Vitamin K3			Yamashita, Ikuo Kawasaki, Yoko Jinda, and Shinobu Horie	
95.Photo-oxidation of 2-Methylamino-3-(1-piperidinylmethyl)-1,4-naphthoquinone	共	1994年	Chem. Pharm. Bull., 42 (11), 2360-2362 (1994).	Shunsaku Ohta, Yasunari Hinata, Ikuo Kawasaki, and Masayuki Yamashita
96.Introduction of Carbogenic Substituent into the 4-Position of 1-Methyl-1H-imiazole	共	1994年	Chem. Pharm. Bull., 42 (4), 821-825 (1994).	Shunsaku Ohta, Tetsuya Yamamoto, Ikuo Kawasaki, Masayuki Yamashita, Yuuichi Nagashima, and Tomoko Yoshikawa
97.Successive Diarylation at the Carbon Position (2/4 and 2/5) of 1H-Imidazole and Its Application to the Total Synthesis of Nortopsentin D	共	1994年	J. Chem. Soc., Chem. Commun., 1994 (18), 2085-2086.	Ikuo Kawasaki, Masayuki Yamashita, and Shunsaku Ohta
98.Synthesis of 3-Substituted Isocoumarins and Related Natural Products	共	1993年	Chem. Pharm. Bull., 41 (6), 1188-1190 (1993).	Shunsaku Ohta, Yasuhiro Kamata, Takayo Inagaki, Yukari Masuda, Satoshi Yamamoto, Masayuki Yamashita, and Ikuo Kawasaki
99.A New Synthetic Route to - Hydroxythioethers from Carbonyl Compounds Using Samarium(II) Diodide (SmI2)	共	1993年	Chem. Lett., 1993, 653-656.	Masayuki Yamashita, Kazuhiro Kitagawa, Takashi Ohhara, Yoshiko Iida, Akiko Masumi, Ikuo Kawasaki, and Shunsaku Ohta
100.Synthesis and Application of Triazole Derivatives. Synthesis of 3- and 5-Acyl-1,2,4-triazole via Lithiation of 1-Alkyl-1H-1,2,4-triazoles	共	1993年	Chem. Pharm. Bull., 41 (7), 1226-1231 (1993).	Shunsaku Ohta, Ikuo Kawasaki, Akihisa Fukuno, Masayuki Yamashita, Toshiji Tada, and Tetsuo Kawabata
101.Synthesis and Application of Imidazole Derivatives. Introduction of Carbogenic Substituents into the 5-Position of 1-Methyl-1H-imidazole	共	1992年	Chem. Pharm. Bull., 40 (10), 2681-2685 (1992).	Shunsaku Ohta, Tetsuya Yamamoto, Ikuo Kawasaki Masayuki Yamashita, Hideo Katsuma, Rieko Nasako, Kazuhiro Kobayashi, and Kazuo Ogawa
102.Synthesis and Application of	共	1991年	Chem. Pharm. Bull., 39 (11),	Shunsaku Ohta, Yoshihiro Narita, Teruyuki Yuasa, Shoko Hatakeyama, Masakazu Kobayashi, Kyoko Kaibe, Ikuo Kawasaki,

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
Imidazole Derivatives. Synthesis of Pyrrolo[1,2-a]benzimidazoles and Azepino[1,2-a]benzimidazoles	共	1991年	2787-2792 (1991). Heterocycles, 32 (10), 1923-1931 (1991).	and Masayuki Yamashita Shunsaku Ohta, Teruyuki Yuasa, Yoshihiro Narita, Ikuo Kawasaki, Eiji Minamii, and Masayuki Yamashita
103.Synthesis and Application of Imidazole Derivatives. Synthesis of Pyrido[1,2-a]benzimidazole Derivatives				
104.Reaction of 1-(1-Alkoxyalkyl)-1H-1,2,4-triazole with Amides	共	1990年	Heterocycles, 31 (11), 2029-2036 (1990).	Shunsaku Ohta, Akihiko Maruyama, Ikuo Kawasaki, Shoko Hatakeyama, Michiyo Ichikawa, and Tomoko Guro
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
1.6年制薬学教育と大学院教育・研究	単	2021年2月25日	2020年度 兵庫医療大学大学院 薬学研究科 FD	2020年度 兵庫医療大学大学院 薬学研究科 FDにおいて、講演した。講演タイトル:6年制薬学教育と大学院教育・研究
2. 薬学（4年制）を学ぶ学生が身に付けるべき基本的素養－日本薬学会薬学教育委員会における検討－	単	2016年9月28日	日本学術会議 公開シンポジウム-薬学分野の参照基準と4年制薬学教育に求められる人材育成－ 東京	日本学術会議における公開シンポジウムで、4年制薬学教育に求められる人材育成について日本薬学会の薬学分野の参照基準を取りまとめた経緯を講演した
3. 平成20年度武庫川女子大学共同研究センターシンポジウム: 受容体分子を標的とする新規制癌剤の創製		2009年01月		ベンゾフラン骨格をコアとする膀胱癌および乳癌治療薬創製研究
4.18th International Symposium on Fine Chemistry and Functional Polymers (FCFP-XVIII) & IUPAC 4th International Symposium on Novel Materials and Synthesis (NMS-IV)		2008年10月		Development of recycling catalytic asymmetric transfer hydrogenation system in ionic liquid
5.16th International Symposium on Fine Chemistry and Functional Polymers & IUPAC 2nd International Symposium on Novel Materials and their Synthesis		2006年07月		Synthesis of Natural Products and Related Compounds Based on Dimerization of Heterocyclic Monomers
2. 学会発表				
1. 超原子価ヨウ素触媒を用いた酸化的C(sp ³)-N結合形成反	共	2025年3月28日	日本薬学会第145年会、福岡	(1 武庫川女大薬、2 立命館大薬) ○佐々裕隆 1、岡田美紀 1、谷川愛佳 1、樋口朋果 1、野端茉彩 1、松本 卓也 1、小関 稔 1、土肥寿文 2、川崎郁勇 1

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
応によるδ-ラクタム類の合成				
2. 超原子価ヨウ素触媒を用いた酸化的C(sp ³)-N結合形成反応の開発—ラクタム類のメタルフリー合成—	共	2024年10月5日	74回日本薬学会関西支部大会 西宮市、武庫川女子大学	佐々裕隆 1、○谷川愛佳 1、岡田美紀 1、樋口朋果 1、松本 卓也 1、野端茉彩 1、小関 稔 1、土肥寿文 2、川崎郁男 1 (1 武庫川女大薬、2 立命館大薬)
3. 超原子価ヨウ素触媒を用いた酸化的C(sp ³)-Hアミノ化反応によるδ-ラクタム類の合成	共	2024年3月31日	日本薬学会第144年会、横浜	(1 武庫川女大薬、2 立命館大薬)○佐々裕隆 1、岡田美紀 1、谷川愛佳 1、樋口朋果 1、松本 卓也 1、小関 稔 1、土肥寿文 2、川崎郁男 1
4. 5位にハロゲン原子を有するアルコールが置換した-ラクトン誘導体の合成法に関する検討	共	2023年10月14日	73回日本薬学会関西支部大会 神戸市、神戸学院大学	松本卓也1、○岡崎紗耶1、青木 朱衣1、仁木亜弥1、佐々裕隆1、岩崎宏樹2、小関 稔1、山下正行2、小島直人3、川崎郁男1 (武庫川女子大薬1、京都薬大2、長崎国際大薬3)
5. 分子内不斉Heck反応を用いた (+)-dichroanal A の不斉全合成研究	共	2023年10月14日	73回日本薬学会関西支部大会 神戸市、神戸学院大学	小関 稔1、○斉藤雅弥1、福田可南子1、鈴木梨佳子1、山北美優1、松本卓也1、佐々裕隆1、仁木亜弥1、岩崎宏樹2、小島直人3、川崎郁男1 (武庫川女子大薬1、京都薬大2、長崎国際大薬3)
6. ベンズオキサジンの骨格変換反応を利用する4-アミノキノリン誘導体の新規合成法の開発	共	2023年10月14日	73回日本薬学会関西支部大会 神戸市、神戸学院大学	青木 朱衣、○山田紗紀、松本卓也、佐々裕隆、小関 稔、川崎郁男 (武庫川女子大薬)
7. 超原子価ヨウ素試薬を用いた5-アルコキシ-4-アリアルテトラヒドロフラン-2-オン誘導体の簡便な合成法の開発	共	2023年3月28日	日本薬学会第143年会、札幌	○松本卓也1、岡崎紗耶1、青木 朱衣1、仁木亜弥1、岩崎宏樹2、小関 稔1、山下正行2、小島直人2、川崎郁男1 (武庫川女子大薬1、京都薬大2)
8. 分子内不斉Heck反応を鍵反応に用いた (+)-dichroanal A の不斉全合成	共	2023年3月26日	日本薬学会第143年会、札幌	○小関 稔1、鈴木梨佳子1、福田可南子1、山北美優1、青木 朱衣1、松本卓也1、仁木亜弥1、岩崎宏樹2、小島直人2、山下正行2、川崎郁男1 (武庫川女子大薬1、京都薬大2)
9. 分子内不斉Heck反応を基盤とした(+)-Dichroanal A の不斉全合成	共	2022年10月8日	72回日本薬学会関西支部大会 枚方市、摂南大学	小関 稔1、○福田可南子1、鈴木梨佳子1、山北美優1、松本卓也1、青木 朱衣1、仁木亜弥1、岩崎宏樹2、小島直人2、山下正行2、川崎郁男1 (武庫川女子大薬1、京都薬大2)
10. 超原子価ヨウ素試薬を用いた5-アルコキシ-4-アリアルテトラヒドロフラン-2-オン誘導体の簡便な合成法の開発	共	2022年10月8日	72回日本薬学会関西支部大会 枚方市、摂南大学	○松本卓也1、岡崎紗耶1、青木 朱衣1、仁木亜弥1、岩崎宏樹2、小関 稔1、山下正行2、小島直人2、川崎郁男1 (武庫川女子大薬1、京都薬大2)
11. (+)-Dichroanal A の不斉全合成研究	共	2022年10月8日	72回日本薬学会関西支部大会 枚方市、摂南大学	小関 稔1、○鈴木梨佳子1、山北美優1、福田可南子1、松本卓也1、青木 朱衣1、仁木亜弥1、岩崎宏樹2、小島直人2、山下正行2、川崎郁男1 (武庫川女子大薬1、京都薬大2)
12. キラルアミンの不斉マイケル付加反応による四級不斉炭素構築法の開発	共	2022年3月28日	日本薬学会第142年会、名古屋	○青木朱衣1、小関 稔1、中川志保1、仁木亜弥1、岩崎宏樹2、小島直人2、山下正行2、川崎郁男1 (武庫川女子大薬1、京都薬大2)
13. 分子内不斉Heck反応を用いた(+)-Dichroanal A の不斉全合成	共	2022年3月27日	日本薬学会第142年会、名古屋	小関 稔1)、○鈴木梨佳子1)、山北美優1)、福田可南1)、仁木亜弥1)、青木朱衣1)、岩崎宏樹2)、小島直人2)、山下正行2)、川崎郁男1) (武庫川女子大薬1)、京都薬大2))
14. リサイクル可能な触媒	共	2022年3月	日本薬学会第142年会	○仁木亜弥1、岸岡 優季1、荒木 柚希奈1、青木 朱衣1、小関

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
媒的不斉水素移動型還元反応を用いた光学活性医薬品の不斉合成の検討		27日	会、名古屋	稔1、川崎郁勇1、山下正行2（1武庫川女大薬、2京都薬大）
15. キラルアミンの不斉マイケル付加反応による四級不斉炭素の構築法の開発		2021年10月9日	71回日本薬学会関西支部大会 東大阪市、近畿大学	小関 稔1、○中川志保1、仁木亜弥1、青木朱衣1、岩崎宏樹2、小島直人2、山下正行2、川崎郁勇1（武庫川女子大薬1、京都薬大2）
16. リサイクル可能な触媒的不斉水素移動型還元反応を用いた光学活性医薬品の不斉合成研究	共	2021年10月9日	71回日本薬学会関西支部大会 東大阪市、近畿大学	仁木亜弥1、○岸岡 優季1、小関 稔1、川崎郁勇1、山下正行2（1武庫川女大薬、2京都薬大）
17. (+)-Dichroanalの不斉全合成研究	共	2021年3月26日	日本薬学会第141年会、広島	小関 稔1、○山北美優1、鈴木梨佳子1、仁木亜弥1、青木朱衣1、岩崎宏樹2、小島直人2、山下正行2、川崎郁勇1（武庫川女子大薬1、京都薬大2）
18. , -二置換-, -不飽和エステル	共	2020年10月10日	70回日本薬学会近畿支部大会 草津市、立命館大学	小関 稔1、○榎本彩季1、小林美紅1、津田瑞季1、山ノ内芹南1、山川桃笑1、繁田 堯2、仁木亜弥1、青木朱衣1、岩崎宏樹3、小島直人3、山下正行3、川崎郁勇1（1武庫川女子大・薬、2静岡県大・食、3京都薬大）
19. 環境調和型不斉水素移動型還元反応を用いた光学活性医薬品合成の検討	共	2020年3月28日	日本薬学会第140年会、京都	仁木亜弥1、○平島 蘭1、山北美優1、松岡怜央奈1、吉田響1、中西理蘭1、萩野由香1、和田彩乃1、小林奈津子1、小関 稔1、山下正行2、川崎郁勇1（1武庫川女大薬、2京都薬大）
20. 高立体選択的な, -二置換-, -不飽和エステルの実用的合成法の開発	共	2019年10月12日	69回日本薬学会近畿支部大会 神戸市、神戸薬科大学	小関 稔1、○榎本彩季1、小林美紅1、津田瑞季1、山ノ内芹南1、繁田 堯3、仁木亜弥1、小林奈津子1、岩崎宏樹2、小島直人2、山下正行2、川崎郁勇1（武庫川女子大薬1、京都薬大2）、静岡県大食3）
21. Synthesis of optically active pharmaceuticals by using recyclable catalytic asymmetric transfer hydrogenation in ionic liquid	共	2019年9月5日	27th International Society of Heterocyclic Chemistry Congress, Kyoto	Mayu Hirashima, a Hitomi Uchimoto, a Aya Niki, a Miyu Yamakita, a Natsuko Kobayashi, a Kenji Arimitsu, a, b Minoru Ozeki, a Masayuki Yamashita, b Ikuko Kawasaki, a (aFaculty of Pharmaceutical Sciences, Mukogawa Women's University, bKyoto Pharmaceutical University)
22. Tandem 反応を用いた三置換-(E)-, -不飽和エステル類の立体選択的合成とその開発	共	2019年3月29日	日本薬学会第139年会、千葉	○小林奈津子1、小関 稔1、仁木亜弥1、繁田 堯1,2、八野愛結美1、岩崎宏樹3、小島直人3、山下正行3、川崎郁勇1（1武庫川女大薬、2静岡県大、3京都薬大）
23. 位に官能基を有するセレニド化合物の合成および酸化反応の検討	共	2019年3月28日	日本薬学会第139年会、千葉	○仁木亜弥1、多羅尾あさみ1、小林奈津子1、小関 稔1、川崎郁勇1（1武庫川女大薬）
24. イオン液体とリサイクル可能な不斉水素移動型還元反応を用いる光学活性医薬品の合成検討	共	2019年3月28日	日本薬学会第139年会、千葉	仁木亜弥1、○平島 蘭1、山北美優1、小林奈津子1、小関 稔1、山下正行2、川崎郁勇1（1武庫川女大薬、2京都薬大）
25. イオン液体と触媒的不斉水素移動型還元反応を用いる光学活性医薬品合成の検討	共	2018年10月13日	68回日本薬学会近畿支部大会 姫路市、姫路獨協大学	仁木亜弥1、○山北美優1、平島 蘭1、小林奈津子1、小関 稔1、山下正行2、川崎郁勇1（1武庫川女大薬、3京都薬大）
26. 臨床準備教育における概略評価表（例示）＜近畿地区版＞の開発	共	2018年9月2日	第3回日本薬学教育学会大会、東京	○安原智久1,2、角山香織1,3、川崎郁勇1,4、佐藤卓史1,3、辻塚己1,2、木下淳1,5、清水忠1,6、長井紀章1,7、橋詰勉1,8（1近畿地区調整機構、2摂南大学、3大阪薬大、4武庫川女大薬、5姫路獨協大薬、6兵庫医療大薬、7近畿大学、8京都薬大）

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
27. 成績推移およびアンケート調査結果に基づく強化教育対象者選別法の評価	共	2018年9月2日	(第3回日本薬学教育学会大会、東京	○西村奏咲、川崎郁勇、北山友也、三木知博
28. スペクトル構造解析学におけるカルタを用いた演習の実施と評価	共	2018年3月27日	日本薬学会第138年会、金沢	○仁木亜弥1、小関 稔1、繁田 堯1、八野愛結美1、岩崎宏樹2、小島直人2、中村亮博2、堀江文及2、山下正行2、川崎郁勇1 (1武庫川女大薬、2京都薬大)
29. 三置換(E)--不飽和エステル)の簡便で立体選択的な合成法の開発	共	2018年3月27日	日本薬学会第138年会、金沢	○仁木亜弥1、小関 稔1、繁田 堯1、八野愛結美1、岩崎宏樹2、小島直人2、中村亮博2、堀江文及2、山下正行2、川崎郁勇1 (1武庫川女大薬、2京都薬大)
30. イオン液体を用いた触媒的不斉水素移動型還元反応における新規キラルリガンドの合成とその評価	共	2017年11月6日	第43回反応と合成の進歩シンポジウム、富山市	内本ひとみ1、○仁木亜弥1、池田未来1、松下 葵1、繁田 堯1、有光健治2、安井裕之2、小関 稔1、山下正行2、川崎郁勇1 (1武庫川女大薬、2京都薬大)
31. 含フッ素置換基を有するpyridopyrimidine誘導体の変異型EGFR-TK阻害活性に関する構造活性相関研究	共	2017年10月25日	第35回メディスナルケミストリーシンポジウム、名古屋市	○有光健治1,2、木村寛之1、石黒真澄2、高瀬里紗2、辰巳莉菜1、繁田堯2、川崎郁勇2、佐治英郎3、安井裕之1 (1京都薬大、2武庫川女大薬、3京大院薬)
32. DMAP 型新規有機分子触媒の合成と原子の効率に関する検討	共	2017年10月14日	67回日本薬学会近畿支部大会 神戸市、兵庫医療大学	繁田 堯、福田千佳、○村田菜乃美、権野有香、仁木亜弥、小関稔、川崎郁勇
33. 多置換 α , β -不飽和エステルの立体選択的合成法の開発	共	2017年10月14日	67回日本薬学会近畿支部大会 神戸市、兵庫医療大学	○八野愛結美1、中村亮博2、堀江文及2、小関 稔1、繁田 堯1、仁木亜弥1、岩崎宏樹2、小島直人2、山下正行2、川崎郁勇1 (1 武庫川女子大薬、2 京都薬大)
34. 基礎学力強化教育の効果および“課題提出義務付け”の有効性の検証	共	2017年10月14日	67回日本薬学会近畿支部大会 神戸市、兵庫医療大学	○西村奏咲1、川崎郁勇2、来海徹太郎3、三木知博1 (武庫川女子大薬 1 薬学教育推進セ、2 薬化学Ⅰ、3 薬化学Ⅱ)
35. 有機化学Ⅰにおける時間外学習の習慣付けー課題とその提出義務付けに対する有効性の検証ー	共	2017年9月2日	第2回日本薬学教育学会大会、名古屋	○西村奏咲、小関 稔、川崎郁勇、三木知博
36. 2016年度薬学部初年次教育(有機化学)における基礎学力教科教育の運用と評価	共	2017年3月25日	日本薬学会第137年会、仙台	○西村奏咲、川崎郁勇、稲本浄文、来海徹太郎、河井伸之、北山友也、三浦健、安井菜穂美、三木知博
37. スペクトル構造解析学の習熟度別授業の実践と評価	共	2017年3月25日	日本薬学会第137年会、仙台	○河井伸之、川崎郁勇、北山友也、西村奏咲、三浦健、安井菜穂美、三木知博
38. 上皮成長因子受容体(EGFR)の遺伝子変異の識別を目的とした18F標識分子イメージングプローブの開発	共	2016年12月1日	第34回メディスナルケミストリーシンポジウム、つくば市	○石黒真澄1、奥田悠2、有光健治1, 3、木村寛之2, 3、高瀬里紗1、牧野顕4、内本ひとみ1、繁田堯1、小野正博2、佐治英郎2、川崎郁勇1 (1武庫川女大薬、2京大院薬、3京都薬大、4福井大高エネ研)
39. EGFRチロシンキナーゼを標的とした18F標識pyrido[3,4-d]pyrimidine誘導体の合成と評価	共	2016年10月17日	66回日本薬学会近畿支部大会 高槻市、大阪薬科大学	○石黒真澄1、奥田悠2、有光健治1, 3、木村寛之2, 3、高瀬里紗1、牧野顕4、内本ひとみ1、繁田堯1、小野正博2、佐治英郎2、川崎郁勇1 (1武庫川女大薬、2京大院薬、3京都薬大、4福井大高エネ研)
40. β 位に官能基を有するセレンド化合物の合成および酸化反応の検討	共	2016年10月17日	66回日本薬学会近畿支部大会 高槻市、大阪薬科大学	○仁木亜弥1、駒川晋輔2、萬代咲1、四方茜1、内本ひとみ1、繁田堯1、有光健治1, 3、山口健太郎2、川崎郁勇1 (1武庫川女大薬、2徳島文理大香川薬、3京都薬大)

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
41. イオン液体を用いたリサイクルCATHにおける新規キラルリガンドの合成とその評価	共	2016年10月17日	66回日本薬学会近畿支部大会 高槻市, 大阪薬科大学	内本ひとみ1、○大橋佳代1、松下 葵1、繁田堯1、有光健治2、安井裕之2、山下正行2、川崎郁男1 (1武庫川女大薬、3京都薬大)
42. 薬学(4年制)を学ぶ学生が身に付けるべき基本的素養—日本薬学会薬学教育委員会における検討—	単	2016年9月28日	日本学術会議 公開シンポジウム-薬学分野の参照基準と4年制薬学教育に求められる人材育成— 東京	日本学術会議における公開シンポジウムで、4年制薬学教育に求められる人材育成について日本薬学会の薬学分野の参照基準を取りまとめた経緯を講演した
43. A highly regio- and stereoselective selenoxide elimination of 1,2-bis[4-(trimethylsilyl)phenylseleno]alkanes to give (E)-alkenyl selenoxides and its mechanistic study.	共	2016年5月24日	The 13th International Conference on the Chemistry of Selenium and Tellurium, Gifu	Asami Tarao, a Aya Niki, a Shinsuke Komagawa, b Kenji Arimitsu, a Hitomi Uchimoto, a Ikuo Kawasaki, a Kentaro Yamaguchi, b Kiyoharu Nishide a (a School of Pharmacy and Pharmaceutical Sciences, Mukogawa Women's University, b Pharmaceutical Sciences at Kagawa Campus, Tokushima Bunri University)
44. EGFRチロシンキナーゼを標的とした18F標識pyrido[3,4-d]pyrimidine誘導体の合成研究	共	2016年3月28日	日本薬学会第136年会、横浜	○石黒真澄1、奥田悠2、有光健治1、木村寛之2,3、牧野顕4、宮崎杏奈2、内本ひとみ1、小野正博2、川崎郁男1、佐治英郎2、西出喜代治1 (1武庫川女大薬、2京大院薬、3京都薬大、4福井大高エネ研)
45. 1,2-ビスセレンアルカンを用いた位置および立体選択的脱離反応とその計算化学的考察	共	2016年3月28日	日本薬学会第136年会、横浜	○石黒真澄1、奥田悠2、有光健治1、木村寛之2,3、牧野顕4、宮崎杏奈2、内本ひとみ1、小野正博2、川崎郁男1、佐治英郎2、西出喜代治1 (1武庫川女大薬、2京大院薬、3京都薬大、4福井大高エネ研)
46. 新規キラルリガンドの開発とそのリサイクル使用による触媒的不斉水素移動型還元反応	共	2015年11月20日	45回複素環化学討論会、東京	(1武庫川女大薬・2京都薬大) 内本 ひとみ1・○池田 未来1・川崎 郁男1・有光 健治1・山下 正行2・西出 喜代治1
47. A mechanistic investigation for anti-elimination of (Z)-1,2-bis(arylseleno)-1-alkenes and their sulfur analogs	共	2015年11月12日	The 13th International Kyoto Conference on New Aspects of Organic Chemistry, Kyoto	a) School of Pharmacy and Pharmaceutical Sciences, Mukogawa Women's University b) Graduate School of Pharmaceutical Sciences, Kyoto University c) Pharmaceutical Sciences at Kagawa Campus, Tokushima Bunri University Asami Taraoa, Yukako Tabuchia, Eri Sugimotoa, Miki Ikedaa, Hitomi Uchimotoa, Kenji Arimitsua, Hiroyuki Kimurab, Ikuo Kawasakia, Masatoshi Kawahatac, Kentaro Yamaguchic, Kiyoharu Nishidea
48. EGFRの二次変異の識別を目的としたPETイメージングプローブの開発	共	2015年11月5日	第55回日本核医学会学術総会、東京	奥田 悠, 木村 寛之, 牧野 顕, 有光 健治, 宮崎 杏奈, 渡邊 裕之, 川崎 郁男, 西出 喜代治, 西井 龍一, 小野 正博, 佐治 英郎
49. 77Se NMR実験を用いた1,2-ビスセレンアルカンの脱離反応の研究	共	2015年10月17日	65回日本薬学会近畿支部大会 富田林市, 大阪大谷大学	○多羅尾あさみ、仁木亜弥、萬代 咲、内本ひとみ、有光健治、川崎郁男、西出喜代治
50. 新規イオン性キラルリガンドの合成とその	共	2015年10月17日	65回日本薬学会近畿支部大会 富田林	(1武庫川女大薬・2京都薬大) 内本 ひとみ1・○池田 未来1・川崎 郁男1・有光 健治1・山下 正行2・西出 喜代治1

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
れを用いる触媒的不斉水素移動型還元反応			市, 大阪大谷大学	
51. 医薬品の苦味抑制に及ぼす因子としてのクロロゲン酸由来物質(カフェ酸、キナ酸)の効果	共	2015年10月17日	65回日本薬学会近畿支部大会 富田林市, 大阪大谷大学	○白石早祐子、川崎 郁勇、西出 喜代治、中村早貴、原口珠実、小島穂菜美、吉田都、内田享弘
52. 1,2-ビスセレンキシドと1,2-ビススルフォキシドの脱離反応における反応性の検討	共	2015年3月27日	(日本薬学会第135年会、神戸)	多羅尾あさみ、○杉本衣梨、池田未来、木寺美玖、牧野華子、仁木亜弥、内本ひとみ、有光健治、川崎郁勇、西出喜代治
53. 1,2-ビスセレンキシドと1,2-ビススルフォキシドの脱離反応における反応性の検討	共	2015年3月27日	日本薬学会第135年会、神戸	多羅尾あさみ、○杉本衣梨、池田未来、木寺美玖、牧野華子、仁木亜弥、内本ひとみ、有光健治、川崎郁勇、西出喜代治
54. 1,2-ビスセレンキシドと1,2-ビススルフォキシドの脱離反応における反応性の検討	共	2015年3月27日	日本薬学会第135年会、神戸	多羅尾あさみ、○杉本衣梨、池田未来、木寺美玖、牧野華子、仁木亜弥、内本ひとみ、有光健治、川崎郁勇、西出喜代治
55. 1,2-ビスセレンニル化合物を用いた(E)-アリルセレンニルアルケンへの脱離反応	共	2015年3月	日本薬学会第135年会、神戸	○多羅尾あさみ、杉本衣梨、仁木亜弥、木寺美玖、内本ひとみ、有光健治、川崎郁勇、西出喜代治
56. 糖骨格を有するスルホニウム塩の調製および不斉反応への応用	共	2014年10月11日	64回日本薬学会近畿支部大会 京都市, 京都薬科大学	○石黒真澄、有光健治、澤村知世、松浦温子、内本ひとみ、川崎郁勇、西出喜代治 糖骨格を有するスルホニウム塩の調製とそのスルホニウム塩を不斉反応への応用について検討した。
57. Bisselenylalkenes と bisulfenylalkenes の酸化反応の比較検討	共	2014年10月11日	64回日本薬学会近畿支部大会 京都市, 京都薬科大学	多羅尾あさみ、○杉本衣梨、池田未来、木寺美玖、牧野華子、仁木亜弥、内本ひとみ、有光健治、川崎郁勇、西出喜代治 Bisselenylalkenes と bisulfenylalkenes の酸化反応の比較をして、それぞれの結果の差異について検討した。
58. Studies on a novel 4-aminopyridines formation reaction via the ring transformation of oxazine derivatives	共	2014年9月16日	24th French-Japanese Symposium on Medicinal and Fine Chemistry (FJS 2014), Lyon, France	○Hitomi Uchimoto, Yukako Tabuchi, Yusa Kakumoto, Ikuo Kawasaki, Yoshitaka Ohishi, Kenji Arimitsu, Kiyoharu Nishide oxazine誘導体の環変換反応を利用する新しい 4-aminopyridines の形成反応について報告した。
59. ⁷⁷ Se NMRを用いた1,2-Bis(arylseleno)-1-alkenesのanti脱離の機構		2014年3月29日	日本薬学会第134年会、熊本	○多羅尾あさみ、杉本 衣梨、松澤 香月、池田 未来、内本ひとみ、有光 健治、川崎 郁勇、西出 喜代治 ⁷⁷ Se NMRを用いた1,2-Bis(arylseleno)-1-alkenesのanti脱離の機構について検討した
60. ベンゾオキサジンの環変換反応を利用したキノリン環の新規構築反応の検討	共	2014年3月29日	日本薬学会第134年会、熊本	ベンゾオキサジンの環変換反応を利用したキノリン環の新規構築反応の検討について報告した 内本ひとみ、○金谷久美子、迫田 莉果、有光 健治、川崎 郁勇、西出 喜代治
61. イミダゾリウム構造を持つ新規キラルリガンドに関する研究	共	2014年3月29日	日本薬学会第134年会、熊本	(1武庫川女大薬・2京都薬大) ○内本 ひとみ1・川崎 郁勇1・三浦 千明1・山下 正行2・西出 喜代治1 イミダゾリウム構造を持つ新規キラルリガンドに関する研究について発表してた。
62. イミダゾリウム含有リガンドを利用した	共	2013年10月18日	43回複素環化学討論会、岐阜市	(1武庫川女大薬・2京都薬大) ○内本 ひとみ1・窪 弥生1・川崎 郁勇1・有光 健治1・山下 正行2・太田 俊作2・西出 喜代治

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
リサイクル反応の開発及び医薬品合成への応用				1 イミダゾリウム含有リガンドを利用したリサイクル反応の開発及び医薬品合成への応用について、シンポジウムで発表した。
63. 1,2-Bis(arylseleno)-1-alkenesの酸化により合成したbisselenoxideの ⁷⁷ Se NMRを用いた脱離反応の検討	共	2013年10月12日	63回日本薬学会近畿支部大会 京田辺市、同志社女子大学	多羅尾あさみ、南前奈美、太田千紬、内本ひとみ、有光健治、川崎郁勇、西出喜代治 1,2-Bis(arylseleno)-1-alkenesの酸化により合成したbisselenoxideの ⁷⁷ Se NMRを用いた脱離反応の検討について発表した
64. オキサジンからの環変換を利用した新しい複素環構築反応の検討	共	2013年10月12日	63回日本薬学会近畿支部大会 京田辺市、同志社女子大学	内本ひとみ、山口恵理、富永千尋、有光健治、伊藤由紀江、佐々木摩耶、川崎郁勇、大石義孝、西出喜代治 オキサジンからの環変換を利用した新しい複素環構築反応の検討について発表した
65. 1,2-Bis[4-(trimethylsilyl)phenylseleno]-1-alkenesの酸化により合成したselenoxideの ⁷⁷ Se NMRを用いる脱離反応の検討	共	2013年8月2日	33回有機合成若手セミナー 明日の有機合成を担う人のために、神戸市、神戸大学	多羅尾あさみ、松澤香月、内本ひとみ、有光健治、川崎郁勇、西出喜代治 1,2-Bis[4-(trimethylsilyl)phenylseleno]-1-alkenesの酸化により合成したselenoxideの ⁷⁷ Se NMRを用いる脱離反応の検討
66. 幾つかのbenzo[b]furo[3,2-d][1,3]oxazine誘導体からの新規benzo[b]furo[3,2-b]pyridine誘導体の合成	共	2013年3月28日	日本薬学会第133年会、横浜	田淵裕佳子、角本悠早、佐々木麻耶、伊藤由紀江、内本ひとみ、川崎郁勇、大石義孝、西出喜代治 幾つかのbenzo[b]furo[3,2-d][1,3]oxazine誘導体からの新規benzo[b]furo[3,2-b]pyridine誘導体の合成について発表した
67. イオン液体中でのリサイクル反応による不斉水素移動型還元反応を利用する光学活性テルブタリンの合成研究	共	2013年3月28日	日本薬学会第133年会、横浜	(1武庫川女大・薬, 2京都薬大) 内本ひとみ1、○窪弥生1、谷田紗織1、岸 亜里沙1、酒井千尋1、白木千尋1、橋本和佳奈1、山田翔子1、川崎郁勇1、田淵裕佳子1、山下正行2、太田俊作2、西出喜代治1 イオン液体中でのリサイクル反応による不斉水素移動型還元反応を利用する光学活性テルブタリンの合成研究について発表した
68. 1,2-Bis(arylseleno)alkenesの酸化とその反応機構の検討	共	2013年3月28日	日本薬学会第133年会、横浜	田淵裕佳子、多羅尾あさみ、杉本衣梨、南前奈美、石田久美、太田千紬、内本ひとみ、川崎郁勇、西出喜代治 1,2-Bis(arylseleno)alkenesの酸化とその反応機構の検討した結果について発表した
69. リサイクル反応系を利用した光学活性テルブタリンの合成	共	2012年11月	30回メディシナルケミストリーシンポジウム、東京	内本ひとみ1)、窪 弥生1)、田淵裕佳子1)、川崎郁勇1)、山下正行2)、太田俊作2)、西出喜代治1) リサイクル反応系を利用した光学活性テルブタリンの合成に成功したことを報告した。
70. イオン液体中でのリサイクル可能な不斉水素移動型還元反応系を用いる光学活性テルブタリンの合成研究	共	2012年10月	62回日本薬学会近畿支部大会 西宮市、武庫川女子大学	川崎郁勇1、内本ひとみ1、窪弥生1、酒井千尋1、田淵裕佳子1、大永陽子1、栗田愛1、谷田紗織1、山下正行2、太田俊作2、西出喜代治1 イオン液体中でのリサイクル可能な不斉水素移動型還元反応系を用いる光学活性テルブタリンの合成研究について報告した。
71. 1,2-Bis(arylseleno)alkenes の酸化-Selenoxideの脱離メカニズムの検討	共	2012年10月	62回日本薬学会近畿支部大会 西宮市、武庫川女子大学	田淵裕佳子、多羅尾あさみ、杉本衣梨、南前奈美、石田久美、太田千紬、清水友香、内本ひとみ、川崎郁勇、西出喜代治 1,2-Bis(arylseleno)alkenes の酸化反応であるSelenoxideの脱離メカニズムについて検討した。
72. Benzo[b]furo[3,2-d][1,3]oxazine誘導体からのbenzo[b]furo[3,2-b]pyridinesへの変換反応	共	2012年10月	62回日本薬学会近畿支部大会 西宮市、武庫川女子大学	田淵裕佳子、角本悠早、川口奈奈子、谷口純子、伊藤由紀江、佐々木麻耶、内本ひとみ、川崎郁勇、大石義孝、西出喜代治 Benzo[b]furo[3,2-d][1,3]oxazine誘導体からのbenzo[b]furo[3,2-b]pyridinesへの変換反応について報告した。
73. 光学活性 4-hydroxy	共	2012年10月	42回複素環化学討	川崎郁勇1、内本ひとみ1、久留米愛2、田淵裕佳子1、太田俊作2、山

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
-2-pipecolic acid 誘導体の簡便な不斉合成			論会、京都市	下正行2、西出喜代治1 光学活性 4-hydroxy-2-pipecolic acid 誘導体の簡便な不斉合成法の開発について報告した。
74. 新規benzo[b]furo[3,2-b]pyridine誘導体合成法の開発	共	2012年10月	42回複素環化学討論会、京都市	田淵 裕佳子・角本 悠早・内本 ひとみ・川崎 郁勇・大石 義孝・西出 喜代治 新規benzo[b]furo[3,2-b]pyridine誘導体合成法の開発について報告した。
75. Benzo[b]furo[3,2-d][1,3]oxazine誘導体を利用する新規benzo[b]furo[3,2-b]pyridine化合物の合成	共	2012年3月	日本薬学会第132年会、札幌	田淵裕佳子、角本悠早、川口奈奈子、谷口絢子、内本ひとみ、川崎郁勇、大石義孝、西出喜代治 Benzo[b]furo[3,2-d][1,3]oxazine誘導体を利用する新規なbenzo[b]furo[3,2-b]pyridine化合物の合成を報告した。
76. 光学活性 4-hydroxy-2-pipecolic acid 誘導体の簡便で実用的な不斉合成法の開発	共	2012年3月	日本薬学会第132年会、札幌	川崎郁勇1, 内本ひとみ1, 久留米愛2, 田淵裕佳子1, 生島寛子1, 祖濱由希子1, 福岡綾子1, 太田俊作2, 山下正行2, 西出喜代治1 光学活性 4-hydroxy-2-pipecolic acid 誘導体の簡便で実用的な不斉合成法の開発について報告した。
77. 1,2-Bis(arylseleno)alkenes の酸化	共	2012年3月	日本薬学会第132年会、札幌	田淵裕佳子, 多羅尾あさみ, 杉山真紀, 野々口有希, 鍵山早紀, 内本ひとみ, 川崎郁勇, 西出喜代治 1,2-Bis(arylseleno)alkenes の酸化反応について検討した結果を報告した。
78. 再利用可能な不斉水素移動型還元反応を利用した光学活性テルプタリンの合成研究	共	2012年3月	日本薬学会第132年会、札幌	川崎郁勇, 窪弥生, 東美帆, 内本ひとみ, 田淵裕佳子, 山下正行, 太田俊作, 西出喜代治 再利用可能な不斉水素移動型還元反応を利用した光学活性テルプタリンの合成研究について報告した。
79. Benzo[b]furo[3,2-b]pyridinesの合成	共	2011年11月	31回有機合成若手セミナー 明日の有機合成を担う人のために、京都市、京都大学	田淵裕佳子、角本悠早、川崎郁勇、内本ひとみ、大石義孝、西出喜代治 Benzo[b]furo[3,2-b]pyridinesの新規合成法を見出した。
80. イオン液体中でのリサイクル可能な不斉水素移動型還元反応を利用する光学活性テルプタリンの合成に用いる基質の検討	共	2011年11月	31回有機合成若手セミナー 明日の有機合成を担う人のために、京都市、京都大学	川崎郁勇1、内本ひとみ、窪弥生、田淵裕佳子、山下正行、太田俊作、西出喜代治 イオン液体中でのリサイクル可能な不斉水素移動型還元反応を利用する光学活性テルプタリンの合成に用いる基質を検討した。
81. 1,2-Bis[4-(trimethylsilyl)phenylseleno]-1-alkenesの酸化	共	2011年11月	31回有機合成若手セミナー 明日の有機合成を担う人のために、京都市、京都大学	田淵裕佳子、多羅尾あさみ、杉山真紀、野々口有希、高原彩菜、内本ひとみ、川崎郁勇、西出喜代治 1,2-Bis[4-(trimethylsilyl)phenylseleno]-1-alkenesの酸化反応を検討した。
82. 1,2-Bis[4-(trimethylsilyl)phenylseleno]-1-alkenesの酸化反応	共	2011年10月	61回日本薬学会近畿支部大会 神戸市、神戸学院大学	田淵裕佳子、多羅尾あさみ、遠藤都弥、杉山真紀、野々口有希、高原彩菜、内本ひとみ、川崎郁勇、西出喜代治 1,2-Bis[4-(trimethylsilyl)phenylseleno]-1-alkenesの酸化反応を検討した。
83. α -位エピメリ化を利用した光学活性 4-hydroxy-2-pipecolic acid 誘導体の簡便な不斉合成の開発研究	共	2011年10月	61回日本薬学会近畿支部大会 神戸市、神戸学院大学	川崎郁勇, 長谷川梓, 久留米愛, 内本ひとみ, 田淵裕佳子, 生島寛子1 祖濱由希子, 福岡綾子, 山下正行, 太田俊作, 西出喜代治 カルボニル基の隣接位エピメリ化を利用した光学活性 4-hydroxy-2-pipecolic acid 誘導体の簡便な不斉合成法を開発した。
84. イオン液体中でのリサイクル反応による不斉水素移動型還元反応の基質検討及び光学活性テルプタリンの合成研究	共	2011年10月	61回日本薬学会近畿支部大会 神戸市、神戸学院大学	川崎郁勇1、内本ひとみ、窪弥生、田淵裕佳子、山下正行、太田俊作、西出喜代治 イオン液体中でのリサイクル反応による不斉水素移動型還元反応の基質を検討し、光学活性テルプタリンの合成へ応用した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
85. (Benzo[b]furo[3,2-d][1,3]oxazin-4-ylidene) acetaldehydeからの benzo[b]furo[3,2-b]pyridinesの合成	共	2011年10月	61回日本薬学会近畿支部大会 神戸市, 神戸学院大学	田淵裕佳子、角本悠早、川崎郁勇、内本ひとみ、大石義孝、西出喜代治 (Benzo[b]furo[3,2-d][1,3]oxazin-4-ylidene)acetaldehydeから benzo[b]furo[3,2-b]pyridinesを合成する新しい反応を見出した。
86. (Benzo[b]furo[3,2-d][1,3]oxazin-4-ylidene) acetaldehydeからの benzo[b]furo[3,2-b]pyridine誘導体の合成	共	2011年03月	日本薬学会第131年会、静岡	田淵裕佳子、角本悠早、多羅尾あさみ、杉山真紀、川崎郁勇、西尾さところ、大石義孝、西出喜代治 (Benzo[b]furo[3,2-d][1,3]oxazin-4-ylidene)acetaldehydeから benzo[b]furo[3,2-b]pyridine誘導体を合成する方法を開発した。
87. イオン液体中でのリサイクル反応による不斉水素移動型還元反応を利用する光学活性テルブタリンの合成研究	共	2011年03月	日本薬学会第131年会、静岡	川崎郁勇1, 内本ひとみ1, 窪弥生1, 田淵裕佳子1, 西尾さところ1, 山下正行2, 太田俊作2, 西出喜代治 イオン液体中でのリサイクル反応による不斉水素移動型還元反応を開発し、その方法を利用する光学活性テルブタリンの合成を行った。
88. 光学活性4-hydroxy-2-pipecolic acid誘導体の簡便かつ効率的な不斉合成の研究	共	2011年03月	日本薬学会第131年会、静岡	川崎郁勇、西尾さところ、久留米愛、内本ひとみ、古川愛珠沙、田淵裕佳子、福岡綾子、宮菌洋子、山下正行、太田俊作、西出喜代治 光学活性4-hydroxy-2-pipecolic acid誘導体の簡便かつ効率的な不斉合成を開発した。
89. Redox chemistry of antioxidative dihydropyridine derivatives bearing a pyrazole moiety	共	2010年12月	2010 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies, Honolulu	I. Nakanishi, M. Kamibayashi, K. Ohkubo, T. Kawashima, K. Matsumoto, T. Inaba, I. Kawasaki, M. Yamashita, N. Ikota, S. Fukuzumi, T. Ozawa, K. Anzai Pyrazole をもつ dihydropyridine 誘導体の非酸化的酸化還元反応の化学を検討した。
90. リサイクル反応を用いる光学活性テルブタリン誘導体の合成研究	共	2010年10月	60回日本薬学会近畿支部大会 枚方市, 摂南大学	川崎郁勇、内本ひとみ、田淵裕佳子、西尾さところ、千原佳子、山下正行、太田俊作、西出喜代治 リサイクル反応を用いる光学活性テルブタリン誘導体の合成を行った。
91. 光学的に純粋な4-ヒドロキシ-2-ピペコリン酸誘導体の簡便合成法の検討	共	2010年10月	60回日本薬学会近畿支部大会 枚方市, 摂南大学	川崎郁勇、福岡綾子、西尾さところ、久留米愛、内本ひとみ、田淵裕佳子、山下正行、太田俊作、西出喜代治 光学的に純粋な4-ヒドロキシ-2-ピペコリン酸誘導体の簡便な合成法の開発に成功した
92. イオン液体中でのリサイクル反応による各種ケトン類の不斉水素移動型還元反応を利用する光学活性テルブタリンの不斉合成研究	共	2010年03月	日本薬学会第130年会、岡山	川崎郁勇、内本ひとみ、田淵裕佳子、西尾さところ、久留米愛、山下正行、太田俊作、西出喜代治 イオン液体中でのリサイクル反応による各種ケトン類の不斉水素移動型還元反応を利用して光学活性テルブタリンの不斉合成研究に応用した。
93. 光学的に純粋な4種の4-hydroxy-2-pipecolic acid誘導体の簡便合成	共	2010年03月	日本薬学会第130年会、岡山	川崎郁勇、西尾さところ、久留米愛、内本ひとみ、古川愛珠沙、田淵裕佳子、山下正行、太田俊作、西出喜代治 光学的に純粋な4種の4-hydroxy-2-pipecolic acid誘導体の簡便な合成法の開発に成功した。
94. ベンゾフラン骨格を有する三環性化合物の合成とその生物活性	共	2010年03月	日本薬学会第130年会、岡山	田淵裕佳子、金光早裕子、伊藤あずさ、遠藤千賀子、川崎郁勇、西尾さところ、山下正行、大石義孝、西出喜代治 ベンゾフラン骨格を有する新規三環性化合物の合成を開発し、その生物活性を評価した。
95. 6年制薬学部教育における基礎学力向上のための学習支援の効果	共	2010年03月	日本薬学会第130年会、岡山	江頭昌志、齋藤まど香、張替直輝、川崎郁勇、黒田幸弘、山本いづみ 6年制薬学部教育における基礎学力向上のために種々行った学習支援について、それらの効果を検証した。
96. リサイクル反応を利用する光学活性テル	共	2009年10月	59回日本薬学会近畿支部大会 東大阪	川崎郁勇、内本ひとみ、田淵裕佳子、西尾さところ、久留米愛、山下正行、太田俊作、西出喜代治

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
ブタリンの合成研究			市, 近畿大学	リサイクル反応を利用して光学活性テルブタリンの合成研究を行った。
97. ジメチルスルホキシニウムメチリドを用いた1,8b位置換ベンゾ[b]シクロブタ[d]ピラン-3-オンの骨格変換反応	共	2009年03月	日本薬学会第129年会 京都	久留米愛, 原田陽子, 岡田恭子, 角田和哉, 川崎郁勇, 太田俊作, 山下正行 ジメチルスルホキシニウムメチリドを用いた1,8b位置換ベンゾ[b]シクロブタ[d]ピラン-3-オンの新規骨格変換反応を開発した。
98. 4-Chloro-3-formylbenzo[b]furo[3,2-b]pyridineからの縮合四環性化合物の合成	共	2009年03月	日本薬学会第129年会 京都	遠藤千賀子, 川崎郁勇, 関本佳織, 藤原かおり, 田淵裕佳子, 大石義孝, 山下正行, 西出喜代治 4-Chloro-3-formylbenzo[b]furo[3,2-b]pyridineからの縮合四環性化合物の新規合成法を開発した。
99. 複素環を有するbenzo[b]furan誘導体の合成と生物活性	共	2009年03月	日本薬学会第129年会 京都	伊東あずさ, 川崎郁勇, 寺脇亜生子, 富岡美貴, 田淵裕佳子, 大石義孝, 山下正行, 西出喜代治 複素環を有するbenzo[b]furan誘導体を合成し、その生物活性を評価した
100. Benzo[b]furo[3,2-d][1,3]oxazine誘導体の合成とその生物活性	共	2009年03月	日本薬学会第129年会 京都	田淵裕佳子, 下野慶美, 藤田理恵, 川崎郁勇, 武田誠一, 黒田健, 田中修一, 西出喜代治, 大石義孝 Benzo[b]furo[3,2-d][1,3]oxazine誘導体を合成し、それらの生物活性を評価した。
101. ベンゾフラン骨格をコアとする膵臓癌および乳癌治療薬創製研究	共	2009年01月	平成20年度武庫川女子大学共同研究センターシンポジウム: 受容体分子を標的とする新規制癌剤の創製 武庫川女子大学、西宮市	川崎 郁勇、大石 義孝 ベンゾフラン骨格をコアとする膵臓癌および乳癌治療薬創製研究について講演した。
102. A novel skeleton transformation of 2a-substituted 2a, 8b-dihydro-3H-benzo[b]cyclobuta[d]pyran-3-ones to 2-(2-oxoethyl)-2H-1-benzopyrans promoted by a combination of ZnI2-organic base-H2O	共	2008年12月	International Symposium on Integrated Medicinal Science - On the basis of traditional medicine to biomolecular system, Kyoto	Kazuya Tsunoda, Navnath Dnyanoba Yadav, Masayuki Yamashita, Yumiko Saya, Ai Kurume, Ikuo Kawasaki, and Shunsaku Ohta 2a-置換 2a,8b-dihydro-3H-benzo[b]cyclobuta[d]pyran-3-ones の 2-(2-oxoethyl)-2H-1-benzopyrans への ZnI2-有機塩基-水 が促進する新規骨格変換反応を開発した。
103. 抗アレルギー作用を有する thunberginol 類の合成と構造活性相関	共	2008年12月	平成20年度「戦略的大学連携支援事業」 先端科学セミナー京都 ケミカルバイオロジーシンポジウム 京都	久留米愛, 山下正行, 王啓隆, 松田久司, 吉川雅之, 川崎郁勇, 西出喜代治, 太田俊作 抗アレルギー作用を有する thunberginol 類の合成法の開発とそれらの構造活性相関について報告した。
104. イオン液体中で用いる不斉金属触媒の開発とテルブタリン不斉合成への応用	共	2008年11月	34 回反応と合成の進歩シンポジウム 京都	川崎郁勇, 田淵裕佳子, 西出喜代治, 千原佳子, 辻 智子, 久留米愛, 山下正行, 太田俊作 イオン液体中で用いる不斉金属触媒を開発し、その反応系をテルブタリン不斉合成へ応用した
105. 4-Chloro-3-formylbenzo[b]furo[3,2-b]pyridineからの四環性化合物の合成	共	2008年11月	第28回有機合成若手セミナー 明日の有機合成を担う人のために 吹田市, 大阪大学	遠藤千賀子, 川崎郁勇, 関本佳織, 藤原かおり, 田淵裕佳子, 大石義孝, 山下正行, 西出喜代治 4-Chloro-3-formylbenzo[b]furo[3,2-b]pyridineから新規四環性化合物の合成を開発した。
106. 複素環を有するbenzo[b]furan誘導体	共	2008年11月	第28回有機合成若手セミナー 明日	伊東あずさ, 川崎郁勇, 寺脇亜生子, 富岡美貴, 田淵裕佳子, 大石義孝, 山下正行, 西出喜代治

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
の合成と反応			の有機合成を担う人のために 吹田市、大阪大学	複素環を有するbenzo[b]furan誘導体の新規合成法の開発とそれらの反応を検討した。
107. ZnI ₂ -Organic base-H ₂ Oにより促進される2a位置換2a, 8b-ジヒドロ-3H-ベンゾ[b]シクロブタ[d]ピラン-3-オンの新規骨格変換反応	共	2008年11月	第38回複素環化学討論会 福山	久留米愛a、Navnath Dnyanoba Yadava、道祖友美子a、川崎郁勇b、太田俊作a、山下正行 ZnI ₂ -Organic base-H ₂ Oにより促進される2a位置換2a, 8b-ジヒドロ-3H-ベンゾ[b]シクロブタ[d]ピラン-3-オンの新規骨格変換反応を開発した。
108. Thunberginol B 及び関連化合物の合成とそれらの抗アレルギー活性	共	2008年11月	27回メディスナリーケミストリーシンポジウム 大阪市	久留米 愛、山下正行、王 啓隆、松田久司、吉川雅之、川崎郁勇、西出 喜代治、太田俊作 Thunberginol B 及び関連化合物の新規合成を開発し、それらの抗アレルギー活性を評価した。
109. Benzo[b]furo[3, 2-d][1, 3]oxazin-4-ylideneacetaldehyde誘導体の合成とその生物活性	共	2008年11月	27回メディスナリーケミストリーシンポジウム 大阪市	田淵裕佳子、安藤裕子、金村英美、大石孝洋、川崎郁勇、西出喜代治、大石義孝 Benzo[b]furo[3, 2-d][1, 3]oxazin-4-ylideneacetaldehyde誘導体の合成法の開発しそれらの生物活性を評価した。
110. Development of recycling catalytic asymmetric transfer hydrogenation system in ionic liquid	共	2008年10月	18th International Symposium on Fine Chemistry and Functional Polymers (FCFP-XVIII) & IUPAC 4th International Symposium on Novel Materials and Synthesis (NMS-IV) Zhenjiang, China	Ikuo Kawasaki, Tomoko Tsuji, Yoshiko Chihara, Ai Kurume, Masayuki Yamashita, Shunsaku Ohta, Yukako Tabuchi, Kiyoharu Nishide イオン液体中で、再利用可能な触媒の不斉水素移動型反応の開発について講演した。
111. 4-Chloro-3-formylbenzo[b]furo[3, 2-b]pyridine からの四環性化合物の合成	共	2008年10月	58回日本薬学会近畿支部大会 神戸市、神戸薬科大学	遠藤千賀子、川崎郁勇、関本佳織、藤原かおり、田淵裕佳子、大石義孝、山下正行、西出喜代治 4-Chloro-3-formylbenzo[b]furo[3, 2-b]pyridine からの四環性化合物の合成
112. 複素環を有するbenzo[b]furan 誘導体の合成と反応	共	2008年10月	58回日本薬学会近畿支部大会 神戸市、神戸薬科大学	伊東あずさ、川崎郁勇、寺脇亜生子、富岡美貴、田淵裕佳子、大石義孝、山下正行、西出喜代治 複素環を有するbenzo[b]furan 誘導体の合成を開発し、それらの反応を検討した。
113. Development of Catalytic System in Ionic Liquid, Evaluation of Activity Maintenance and Application to Asymmetric Synthesis of Terbutaline	共	2008年03月	9th Annual Florida Heterocyclic and Synthetic IUPAC-Sponsored Conference, Florida USA	Ikuo Kawasaki, Tomoko Tsuji, Yoshiko Chihara, Ai Kurume, Masayuki Yamashita, 2 Hirokyu Yasui, Shunsaku Ohta, Yukako Tabuchi, Yoshitaka Ohishi イオン液体中で使用する触媒反応系の開発と活性維持の評価を行い、その方法をテルブタリンの不斉合成へ応用した。
114. 不斉[2+2]光環化付加反応の検討と、不斉Linderol Aの改良合成	共	2008年03月	日本薬学会第128年会 横浜	山下正行、前田祐子、野村沙代、Yadav Navnath D., 佐脇剛、久留米愛、川崎郁勇、太田俊作 不斉[2+2]光環化付加反応を検討し、その方法を不斉Linderol Aの改良合成へと応用した。
115. Adunctin Eの全合成研究(2)	共	2008年03月	日本薬学会第128年会 横浜	山下正行、北尾純子、隅田有人、Yadav Navnath D., 川崎郁勇、久留米愛、太田俊作 天然物 adunctin E の全合成研究を行い第2報として報告した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
116. イオン性液体中で用いる不斉金属触媒の開発と活性維持評価およびテルプタリン不斉合成への応用	共	2008年03月	日本薬学会第128年会 横浜	川崎郁勇, 辻 智子, 千原佳子, 久留米愛, 山下正行, 安井裕之, 太田俊作, 中野祐子, 大石義孝 イオン性液体中で用いる不斉金属触媒の開発に成功し、それらの活性維持の評価および喘息治療薬テルプタリン不斉合成への応用を実施した。
117. 8-Bromo-4-chloro-3-formylbenzo[b]furo[3,2-b]pyridineからの四環性化合物の合成	共	2008年03月	日本薬学会第128年会 横浜	遠藤千賀子, 柏木潤子, 寺井久弥, 山口真実, 安藤久美子, 川崎郁勇, 國友順一, 大石義孝 8-Bromo-4-chloro-3-formylbenzo[b]furo[3,2-b]pyridineからの四環性化合物を合成する方法を開発した。
118. (Z)-(Benzo[b]furo[3,2-d][1,3]oxazin-4-ylideno)acetaldehydesおよびその誘導体の合成 (第8報)	共	2008年03月	日本薬学会第128年会 横浜	田淵裕佳子, 大西加奈子, 山口真実, 安藤久美子, 川崎郁勇, 國友順一, 大石義孝 (Z)-(Benzo[b]furo[3,2-d][1,3]oxazin-4-ylideno)acetaldehydesおよびその誘導体の合成を行い、第8報として報告した。
119. Lactam構造を有するbenzo[b]furan誘導体の合成 (第2報)	共	2008年03月	日本薬学会第128年会 横浜	金光早祐子, 平田佐智, 安藤久美子, 山口真実, 川崎郁勇, 國友順一, 大石義孝 Lactam構造を有するbenzo[b]furan誘導体の合成をおこない、第2報として報告した。
120. 2-Thiazolylbenzo[b]furan誘導体の合成及びその細胞増殖抑制活性	共	2008年03月	日本薬学会第128年会 横浜	坂田要子, 倉元麻梨, 安藤久美子, 川崎郁勇, 國友順一, 荒木宏昌, 田中修一, 武田誠一, 大石義孝 2-Thiazolylbenzo[b]furan誘導体の合成を行い、それらの腫瘍細胞増殖抑制活性を評価した。
121. 3-(2-Alkyl-1-cyano-2-hydroxyvinylcarbonyl)benzo[b]furan誘導体の合成 (第三報)	共	2008年03月	日本薬学会第128年会 横浜	山口真実, 田中美帆, 安藤久美子, 川崎郁勇, 國友順一, 大石義孝 3-(2-Alkyl-1-cyano-2-hydroxyvinylcarbonyl)benzo[b]furan誘導体の合成を行い、第三報として報告した。
122. cysLT1 and/or cysLT2 antagonist活性を指向したsulfamoylbenzo[b]furansの合成	共	2008年03月	日本薬学会第128年会 横浜	片田真紀, 白川早苗, 川崎郁勇, 山口真実, 安藤久美子, 國友順一, 大石義孝 cysLT1 and/or cysLT2 antagonist活性を指向したsulfamoylbenzo[b]furansの合成の行った。
123. cysLT1 and/or cysLT2受容体阻害活性を目的としたヘテロ5員環を有するbenzo[b]furan誘導体の合成	共	2008年03月	日本薬学会第128年会 横浜	伊東あずさ, 赤松寛子, 赤井佑季子, 川崎郁勇, 安藤久美子, 山口真実, 國友順一, 大石義孝 cysLT1 and/or cysLT2受容体阻害活性を目的としたヘテロ5員環を有するbenzo[b]furan誘導体の合成を行った。
124. 甘茶成分thunberginol 類の合成と抗アレルギー活性	共	2008年01月	難病克服をめざした分子統合創薬科学研究成果発表会, 京都市	久留米愛, 松田久司, 川崎郁勇, 山下正行, 王啓隆, 松平幸大, 吉川雅之, 太田俊作 甘茶の成分である thunberginol 類を合成し、それらの抗アレルギー活性を評価した。
125. 光 [2+2] 環化付加反応を利用するimidazolylcyclobutanesの位置および立体選択的合成	共	2008年01月	難病克服をめざした分子統合創薬科学研究成果発表会, 京都市	趙春深, Abdul Khadeer, 角野晶子, 久留米愛, 川崎郁勇, 山下正行, 太田俊作 光 [2+2] 環化付加反応を利用したimidazolylcyclobutanesの位置および立体選択的合成法を開発した。
126. Adunctin E の全合成研究	共	2007年11月	33 回反応と合成の進歩シンポジウム 長崎	山下正行, Yadav Navnath Dnyanoba, 隅田有人, 久留米愛, 太田俊作, 川崎郁勇 天然物 Adunctin E の全合成研究を行った。
127. 8-Bromo-4-chloro-3-formylbenzo[b]furo[3,2-b]pyridine からの四環性化合物の閉環合成	共	2007年11月	第27回有機合成若手セミナー 明日の有機合成を担う人のために 京都, 京都大学	遠藤千賀子, 柏木潤子, 寺井久弥, 川崎郁勇, 安藤久美子, 山口真実, 國友順一, 大石義孝 8-Bromo-4-chloro-3-formylbenzo[b]furo[3,2-b]pyridine から四環性化合物を閉環反応を利用して合成した。
128. cysLT1 and/or	共	2007年11月	第27回有機合成若	伊東あずさ, 赤松寛子, 赤井佑季子, 川崎郁勇, 安藤久美子, 山口

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
cysLT2受容体阻害活性を目的とした2位にヘテロ五員環を有するbenzo[b]furan誘導体の合成			手セミナー 明日の有機合成を担う人のために 京都, 京都大学	真実、國友順一、大石義孝 cysLT1 and/or cysLT2受容体阻害活性を目的とした、2位にヘテロ五員環を有するbenzo[b]furan誘導体を合成した。
129. cysLT1 / cysLT2 antagonist活性を指向した sulfamoylbenzo[b]furansの合成	共	2007年11月	第27回有機合成若手セミナー 明日の有機合成を担う人のために 京都, 京都大学	片田真紀、白川早苗、中野祐子、川崎郁男、山口真実、安藤久美子、國友順一、大石義孝 cysLT1 / cysLT2 antagonist活性を指向したsulfamoylbenzo[b]furansを合成した。
130. Lactam 構造を有する Benzo[b]furan 誘導体の合成と反応	共	2007年11月	第27回有機合成若手セミナー 明日の有機合成を担う人のために 京都, 京都大学	金光早祐子、安藤久美子、山口真実、平田佐智、川崎郁男、國友順一、大石義孝 Lactam 構造を有する Benzo[b]furan 誘導体を合成し、その反応を検討した。
131. (Z)-Benzo[b]furo[3,2-d][1,3]oxazin-4-ylideno)acetaldehydesからの合成と反応	共	2007年11月	第27回有機合成若手セミナー 明日の有機合成を担う人のために 京都, 京都大学	田淵裕佳子、大西加奈子、山口真実、安藤久美子、川崎郁男、國友順一、大石義孝 (Z)-Benzo[b]furo[3,2-d][1,3]oxazin-4-ylideno)acetaldehydesからの誘導体合成とその反応について報告した。
132. 光[2+2]環化付加反応を利用する imidazolylcyclobutanes の位置および立体選択的合成	共	2007年10月	第37回複素環化学討論会 長野	趙春深, Abdul Khadeer, 角野晶子, 久留米 愛, 川崎郁男, 山下正行, 太田俊作 光[2+2]環化付加反応を利用する imidazolylcyclobutanes の位置および立体選択的合成を開発した。
133. (Z)-(Benzo[b]furo[3,2-d][1,3]oxazin-4-ylideno)acetaldehydesからの合成と反応 (第7報)	共	2007年10月	57回日本薬学会近畿支部大会 高槻市, 大阪薬科大学	田淵裕佳子, 大西加奈子, 山口真実, 安藤久美子, 川崎郁男, 國友順一, 大石義孝 (Z)-(Benzo[b]furo[3,2-d][1,3]oxazin-4-ylideno)acetaldehydesからの合成と反応を検討し、第7報として報告した。
134. 3-(2-Alkyl-1-cyano-2-hydroxyvinylcarbonyl)benzo[b]furan誘導体の合成 (第二報)	共	2007年10月	57回日本薬学会近畿支部大会 高槻市, 大阪薬科大学	山口真実, 田中美帆, 安藤久美子, 川崎郁男, 國友順一, 大石義孝 3-(2-Alkyl-1-cyano-2-hydroxyvinylcarbonyl)benzo[b]furan誘導体を合成し、第二報として報告した。
135. 8-Bromo-4-chloro-3-formylbenzo[b]furo[3,2-b]pyridineから四環性化合物の閉環縮合合成	共	2007年10月	57回日本薬学会近畿支部大会 高槻市, 大阪薬科大学	遠藤千賀子, 柏木潤子, 寺井久弥, 川崎郁男, 安藤久美子, 山口真実, 國友順一, 大石義孝 8-Bromo-4-chloro-3-formylbenzo[b]furo[3,2-b]pyridineから四環性化合物を閉環縮合反応を利用して合成した。
136. cysLT1 and/or cysLT2受容体阻害活性を目的とした2位にヘテロ五員環を有するbenzo[b]furan誘導体の合成	共	2007年10月	57回日本薬学会近畿支部大会 高槻市, 大阪薬科大学	伊東あずさ, 赤松寛子, 赤井佑季子, 川崎郁男, 安藤久美子, 山口真実, 國友順一, 大石義孝 cysLT1 and/or cysLT2受容体阻害活性を目的とした2位にヘテロ五員環を有するbenzo[b]furan誘導体の合成
137. Lactam構造を有する benzo[b]furan誘導体の合成	共	2007年10月	57回日本薬学会近畿支部大会 高槻市, 大阪薬科大学	金光早祐子, 平田佐智, 安藤久美子, 山口真実, 川崎郁男, 國友順一, 大石義孝 Lactam構造を有するbenzo[b]furan誘導体を合成した。
138. 不斉補助基を有するクマリン誘導体とエチレンとの[2+2]光環化付加反応におけるジアステレオ面選択性について	共	2007年10月	57回日本薬学会近畿支部大会 高槻市, 大阪薬科大学	前田祐子, 山下正行, Yadav N. Dnyanoba, 佐脇 剛, 久留米愛, 川崎郁男, 太田俊作 不斉補助基を有するクマリン誘導体とエチレンとの[2+2]光環化付加反応におけるジアステレオ面選択性について検討した。
139. Gliricidolの全合成研究	共	2007年10月	57回日本薬学会近畿支部大会 高槻市, 大阪薬科大学	道祖父美子, 山下正行, Navnath. D. Yadav, 久留米愛, 川崎郁男, 太田俊作

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
140. ZnI2-Organic Base-H2O Catalyzed Novel Skeleton Transformation of 2a,8b-Dihydro-3H-benzo- [b]cyclobuta[d]pyran-3-ones to 2-(2-oxoethyl)-2H-1-benzopyrans	共	2007年10月	市, 大阪薬科大学 57回日本薬学会近畿支部大会 高槻市, 大阪薬科大学	天然物 Gliricidol の全合成研究を行った。 Navnath D. Yadav, Masayuki Yamashita, Yumiko Saya, Ai Kurume, Ikuo Kawasaki, Shunsaku Ohta 2a,8b-Dihydro-3H-benzo- [b]cyclobuta[d]pyran-3-ones の 2-(2-oxoethyl)-2H-1-benzopyrans への ZnI2-有機塩基-H2O が触媒する新規骨格変換反応を開発した。
141. cysLT1 / cysLT2 antagonist活性を指向した sulfamoylbenzo[b]furan誘導体の合成	共	2007年10月	57回日本薬学会近畿支部大会 高槻市, 大阪薬科大学	片田真紀, 白川早苗, 中野祐子, 川崎郁男, 山口真実, 安藤久美子, 國友順一, 大石義孝 cysLT1 / cysLT2 antagonist活性を指向したsulfamoylbenzo[b]furan誘導体の合成を行った。
142. 2-Thiazolylbenzo [b]furan 誘導体の合成及びその細胞増殖抑制活性	共	2007年10月	26回メディスナリーケミストリーシンポジウム 相模原市	坂田要子, 倉元麻梨, 安藤久美子, 川崎郁男, 國友順一, 荒木宏昌, 田中修一, 武田誠一, 大石義孝 2-Thiazolylbenzo[b]furan 誘導体を合成し、そえつらの腫瘍細胞増殖抑制活性を評価した。
143. イオン性液体中で用いる新規不斉金属触媒の開発と応用	共	2007年10月	57回日本薬学会近畿支部大会 高槻市, 大阪薬科大学	川崎郁男, 辻 智子, 千原佳子, 久留米愛, 山下正行, 太田俊作, 安藤久美子, 大石義孝 イオン性液体中で用いることのできる新規な不斉金属触媒を開発し、光学活性医薬品の供給法への応用を示した。
144. 甘茶成分 thunberginol 類の合成と抗アレルギー活性-構造活性相関および作用様式-	共	2007年09月	第49回天然有機化合物討論会 札幌	中村誠宏, 久留米愛, 松田久司, 川崎郁男, 山下正行, 王 啓隆, 松平幸大, 吉川雅之, 太田俊作 甘茶の成分である thunberginol 類を合成し、それらと抗アレルギー活性、および構造活性相関と作用様式について検討した。
145. 光[2+2]環化付加反応を利用する 1,2-diimidazolylcyclobutane 類の位置および立体選択的合成	共	2007年3月30日	日本薬学会第127年会 富山	太田俊作, Abdul Khadeer, 角野晶子, ○前田祐子, 川崎郁男, 山下正行 光[2+2]環化付加反応を利用する 1,2-diimidazolylcyclobutane 類の位置および立体選択的合成について報告した
146. Thunberginol B 及び関連化合物の合成とそれらの抗アレルギー活性	共	2007年3月30日	日本薬学会第127年会 富山'07 3/30	川崎郁男, ○久留米愛, 鎌田靖弘, 石橋志恵, 山下正行, 松田久司, 吉川雅之, 太田俊作 Thunberginol B 及び関連化合物の合成とそれらの抗アレルギー活性について評価した
147. Asymmetric Total Synthesis of (+)- and (-)-Linderol A and their Biological Evaluation	共	2007年3月29日	日本薬学会第127年会 富山	山下正行, ○Yadav Navnath Dnyanoba, 佐脇 剛, 高尾郁子, 川崎郁男, 松田久司, 吉川雅之, 太田俊作 (+)- および (-)-Linderol A の不斉全合成と、それらの薬理活性評価について報告したEvaluation
148. Adunctin E の構造は正しいか？		2007年1月26日	文部科学省学術フロンティア推進事業、文部科学省オープン・リサーチ・センター整備事業「難病克服をめざした創薬科学合同研究成果発表会 京都'07	合成したAdunctin E と文献記載の同化合物のスペクトルデータを比較検討し、その構造について議論した ○山下正行, 隅田有人, Navnath D. Yadav, 川崎郁男, 松田久司, 吉川雅之, 太田俊作
149. Asymmetric Total Synthesis of (+)-Linderol A and their biological evaluation	共	2007年1月26日	文部科学省学術フロンティア推進事業、文部科学省オープン・リサーチ・センター整備事業「難病克服をめ	Masayuki Yamashita, ○Navnath Dnyanoba Yadav, Takeshi Sawaki, Ikuo Takao, Ikuo Kawasaki, Hisashi Matsuda, Masayuki Yoshikawa, Shunsaku Ohta (+)-Linderol A の不斉全合成とそれらの薬理活性評価に関して報告した

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
150. Synthetic and biological study of hexahydrodibenzofuran natural products	共	2006年12月16日	ざした創薬科学合同研究成果発表会 京都 京都薬科大学21世紀COEプログラム「統合創薬の開拓」「若手研究者の会」研究交流会 2006 京都	Masayuki Yamashita, ONavnath Dnynoba Yadav, Takeshi Sawaki, Ikuko Takao, Ikuo Kawasaki, Hisashi Matsuda, Masayuki Yoshikawa, Shunsaku Ohta
151. メラニン生合成阻害活性天然物 (-)-リンデロール A の不斉全合成	共	2006年12月5日	36回複素環化学討論会 長崎	○山下正行, Navnath D. Yadav, 佐脇剛, 高尾郁子, 川崎郁勇, 太田俊作
152. イオン性液体中で用いる不斉水素移動型還元反応触媒の開発	共	2006年12月5日	32 回反応と合成の進歩シンポジウム 広島	川崎郁勇, ○千原佳子, 辻智子, 山下正行, 太田俊作
153. Adunctin E の全合成研究	共	2006年10月28日	56回近畿支部 京都市, 京都薬科大学	山下正行, ○隅田有人, Navnath D. Yadav, 宮武朱美, 中平真理子, 松井涼子, 上野智広, 川崎郁勇, 太田俊作
154. Thunberginol B の全合成及び関連化合物の生物活性	共	2006年10月28日	56回近畿支部 京都市, 京都薬科大学	久留米愛, 鎌田靖弘, 山下正行, 松田久司, 吉川雅之, 太田俊作 天然物 thunberginol B の全合成及び関連化合物の簡便な合成法の開発、また合成した化合物の抗アレルギー活性
155. A Novel Reaction of 1-exo-Substituted 2a-Aroyl-1, 2, 2a, 8b-tetrahydro-3H-benzo[b]cyclobuta[d]pyran-3-ones with Sulfoxonium Ylide to 2a-(1-Arylethenyl)-1, 2, 2a, 7b-tetrahydrocyclobuta[b]benzofrans	共	2006年7月26日	16th International Symposium on Fine Chemistry and Functional Polymers (FCFP-XVI) & IUPAC 2nd International Symposium on Novel Materials and their Synthesis (NMS-II), Lanzhou China	Masayuki Yamashita, Navnath Dnynoba Yadav, ○Satoshi Yamaguchi, Masaki Nagahama, Tomoki Inaba, Takeshi Sawaki, Ikuo Kawasaki, Shunsaku Ohta
156. Asymmetric Total Synthesis of (+)-Linderol A	共	2006年7月26日	16th International Symposium on Fine Chemistry and Functional Polymers (FCFP-XVI) & IUPAC 2nd International Symposium on Novel Materials and their Synthesis (NMS-II), Lanzhou China	Masayuki Yamashita, Takeshi Sawaki, Ikuko Takao, ○Yuto Sumida, Navnath Dnynoba Yadav, Ikuo Kawasaki, Shunsaku Ohta
157. Synthesis of Natural Products and Related Compounds Based on Dimerization of Heterocyclic Monomers	共	2006年7月25日	16th International Symposium on Fine Chemistry and Functional Polymers (FCFP-XVI) & IUPAC 2nd International Symposium on Novel Materials	Norihiro Sakaguchi, Masami Terano, Masayuki Yamashita, Shunsaku Ohta 複素環化合物の二量化反応を利用することにより、高度に官能基化された化合物の位置および立体選択的な反応の開発とそれらを天然物およびその類縁体の合成へ応用した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
158.新規ESR 用スピントラップ剤 (CYPMP0) の評価	共	2006年5月14日	and their Synthesis (NMS-II), Lanzhou China 第28回日本フリーラジカル学会学術集会 津	○大和田滋1、上林将人2、大田俊作2、山下正行2、川崎郁勇2、亀田裕昭3、岡田泰一3、真明正志4、遠藤伸之5、古武弥成6
159.マイクロウェーブを用いる有機合成反応～エステル交換反応、脱メチル化反応	共	2006年3月30日	日本薬学会第126年会 仙台	山下正行、○山口智史、竹内敦美、佐脇剛、隅田有人、川崎郁勇、太田俊作
160.Linderol A の不斉全合成研究	共	2006年3月30日	日本薬学会第126年会 仙台	山下正行、○隅田有人、佐脇剛、山口智史、高尾郁子、川崎郁勇、太田俊作
161.イオン性液体中でのケトンの不斉水素移動型還元反応に用いる再利用可能な触媒系の開発	共	2006年3月30日	日本薬学会第126年会 仙台	川崎郁勇、辻智子、○千原佳子、前田祐子、川崎真代、山下正行、太田俊作
162.新規スピントラップ剤CYPMP0	共	2006年3月28日	日本薬学会第126年会 仙台	中西郁夫1,2、○伊古田暢夫1、薬丸晴子1、乳井美奈子1、西澤千穂1、小澤俊彦1、亀田裕昭3、岡田泰一3、大田俊作4、山下正行4、川崎郁勇4、上林将人4 (1 放医研レドックス制御, 2 阪大院工SORST, 3 三國製薬, 4 京都薬大)
163.First Asymmetric Total Synthesis of (+)-Linderol A	共	2006年3月5日	Joint International Symposium on Integrated Medicinal Science for Drug Discovery - Tradition to Structural Biology / Medicinal Science Research on Difficult Diseases, Kyoto (Joint International Symposium on Integrated Medicinal Science for Drug Discovery - Tradition to Structural Biology / Medicinal Science Research on Difficult Diseases, Kyoto	Masayuki Yamashita, ○Takeshi Sawaki, Ikuko Takao, Navnath D. Yadav, Ikuo Kawasaki, Shunsaku Ohta
164.Development of a Recyclable Catalyst System for Asymmetric Transfer Hydrogenation of Ketones in Ionic Liquid	共	2006年3月5日	(Joint International Symposium on Integrated Medicinal Science for Drug Discovery - Tradition to Structural Biology / Medicinal Science Research on Difficult Diseases, Kyoto	Ikuo Kawasaki, ○Tomoko Tsuji, Masayuki Yamashita, Shunsaku Ohta
165.Synthesis and Application of Functional molecules Having an Azole Ring	共	2005年12月24日	京都薬科大学21世紀COEプログラム「統合創薬の開拓」「若手研究者の会」研究交流会 京都	Ikuo Kawasaki, Abdul Khadeer, Kazuya Tsunoda, ○Yoshiko Chihara, Tomoko Tsuji, Masayuki Yamashita, Shunsaku Ohta (Department of Functional Molecular Chemistry, Kyoto Pharmaceutical University)
166.Synthetic Study on Benzofuran Natural Products	共	2005年12月24日	京都薬科大学21世紀COEプログラム「統合創薬の開	Masayuki Yamashita, Takeshi Sawaki, ○Yuto Sumida, Ikuo Kawasaki, Shunsaku Ohta (Department of Functional Molecular Chemistry, Kyoto

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
167. Novel Transformation of Coumarin Derivatives with Sulfur Ylide	共	2005年12月24	拓「若手研究者の会」研究交流会 京都 京都薬科大学21世紀COEプログラム「統合創薬の開拓」若手研究者の会」研究交流会 京都	Pharmaceutical University) Masayuki Yamashita, Navnath D. Yadav, ○Satoshi Yamaguchi, Ikuo Kawasaki, Shunsaku Ohta (Department of Functional Molecular Chemistry, Kyoto Pharmaceutical University)
168.メラニン生合成阻害活性天然物 (-)-Linderol A の不斉全合成研究	共	2005年11月24日	第25回有機合成若手セミナー 明日の有機合成を担う人のために 神戸, 神戸大学	山下正行, 佐脇 剛, ○隅田有人, 高尾郁子, 川崎郁勇, 太田俊作
169.イオン性液体中で使用可能な新規不斉金属触媒の開発	共	2005年11月24日	第25回有機合成若手セミナー 明日の有機合成を担う人のために 神戸, 神戸大学	川崎 郁勇, 辻 智子, ○千原 佳子, 山下 正行, 太田 俊作
170. 3-アルケニルインドール誘導体の環化二量化反応	共	2005年11月8日	31 回反応と合成の進歩シンポジウム 神戸	○川崎 郁勇, 寺野 雅美, 久留米 愛, 道祖 友美子, 山下 正行, 太田 俊作
171. 不斉光 [2+2] 環化付加反応による (-)-Linderol A の合成研究	共	2005年10月29日	55回近畿支部 西宮市, 武庫川女子大学薬学部	山下正行, ○佐脇 剛, 高尾郁子, 杉本泰子, 宮武朱美, 川崎郁勇, 太田俊作
172. イオン性液体中で用いる新規不斉金属触媒の開発	共	2005年10月29日	55回近畿支部 西宮市, 武庫川女子大学薬学部	川崎 郁勇, ○辻 智子, 山口 朋子, 米澤 知子, 渋谷 博己, 山下 正行, 太田 俊作
173. 複素環化合物の二量化反応を基盤とする天然物およびその類縁体の合成研究	共	2005年10月29日	55回近畿支部 西宮市, 武庫川女子大学薬学部	寺野 雅美, 久留米 愛, 山下 正行, 太田 俊作 複素環化合物の二量化反応を利用することにより、高度に官能基化された化合物の位置および立体選択的な反応の開発とそれらを天然物およびその類縁体の合成へ応用した。
174. Benzo[b]cyclobuta[d]pyran-3-one 誘導体とイオウイリドの反応	共	2005年10月26日	35回複素環化学討論会 大阪	山下正行, ○Yadav Navnath D., 長濱正樹, 稲葉知輝, 川崎郁勇, 太田俊作
175. Reaction of Benzo[b]cyclobuta[d]pyran-3-one Derivatives with Sulfur Ylide	共	2005年10月19日	15th International Symposium on Fine Chemistry and Functional Polymers (FCFP-XV) & IUPAC 1st International Symposium on Novel Materials and their Synthesis (NMS-1), Shanghai China	Masayuki Yamashita, ○Yadav Navnath D., Masaki Nagahama, Tomoki Inaba, Ikuo Kawasaki, Shunsaku Ohta
176. Synthetic Study of Scepterin, a Pyrrole-Imidazole Marine Alkaloid, Having Various Biological Activities	共	2005年9月17日	International Symposium; “New Developments in Synthetic Organic Chemistry of Natural Products and Medicines”	○Abdul Khadeer, Akiko Kakuno, Ikuo Kawasaki, Masayuki Yamashita, Shunsaku Ohta

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
177. Transformation Reactions of Benzo [b]cyclobuta[d]pyran-3-one Derivatives with Dimethylsulfoxonium Methylide	共	2005年9月17日	：国際シンポジウム；創薬・天然物－有機合成化学の展望－ 京都 International Symposium; “New Developments in Synthetic Organic Chemistry of Natural Products and Medicines” ：国際シンポジウム；創薬・天然物－有機合成化学の展望－ 京都	Masayuki Yamashita, ○Yadav Navnath D., Masaki Nagahama, Tomoki Inaba, Ikuo Kawasaki, Shunsaku Ohta
178. A recyclable catalyst for asymmetric transfer hydrogenation with a formic acid-triethylamine mixture in ionic liquid	共	2005年8月2日	20th International Congress of Heterocyclic Chemistry, Palermo, Italy	Ikuo Kawasaki, ○Tomoko Tsuji, Tomoko Yonezawa, Masayuki Yamashita, Shunsaku Ohta, Yoshiji Takemoto, Hideto Miyabe
179. Double nucleophilic reaction to the imidazole nucleus	共	2005年8月2日	20th International Congress of Heterocyclic Chemistry, Palermo, Italy	○Ikuo Kawasaki, Tomohisa Osaki, Kentaro Sato, Kayo Itakura, Masayuki Yamashita, Shunsaku Ohta
180. 活性酸素消去能を有するジヒドロピリジン誘導体の酸化還元挙動	共	2005年6月4日	第27回日本フリーラジカル学会学術集会 岡山	中西郁夫, 上林将人, ○川島知憲, 田草川光子, 川口久美子, 大久保 敬, 金澤秀子, 川崎郁勇, 山下正行, 太田俊作, 福住俊一, 小澤俊彦, 伊古田暢夫
181. 抗酸化活性を有するジヒドロピリジン誘導体の酸化還元挙動	共	2005年3月28日	日本化学会第85春季年会 神奈川	○中西郁夫, 上林将人, 大久保敬, 川崎郁勇, 山下正行, 太田俊作, 小澤俊彦, 福住俊一, 伊古田暢夫
182. 4(5)-ホルミル-1H-イミダゾールの位置選択的N-アルキル化におけるZnI ₂ の添加効果	共	2005年3月	日本薬学会第125年会 東京	川崎郁勇, 森元俊晴, ○辻 智子, 山口智史, 千原佳子, 山下正行, 太田俊作 (京都薬大)
183. 種々の5-アルケニルイミダゾール誘導体の[4+2]環化付加反応	共	2005年3月	日本薬学会第125年会 東京	川崎郁勇, ○角田和哉, 治郎丸雅子, 久留米愛, 森元俊晴, 山下正行, 太田俊作
184. 種々の3-アルケニルインドール誘導体の環化二量化反応	共	2005年03月	日本薬学会第125年会 東京	寺野雅美, 矢田恵利香, 川井美和, 原 智子, 山下正行, 太田俊作 種々の3-アルケニルインドール誘導体の酸性条件化による環化二量化反応
185. Synthetic Study of scep trin a Pyrrole-Imidazole Marine Alkaloids, Having Various Biological Activities	共	2005年2月5日	難治性疾患の克服をめざした創薬科学研究発表会 京都	○Abdul Khadeer, 角野晶子, 川崎郁勇, 山下正行, 太田俊作
186. 種々の5-アルケニルイミダゾール誘導体	共	2005年2月5日	難治性疾患の克服をめざした創薬科	○角田和哉, 川崎郁勇, 山下正行, 太田俊作

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
の[4+2]環化付加反応と生物活性海洋天然物の合成研究			学研究発表会 京都	
187. 生物活性を有するジベンゾフラン系天然物の合成	共	2005年2月5日	難治性疾患の克服をめざした創薬科学研究発表会 京都	○山下正行, 太田延一, 稲葉知輝, 清水 崇, 高尾郁子, 川崎郁勇, 太田俊作
188. 3-アルケニルインドール誘導体の新規環化二量化反応	共	2004年11月18日	34回複素環化学討論会 金沢	寺野雅美, 山下正行, 太田俊作
189. 3-Alkenylindole 誘導体の新規環化二量化反応	共	2004年10月23日	54回近畿支部 神戸市, 神戸学院大学	3-アルケニルインドール誘導体の酸性条件下による、新規環化二量化反応の開発 川崎郁勇、○寺野雅美、川井美和、原 智子、矢田恵利香、山下正行、太田俊作
190. 1-エキソ、1-エンド置換2a-ベンゾイル-1,2-2a,8b-テトラヒドロ-3H-ベンゾ[b]シクロプタ[d]ピラン-3-オン誘導体とイオウイリドとの反応	共	2004年10月23日	54回近畿支部 神戸市, 神戸学院大学	山下正行、○佐脇 剛、長濱正樹、稲葉知輝、川崎郁勇、太田俊作
191. 立体選択的 1-exo-および 1-endo- 置換 1,2,2a,8b-tetrahydro-3H-benzo[b]cyclobuta[d]pyran-3-one 誘導体の合成と立体化学決定法について	共	2004年3月30日	薬学会 124年会 大阪	○山下正行、長濱正樹、稲葉知輝、高尾郁子、川崎郁勇、太田俊作
192. イミダゾール誘導体を用いる触媒的不斉反応の開発	共	2004年3月30日	薬学会 124年会 大阪	○川崎郁勇、角田和哉、島田 健、野田祐子、山下正行、太田俊作
193. クマリン誘導体とアルケンやアルキンとの光[2+2]環化付加体に対するS-イリドの反応	共	2003年12月9日	有機合成若手セミナー 明日の有機合成を担う人のために 奈良市, 奈良女子大学	山下正行、稲葉知輝、清水 崇、○長濱正樹、高尾郁子、川崎郁勇、太田俊作
194. クマリン誘導体とアルキンの光[2+2]環化付加成績体とジメチルスルホキシニウムメチリドとの反応	共	2003年11月1日	53回近畿支部 枚方市, 摂南大学薬学部	山下正行、○長濱正樹、深尾絢子、辻智子、山田昌輝、川崎郁勇、太田俊作
195. Liderol A の絶対構造の解明および(+)体、(-)体の全合成	共	2003年11月1日	53回近畿支部 枚方市, 摂南大学薬学部	山下正行、清水崇、○高尾郁子、高田藍、藤井良治、川崎郁勇、太田俊作
196. 生理活性イミダゾール系海洋天然物 Ageliferin 類の全合成研究	共	2003年10月20日	29回反応と合成の進歩シンポジウム 岐阜	川崎郁勇、○森元俊晴、渡邊倫子、江坂藍、善積司行、山下正行、太田俊作
197. (-)-Liderol A の絶対配置の決定と (-)-および(+) - Liderol Aの全合成	共	2003年10月20日	29回反応と合成の進歩シンポジウム 岐阜	○山下正行、清水崇、高田藍、藤井良治、川崎郁勇、太田俊作
198. イミダゾール環への新規求核反応	共	2003年10月15日	33回複素環化学討論会 札幌	太田俊作、佐藤健太郎、○川崎郁勇、尾崎朋久、山口裕子、岡崎秀平、山下正行
199. Synthetic Study of Pyrrole-imidazole Alkaloids, Marine Natural Products Having Various Biological	共	2003年10月15日	5th AFMC International Medicinal Chemistry Symposium, AIMECS 03, Kyoto	I. Kawasaki, ○A. Khadeer, N. Sakaguchi, A. Kakuno, T. Morimoto, M. Yamashita, S. Ohta

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
Activities				
200. (1-Methyl-2,5-dioxo-3-imidazolin-4-yl)amino 基を有する抗腫瘍性イミダゾール系海洋天然物の全合成	共	2003年10月6日	45 回天然有機化合物討論会 京都	中村誠宏, ○川崎郁勇, 山下正行, Kenneth F. Bastow, Kuo-Hsiung Lee, 太田俊作
201. Regioselective Condensation of 1-Methyl-3-trimethylsilylimidazolidinetrione with Primary Amines	共	2003年8月14日	Regioselective Condensation of 1-Methyl-3-trimethylsilylimidazolidinetrione with Primary Amines	Seikou Nakamura, ○Ikuo Kawasaki, Masami Terano, Masayuki Yamashita, Shunsaku Ohta
202. A Determination of the Absolute Stereochemistry of (-)-Liderol A	共	2003年8月12日	19th International Congress of Heterocyclic Chemistry, Fort Collins, Colorado, USA	○Masayuki Yamashita, Takashi Shimizu, Ikuko Takao, Nobukazu Ohta, Ikuo Kawasaki, Shunsaku Ohta
203. イミダゾール環への新規求核付加反応	共	2003年5月23日	第1回次世代を担う有機化学シンポジウム 東京	太田俊作, 佐藤健太郎, 尾崎朋久, 山下正行 イミダゾール環へ求核剤が二分子反応する、新規求核付加反応の開発
204. 1,3-ジ置換パラバン酸と Wittig 試薬との反応とその応用	共	2003年3月27日	薬学会 123年会 長崎	○川崎郁勇, 道免あかね, 山内一也, 山下正行, 太田俊作
205. Benzo[b]cyclobutadipyran 誘導体の骨格変換反応の検討	共	2003年3月27日	薬学会 123年会 長崎	山下正行, ○長濱正樹, 稲葉知輝, 深尾絢子, 川崎郁勇, 太田俊作
206. 1-Methyl-3-trimethylsilylparabanic acid の反応とその応用	共	2002年12月10日	第22回 有機合成若手セミナー 明日の有機合成を担う人のために 神戸市, 神戸薬科大学	中村誠宏, ○川崎郁勇, 山下正行, 太田俊作
207. 第一級アミンと1-メチル-3-トリメチルシリルパラバン酸の縮合を鍵反応とするイミダゾール系海洋天然物の全合成	共	2002年12月5日	32回復素環化学討論会 徳島	○中村誠宏, 川崎郁勇, 山下正行, 太田俊作
208. 3位置換クマリン誘導体とアルケンの光[2+2]付加環化反応成績体とスルホキソニウムメチリドとの反応-(±)-Liderol A 全合成の短工程化-	共	2002年11月5日	28回反応と合成の進歩シンポジウム 多摩	○山下正行, 稲葉知輝, 清水崇, 小坂祥子, 辻野仁志, 三浦久未子, 川崎郁勇, 太田俊作
209. Bischler-Napieralsky 反応における閉環位置の変化に関する検討	共	2002年10月19日	52回近畿支部 東大阪市, 近畿大学	安藤裕子, 桑田納子, ○大石義孝, 國友順一 (武庫川女大), 太田俊作, 山下正行, 川崎郁勇 (京都薬大)
210. 第一級アミンと1-メチルパラバン酸の位置選択的縮合反応の改良とイミダゾール系海洋天然物合成への応用	共	2002年10月19日	52回近畿支部 東大阪市, 近畿大学	○中村誠宏, 萩原すみれ, 川崎郁勇, 山下正行, 太田俊作
211. 2-(1-Chloro-2,2-	共	2002年10月	'02 10/19 (52回近	太田俊作, ○佐藤健太郎, 西尾さところ, 山口裕子, 山下正行, 川崎

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
dimethylpropyl)-1-methyl-1H-imidazole hydrochloride への炭素求核種の反応		19日	畿支部 東大阪市, 近畿大学)	郁勇
212.5(4)-alkentlimidazole 類の新規 Diels-Alder 二量化反応を鍵とする生理活性海洋天然物 Ageriferins の全合成研究		2002年10月10日	44 回天然有機化合物討論会 東京	○川崎郁勇, 阪口範大, 角野晶子, 森元俊晴, 山下正行, 太田俊作
213. Diels-Alder dimerization of 5-alkentlimidazoles and its application to the synthesis of ageliferin	共	2002年9月30日	16th French-Japanese Symposium on Medicinal and Fine Chemistry	Ikuo Kawasaki, Norihiro Sakaguchi, Norie Fukushima, Naoko Fujioka, Fumi Nikaido, Akiko Kakuno, Masayuki Yamashita and ○Shunsaku Ohta
214. 1-アリアルペンゾ [b]シクロプロタ[d]ピラン誘導体の1位置換基の立体配置の決定法	共	2002年8月3日	第29回 有機反応懇談会 京都	山下正行, ○清水崇, 三浦久未子, 川崎郁勇, 太田俊作
215. イミダゾール環への炭素求核種の反応	共	2002年8月3日	第29回 有機反応懇談会 京都	太田俊作, ○佐藤健太郎, 西尾さところ, 山口裕子, 山下正行, 川崎郁勇
216. 2-フェニルチオイミダゾリウム塩の各種求核剤との反応とその海洋天然物合成への応用	共	2001年11月6日	27回反応と合成の進歩シンポジウム 仙台	川崎郁勇, ○中村誠宏, 柳谷聡美, 小杉文里, 長濱正樹, 山下正行, 太田俊作
217. 2-フェニルチオイミダゾリウム塩と窒素求核種の反応及びその海洋天然物 Naamine B 全合成への応用	共	2001年3月29日	日本薬学会 121年会 札幌	川崎郁勇, ○中村誠宏, 角野晶子, 柳谷聡美, 道免あかね, 山下正行, 太田俊作
218. Total Synthesis of Marine Alkaloids: Naamidine and Pyronaamidine	共	2000年12月17日	2000 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies, Honolulu, USA	○Seiokou Nakamura, Shunsaku Ohta, Mieko Fujieda, Miyuki Matsuda, Tomoko Yashida, Naoki Tsuno, Masayuki Yamashita, and Ikuo Kawasaki
219. Total Synthesis of Tetrahydrodibenzofuran Natural Product: A Potent Melanin Biosynthesis Inhibitor	共	2000年12月17日	2000 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies, Honolulu, USA	○Nobukazu Ohta, Masayuki Yamashita, Ikuo Kawasaki, and Shunsaku Ohta
220. Nucleophilic Addition of Amines to the 4- and 5-Position of Imidazole Nucleus	共	2000年12月16日	(2000 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies, Honolulu, USA	○Tomohisa Osaki, Shunsaku Ohta, Ikuo Kawasaki, and Masayuki Yamashita

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
221. Stereocontrolled Synthesis of Chiral Oxa- and Azacycles via Asymmetric Horner-Wadsworth-Emmons reaction	共	2000年3月26日	219th ACS National Meeting, San Francisco, USA	○Tobias Rein, Lauri Vares, Ikuo Kawasaki, Anders Lüdorf, Karina Nielsen
222. A Novel Rearrangement from Coumarin to Cyclopenta[b]benzofuran	共	1999年8月2日	17th International Congress of Heterocyclic Chemistry, Vienna	○Masayuki Yamashita, Ikuo Kawasaki, Nobukazu Ohta, Shunsaku Ohta
223. Total Synthesis of Naturally Occurring 3-Alkanoyl-5-hydroxymethyltetronic Acid Homologues, HIV-protease Inhibitor	共	1999年8月2日	17th International Congress of Heterocyclic Chemistry, Vienna	Masayuki Yamashita, Asmita Mittra, Hiromichi Murai, Ikuo Kawasaki, ○Shunsaku Ohta
224. Total Synthesis of Marine Imidazole Alkaloids: Clathridine, Pyronaamidine, Isonaamidine and Related Compounds	共	1999年8月2日	17th International Congress of Heterocyclic Chemistry, Vienna	Masayuki Yamashita, Ikuo Kawasaki, ○Naoki Tsuno, Seikou Nakamura, Norio Taguchi, Shunsaku Ohta
225. Asymmetric Horner-Wadsworth-Emmons Reaction with Meso Substrates: Scope, Mechanism, and Synthetic Applications	共	1998年7月13日	XIV International Conference on Phosphorus Chemistry, Cincinnati	Lauri Vares, Ikuo Kawasaki, Torben Pedersen, Peter Brandt, ○Tobias Rein
226. Synthetic approaches to alkaloid building blocks by asymmetric Wittig-type reactions	共	1997年10月25日	Træf for Organisk Kemi Studerende, Odense	○Ikuo Kawasaki, Tobias Rein
227. TOTAL SYNTHESIS OF KEALIIQUINONE, AN IMIDAZOLE MARINE ALKALOID	共	1997年8月11日	16th International Congress of Heterocyclic Chemistry, Bozeman	○Ikuo Kawasaki, Norio Taguchi, Masayuki Yamashita, Shunsaku Ohta
228. TOTAL SYNTHESIS OF KEALIIQUINONE, AN IMIDAZOLE MARINE ALKALOID	共	1997年6月9日	16:e Organiskerdagarna, Uppsala	○Ikuo Kawasaki, Norio Taguchi, Masayuki Yamashita, Shunsaku Ohta
229. イミダゾール環への窒素官能基導入法の開発と天然物合成への応用	共	1996年10月27日	46回近畿支部 枚方市, 大阪工大摂南大学学舎	○川崎郁勇, 田口典生, 米田陽子, 久保賀奈子, 坂口峰加, 山下正行, 太田俊作
230. インドール誘導体の位置選択的アリール化と海洋天然物 nortopsentins の全	共	1995年11月30日	21回反応と合成の進歩シンポジウム 京都	○川崎郁勇, 高瀬智宏, 山下正行, 太田俊作

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
合成への応用				
231. イミダゾール系海洋アルカロイド、トプセンチンおよびケアリキノンの全合成	共	1995年11月7日	26回複素環化学討論会 大津	○川崎郁勇, 田口典生, 勝間英雄, 山下正行, 太田俊作
232. TOTAL SYNTHESIS OF AN IMIDAZOLE MARINE ALKALOID, TOPSENTIN	共	1995年8月7日	15th International Congress of Heterocyclic Chemistry, Taipei	Ikuo Kawasaki, Hideo Katsuma, Masayuki Yamashita, ○Shunsaku Ohta
233. イミダゾール環の位置選択的アリール化とnortopsentin 全合成への応用	共	1994年11月2日	20回反応と合成の進歩シンポジウム 静岡	○川崎郁勇, 山下正行, 太田俊作
234. 1,2,3-トリアゾールの位置選択的置換基導入	共	1994年10月23日	44回近畿支部 神戸薬大	太田俊作, ○植村崇宏, 国居大伸, 山下正行, 川崎郁勇
235. イミダゾールの位置選択的アリール化反応 II: 生理活性天然物 nortopsentin の合成	共	1994年10月23日	44回近畿支部 神戸薬大	○川崎郁勇, 吉岡誠通, 村田晃子, 守屋嘉子, 山下正行, 太田俊作
236. アゾール環炭素への位置選択的置換基導入法と抗腫瘍性天然物合成への応用	共	1993年11月10日	24回複素環化学討論会 大阪	太田俊作, 川崎郁勇, ○山下正行, 山本徹也
237. 生理活性3位置換イソクマリン系化合物の合成研究	共	1993年11月6日	19回反応と合成の進歩シンポジウム 金沢	太田俊作, 鎌田靖弘, ○川崎郁勇, 山下正行
238. N-Protected imidazoleの位置選択的アリール化反応	共	1993年3月30日	日本薬学会 113年会 大阪	太田俊作, ○川崎郁勇, 山下正行, 柴田学, 流森恵美, 港晶雄
239. 1-アルキル-1H-イミダゾールの4位および5位への選択的置換基導入について(その2)	共	1992年10月25日	42回近畿支部 京都薬大	太田俊作, ○山本徹也, 長嶋雄一, 吉川智子, 川崎郁勇, 山下正行
240. N-アルキル-C-アシル-1,2,4-トリアゾールの位置異性体の合成	共	1991年3月29日	薬学会 111年会 東京	太田俊作, ○川崎郁勇, 岡橋孝侍, 山本徹也, 畠山祥子, 港晶雄
241. トリアゾール誘導体の合成と応用II, 1, 2,4-トリアゾールのアシル化	共	1990年10月28日	40回近畿支部 神戸学院	太田俊作, ○川崎郁勇, 福野晃久, 山本徹也
242. オルトギ酸エステル合成とその応用	共	1990年8月21日	薬学会 110年会 札幌	太田俊作, ○川崎郁勇, 川口三津子, 竹中晴美, 藤岡靖弘
3. 総説				
1. ファルマシア, 40 (5), 435-436 (2004).	単	2004年5月	日本薬学会	「触媒的C-H結合官能基化によるN-無保護複素環の選択的C-アリール化」に関して、その反応機構、利用範囲等について解説した。
2. ファルマシア, 35 (6), 592-593 (1999).	単	1999年6月	日本薬学会	「水素結合を利用した分子カプセル」に関して、その原理、応用等について解説した。
3. Phosphorus, Sulfur and Silicon, 144-146, 169-172 (1999)	共	1999年	Phosphorus, Sulfur and Silicon	「Asymmetric Horner-Wadsworth-Emmons Reactions with meso-dialdehydes: Scope, Mechanism, and Synthetic Applications」に関して、反応機構、合成的応用について左記総説にて解説した。
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. 日本学術会議 薬学委員会 薬学教育分科会 大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 薬学分野（4年制教育を中心として）	共	2017年8月	日本学術会議	日本薬学会教育委員として、日本学術会議 薬学委員会 薬学教育分科会 大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 薬学分野（4年制教育を中心として）の公表に協力した
2. 日本薬学会 第2回若手薬学教育者のためのアドバンスワークショップ報告書	共	2017年6月	日本薬学会	日本薬学会 第2回若手薬学教育者のためのアドバンスワークショップの実行委員長として報告書をまとめた
6. 研究費の取得状況				
1. 平成26年度武庫川女子大学科学研究費補助金学内奨励金	単	2014年	武庫川女子大学	複素環の特性を利用する実用可能な環境調和型効率的有機合成反応の開発とその応用
2. 基盤研究（C） 継続	単	2013年	文部科学省 科学研究費	複素環の特性を利用した環境調和型高効率的有機合成反応の開発とその応用
3. 基盤研究（C） 継続	単	2012年	文部科学省 科学研究費	複素環の特性を利用した環境調和型高効率的有機合成反応の開発とその応用
4. 基盤研究（C） 新規	単	2011年	文部科学省 科学研究費	複素環の特性を利用した環境調和型高効率的有機合成反応の開発とその応用
5. 基盤研究（C） 継続	単	2010年	文部科学省 科学研究費	複素環の特性を利用した環境調和型有機合成反応の開発と応用
6. 基盤研究（C） 継続	単	2009年	文部科学省 科学研究費	複素環の特性を利用した環境調和型有機合成反応の開発と応用
7. 平成20年度産学連携プロジェクト研究 継続	共	2008年	私立大学学術研究高度化推進事業	受容体分子を標的とする新規制癌剤の創製
8. 基盤研究（C） 新規	単	2008年	文部科学省 科学研究費	複素環の特性を利用した環境調和型有機合成反応の開発と応用
9. 平成19年度科学研究費補助金学内奨励金（武庫川女子大学） 新規	単	2007年	武庫川女子大学	複素環の特性を利用した高効率的環境調和型合成反応の開発研究
10. 平成15年度私立大学教育研究高度化推進特別補助	共	2003年	大学院整備重点化経費-研究科共同研究経費	イオン性液体およびマイクロ波を用いる環境調和型有機合成反応の開発
11. 平成14年度科学研究費補助金若手研究（B）	単	2002年	文部科学省 科学研究費	イミダゾール含有生理活性海洋天然物並びに関連化合物の合成研究
12. 平成14年度私立大学教育研究高度化推進特別補助	共	2002年	大学院整備重点化経費-研究科共同研究経費	イオン性液体およびマイクロ波を用いる環境調和型有機合成反応の開発
13. 平成13年度科学研究費補助金 奨励研究（A）	単	2001年	文部科学省 科学研究費	イミダゾール含有生理活性海洋天然物並びに関連化合物の合成研究
学会及び社会における活動等				
年月日	事項			
1. 2024年10月5日	第74回日本薬学会関西支部大会・総会 実施実行副委員長			
2. 2023年4月～2024年3月	文部科学省 令和5年度文部科学省薬学教育指導者のためのワークショップ実行委員			
3. 2023年4月～2024年3月	薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構 実務実習指導薬剤師養成小委員会 委員（令和5年度）			
4. 2023年4月～2024年3月	令和5年度日本薬学会関西支部委員			
5. 2022年4月～2023年3月	文部科学省 令和4年度文部科学省薬学教育指導者のためのワークショップ実行委員			
6. 2022年4月～2023年3月	薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構 実務実習指導薬剤師養成小委員会 委員（令			

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
6. 研究費の取得状況	
7. 2022年4月～2023年3月	和4年度) 令和4年度日本薬学会関西支部委員
8. 2021年4月～2022年3月	文部科学省 令和3年度文部科学省薬学教育指導者のためのワークショップ実行委員
9. 2021年4月～2022年3月	日本薬学会 第11回全国学生ワークショップ実行委員
10. 2021年4月～2022年3月	薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構 実務実習指導薬剤師養成小委員会 委員（令和3年度）
11. 2021年4月～2022年3月	令和3年度日本薬学会関西支部委員
12. 2020年4月～2021年3月	日本薬学会 第10回全国学生ワークショップ実行委員
13. 2020年4月～2021年3月	薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構 実務実習指導薬剤師養成小委員会 委員（令和2年度）
14. 2020年4月～2021年3月	令和2年度日本薬学会近畿支部委員
15. 2019年4月～2020年3月	日本薬学会 第5回若手薬学教育者のためのアドバンストワークショップ実行委員
16. 2019年4月～2020年3月	日本薬学会 第9回全国学生ワークショップ実行委員
17. 2019年4月～2020年3月	薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構 実務実習指導薬剤師養成小委員会 委員（平成31年度）
18. 2019年4月～2020年3月	平成31年度日本薬学会近畿支部委員
19. 2018年4月～2019年3月	日本薬学会 第4回若手薬学教育者のためのアドバンストワークショップ実行委員
20. 2018年4月～2019年3月	日本薬学会 第8回全国学生ワークショップ実行委員
21. 2018年4月～2019年3月	薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構 実務実習指導薬剤師養成小委員会 委員（平成30年度）
22. 2018年4月～2019年3月	平成30年度日本薬学会近畿支部委員
23. 2018年2月～2018年3月	薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構 臨床準備教育の評価策定に関する協議会タスクフォース
24. 2017年4月～2018年3月	日本薬学会 第3回若手薬学教育者のためのアドバンストワークショップ実行委員
25. 2017年4月～2018年3月	日本薬学会 第7回全国学生ワークショップ実行委員
26. 2017年4月～2018年3月	日本薬学会 平成29年度 薬学教育委員会 委員
27. 2017年4月～2018年3月	薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構 実務実習指導薬剤師養成小委員会 委員（平成29年度）
28. 2017年4月～2008年3月	平成29年度日本薬学会近畿支部委員
29. 2016年4月～現在	日本薬学会教育学会 会員
30. 2016年4月～2017年3月	日本薬学会 平成28年度 薬学教育委員会 委員
31. 2016年4月～2017年3月	日本薬学会 平成28年度 薬学教育委員会 委員
32. 2016年4月～2017年3月	薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構 実務実習指導薬剤師養成小委員会 委員（平成28年度）
33. 2016年4月～2017年3月	平成28年度日本薬学会近畿支部委員
34. 2016年4月～2017年3月	日本薬学会 第6回全国学生ワークショップ実行委員
35. 2016年4月～2017年3月	日本薬学会 第2回若手薬学教育者のためのアドバンストワークショップ(第6回薬学教育者のためのアドバンストワークショップ)実行委員長
36. 2015年9月～2017年3月	平成27年度文部科学省委託事業 日本薬学会 薬学教育の改善・充実に関する調査研究(海外の薬学教育との比較調査)委員会委員
37. 2015年9月～2017年3月	平成27年度文部科学省委託事業 日本薬学会 薬学参照基準作成作業部会委員
38. 2015年4月～2016年3月	日本薬学会 平成27年度 薬学教育委員会 委員
39. 2015年4月～2016年3月	薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構 実務実習指導薬剤師養成小委員会 委員（平成27年度）
40. 2015年4月～2016年3月	平成27年度日本薬学会近畿支部委員
41. 2015年4月～2016年3月	日本薬学会 第1回若手薬学教育者のためのアドバンストワークショップ(第5回薬学教育者のためのアドバンストワークショップ)実行委員
42. 2015年4月～2016年3月	日本薬学会 第5回全国学生ワークショップ実行委員
43. 2014年8月～2014年11月	日本薬学会 第4回薬学教育者のためのアドバンストワークショップ実行委員
44. 2014年5月～2014年8月	日本薬学会 第4回全国学生ワークショップ実行委員
45. 2014年4月1日～2015年3月31日	平成26年度日本薬学会近畿支部委員
46. 2014年4月1日～2015年3月31日	薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構 実務実習指導薬剤師養成小委員会 委員
47. 2013年7月～2013年8月	日本薬学会 第3回全国学生ワークショップ実行委員
48. 2013年4月1日～2014年3月31日	平成25年度日本薬学会近畿支部委員
49. 2013年4月1日～2014年3月31日	薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構 実務実習指導薬剤師養成小委員会 委員
50. 2012年4月1日～2013年3月31日	薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構 実務実習指導薬剤師養成小委員会 委員
51. 2011年4月1日～2012年3月31日	薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構 実務実習指導薬剤師養成小委員会 委員
52. 2010年4月1日～2011年3月31日	薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構 実務実習指導薬剤師養成小委員会 委員
53. 2007年1月～現在	有機合成化学協会 会員
54. 2007年1月～現在	日本薬学会 医薬化学部会 会員

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
6. 研究費の取得状況	
55. 1990年1月～現在	日本薬学会 会員